仙台市文化財調査報告書第 420 集

南 小 泉 遺 跡

第 68 次発掘調査報告書

2014 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市文化財調査報告書第 420 集

南 小 泉 遺 跡

第 68 次発掘調査報告書

2014 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残っています。当教育委員会といたしましては、市民の皆様からのご理解・ご協力のもと、これらの文化財を保存・活用し、次世代へ継承していけるように努めているところです。

本報告書は仙台市立遠見塚小学校のプール改築工事に伴い、平成 24 年度に実施しました南小泉遺跡第 68 次発掘調査成果をまとめたものです。

遠見塚小学校は、南小泉遺跡内に所在し、仙台市内最大の前方後円墳である国史跡遠見塚古墳が隣接しております。平成 21・22 年度に実施した遠見塚小学校の校舎改築工事に伴う発掘調査では、古墳時代の竪穴住居跡のほか、中世以降と考えられる掘立柱建物跡などが確認されております。今回の調査では、中世の竪穴建物跡などの遺構が見つかり、古墳時代から中近世の時期の遺物が出土しました。

本報告書が学術研究はもとより、市民の皆様にも広く活用され、地域の歴史と文化財に関心を抱く契機になれば幸いです。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、仙台市内も甚大な被害を受けました。現在仙台市は「ともに、前へ仙台　～ 3. 11 からの再生～」を掲げて復興計画を進めているところです。そうした中、本報告書刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申しあげる次第です。

平成 26 年 3 月

仙台市教育委員会

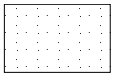
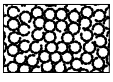
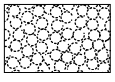
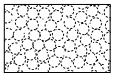
教育長　上田　昌孝

例　言

1. 本書は仙台市立遠見塚小学校のプール改築工事に伴い、平成 24 年度に実施した、南小泉遺跡第 68 次発掘調査の成果についてまとめたものである。
2. 本書の作成業務は仙台市教育委員会が株式会社吉田建設に委託して行った。
3. 報告書の作成にあたっては、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係主濱光朗・荒井　格・庄子裕美の監理の下、株式会社吉田建設が行った。
4. 原稿の執筆は下記のとおり分担し、これに庄子と荒井が補足した。
   庄子　裕美　第１章１　第６章１　　松井　智　第１章２～第５章
   中俣　茂　　第５章（出土遺物の記述）　　第６章２は庄子と松井が協議の上、松井が執筆した。
5. 石器石材は『標準原色図鑑全集６　岩石鉱物』（1977 年　保育社）を参考に、松井が経験的知識をもとに判定した。
6. 発掘調査及び報告書作成に際し、次の方からご指導・ご助言をいただいた。（敬称略）
   田中則和
7. 本調査の実施に際し、仙台市立遠見塚小学校及び仙台市教育委員会総務企画部学校施設課の協力を得た。
8. 発掘調査や報告書作成時の図面・写真・出土遺物などの全ての資料や記録は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　例

1. 第１図は国土地理院発行の５万分の１地形図「仙台」（平成 14 年）を、第２図は仙台市作成の都市計画基本図（平成 18 年）をそれぞれ修整して使用した。
2. 本書で使用した土色の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』（2006 年版）に基づいた。
3. 本書中の座標値は、日本測地系平面直角座標第Ｘ系を基準とし、標高値は T.P.（東京湾平均海面）を用いた。
   なお、座標値と海抜高度は、平成 23 年３月 11 日の東日本大震災後のものを使用している。
4. 本書に掲載した遺構図の縮尺は、遺構配置図は 1/100、個別遺構平面図・断面図は 1/40、1/60、1/100、1/150 として掲載した。
5. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器類は 1/3、石器（石鏃）は 1/1、磨製石斧は 1/2、石製品は 1/3（管玉・石製模造品は 1/2）を原則とし掲載した。
6. 遺構については以下の略号を使用し、種別毎に連番とした。なお、本報告書で「竪穴建物跡」とした遺構は、平面形が一辺３ｍ前後の隅丸方形を呈する竪穴状の遺構である。検出面から床面までの深さは 40 ～ 50㎝で、床面には周溝と壁柱穴を伴っている。また、付属施設として、底面が建物側に傾斜する張出し部が敷設されている。竪穴建物跡を構成する柱穴は「Ｐ」、それ以外のピットは「Pit」と表記した。
   ＳＡ：柱列跡　ＳＢ：掘立柱建物跡　ＳＤ：溝跡　ＳＩ：竪穴建物跡　ＳＫ：土坑　ＳＸ：性格不明遺構
   ＳＲ：自然流路跡
7. 土層名については基本層をローマ数字、遺構内堆積層をアラビア数字で表記した。
8. 遺構図で使用したスクリーントーンの凡例は、その都度挿図中に示した。
9. 出土遺物の登録には次の遺物記号を使用し、種別毎に通し番号を付した。
   Ａ：縄文土器　Ｂ：弥生土器　Ｃ：土師器（非ロクロ）　Ｄ：土師器（ロクロ調整・赤焼土器）　Ｅ：須恵器
   Ｆ：丸瓦　Ｉ：陶器　Ｊ：磁器　Ｋ：石器・石製品　Ｐ：土製品
10. 遺構観察表内の規模、遺物観察表内の法量で、（　）で示した数値は残存値を示し、－は計測不能を示した。
11. 土器・石器の実測図中スクリーントーンを貼付したものは次の状態を示している。

黒色処理

摩耗

敲打痕（強）

敲打痕（中）

敲打痕（弱）

12. 本文中の灰白色火山灰（山田・庄子 1980）は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田ａ火山灰（To － a)」と考えられている。

目　　次

第１章　調査に至る経緯と調査要項 …… 1

1. 調査に至る経緯 …… 1
2. 調査要項 …… 1

第２章　地理的環境と歴史的環境 …… 2

1. 地理的環境 …… 2
2. 歴史的環境 …… 2

第３章　調査の方法と経過 …… 3

1. 調査の方法 …… 3
2. 調査の経過 …… 4

第４章　基本層序 …… 5

第５章　検出遺構と出土遺物 …… 7

1. 竪穴建物跡 …… 7
2. 掘立柱建物跡 …… 17
3. 柱列跡 …… 19
4. 土坑 …… 20
5. 溝跡 …… 34
6. 性格不明遺構 …… 41
7. ピット …… 44
8. 自然流路跡 …… 44
9. 遺構外出土の遺物 …… 47

第６章　総括 …… 48

1. 竪穴建物跡について …… 48
2. まとめ …… 49

参考文献 …… 49

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第１図　周辺の遺跡 …… 2
第２図　調査区位置図 …… 4
第３図　柱状模式図・グリッド配置図 …… 5
第４図　遺構全体図 …… 6
第５図　SI1 竪穴建物跡 …… 7
第６図　SI1 竪穴建物跡出土遺物 …… 9
第７図　SI2 竪穴建物跡 …… 9
第８図　SI2 竪穴建物跡出土遺物 …… 11
第９図　SI3 竪穴建物跡 …… 11
第10図　SI3 竪穴建物跡出土遺物 …… 12
第11図　SI4 竪穴建物跡 …… 13
第12図　SI5 竪穴建物跡 …… 15
第13図　SI6 竪穴建物跡 …… 16
第14図　SB1・2 掘立柱建物跡 …… 17
第15図　SB1 掘立柱建物跡 …… 18
第16図　SB2 掘立柱建物跡 …… 18
第17図　SA1 柱列跡 …… 19
第18図　SA2 柱列跡 …… 19
第19図　SK 土坑（1） …… 23
第20図　SK 土坑（2） …… 24
第21図　SK 土坑（3） …… 25
第22図　SK 土坑（4） …… 26
第23図　SK 土坑出土遺物（1） …… 31
第24図　SK 土坑出土遺物（2） …… 32
第25図　SK 土坑出土遺物（3） …… 33
第26図　SD 溝跡（1） …… 35
第27図　SD 溝跡（2）・SX 性格不明遺構（1） …… 37
第28図　SD 溝跡（3） …… 38
第29図　SD 溝跡出土遺物（1） …… 39
第30図　SD 溝跡出土遺物（2） …… 40
第31図　SX 性格不明遺構（2） …… 41
第32図　SX10 性格不明遺構出土遺物 …… 43
第33図　Pit13 ピット出土遺物 …… 44
第34図　SR1 自然流路跡 …… 45
第35図　SR1 自然流路跡出土遺物 …… 46
第36図　遺構外出土遺物 …… 47

写真図版目次

写真図版１　調査区全景・竪穴建物跡群 …… 51
写真図版２　基本土層・竪穴建物跡 …… 52
写真図版３　竪穴建物跡・掘立柱建物跡 …… 53
写真図版４　掘立柱建物跡・柱列跡 …… 54
写真図版５　土坑 …… 55
写真図版６　土坑 …… 56
写真図版７　土坑 …… 57
写真図版８　土坑・溝跡 …… 58
写真図版９　溝跡 …… 59
写真図版10　溝跡・性格不明遺構・自然流路跡 … 60
写真図版11　竪穴建物跡・土坑出土遺物 …… 61
写真図版12　土坑出土遺物 …… 62
写真図版13　土坑出土遺物 …… 63
写真図版14　溝跡出土遺物 …… 64
写真図版15　溝跡・性格不明遺構・ピット出土遺物 … 65
写真図版16　自然流路跡・Ⅴ層出土遺物 …… 66

第 1 章　調査に至る経緯と調査要項

1. 調査に至る経緯

南小泉遺跡第 68 次調査は、仙台市立遠見塚小学校のプール改築計画に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

遠見塚小学校は、南小泉遺跡内のほぼ中央にあり、国史跡遠見塚古墳の西側に隣接している。

遠見塚小学校では耐震化を目的とした校舎等の改築工事が計画され、仙台市教育委員会学校施設課より、平成 21 年 6 月 3 日付、教総施第 543 号で「埋蔵文化財の発掘通知の進達について」（平成 21 年 7 月 1 日付、教生文第 150-7 号により県通知を伝達）が提出されている。この通知に基づいて、平成 21 年度に校舎部分、22 年度に屋内運動場部分の本発掘調査が実施され（第 62 次調査）、古墳時代中期と平安時代の竪穴住居跡、中世以降の掘立柱建物跡などが確認されている（仙台市教委 2012）。また、遠見塚小学校の南側では昭和 63 年度（第 17 次）と平成 8 年度（第 30 次）に発掘調査が実施され、古墳時代中期から後期の竪穴住居跡、中世の屋敷を区画する溝跡・掘立柱建物跡などで構成される屋敷跡が確認されている（仙台市教委 1990・1998）。

今回のプール改築工事範囲についても、このような周辺の調査結果から古墳時代から中世以降にかけての遺構と遺物が確認される可能性が高いと考えられ、本発掘調査を実施した。

2. 調査要項

遺　跡　名　　南小泉遺跡（宮城県遺跡登録番号　01021　仙台市登録番号Ｃ－102）
所　在　地　　宮城県仙台市若林区遠見塚一丁目 22 番地 1 号
調 査 主 体　　仙台市教育委員会
調 査 原 因　　仙台市立遠見塚小学校のプール改築計画に伴う発掘調査
調査対象面積　　839㎡

平成 24 年度調査体制

調 査 担 当　　仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係　　主事　庄子裕美　　専門員　篠原信彦
調 査 組 織　　株式会社イビソク　　主任調査員　服部英世　　調査員　稲垣裕二
調 査 期 間　　平成 24 年 9 月 27 日～平成 25 年 1 月 17 日
整 理 期 間　　平成 25 年 1 月 18 日～平成 25 年 3 月 26 日

平成 25 年度調査報告書作成刊行体制

調 査 担 当　　仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係　　主査　主濱光朗　　主査　荒井　格
　　主事　庄子裕美
調 査 組 織　　株式会社吉田建設　　主任調査員　松井　智　　調査員　中俣　茂
整 理 期 間　　平成 25 年 5 月 15 日～平成 26 年 3 月 31 日

第２章　地理的環境と歴史的環境

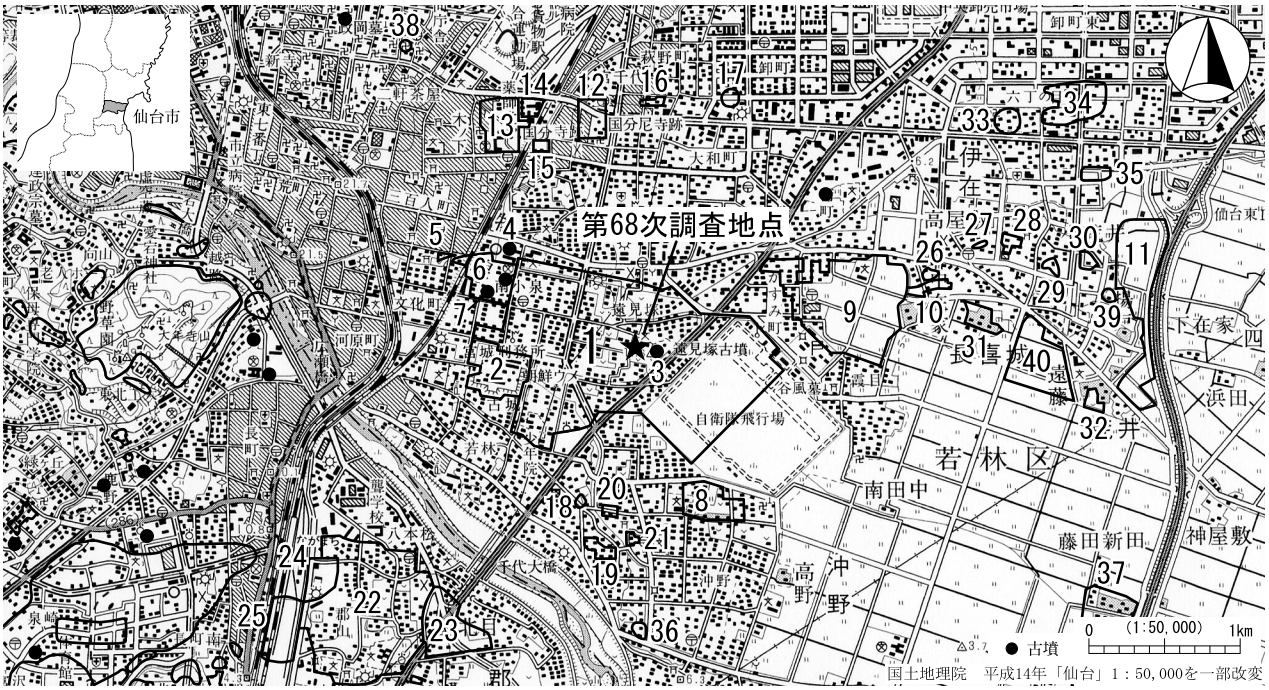
1. 地理的環境

南小泉遺跡は仙台市の東部に位置する。若林区の南小泉・遠見塚・古城・霞ノ目の各地区を含む東西約 2km、南北 1km を範囲とし、約 158ha に及ぶ広大な面積の遺跡である。

仙台市周辺の地形は西から東にかけて山地・丘陵地・台地・平地部分に分けられる。南小泉遺跡の所在する仙台市東部の沖積平野は、北は宮城県宮城郡七ヶ浜町から南は亘理郡山元町にかけて三日月形に広がる低地である。仙台市域では、この平野は地理的条件などから、広瀬川以北は霞ノ目低地、広瀬川と名取川の合流地点付近では川間の河地を郡山低地、名取川以南は名取低地の３つに区分されている。南小泉遺跡は、霞ノ目低地にあたる沖積平野の自然堤防上に立地し、遺跡内の標高は７～ 14 ｍである。

2. 歴史的環境

南小泉遺跡は、縄文時代から近世までの複合遺跡である。昭和 14 年から行われた霞ノ目飛行場拡張工事の際に、弥生時代から古墳時代にかけての多くの遺構や遺物が発見されたことをきっかけに、広く認識されるようになった。



No.	遺跡名	種　別	年　代	No.	遺跡名	種　別	年　代
1	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	縄文～近世	21	中欄西遺跡	散布地	弥生・古墳・古代
2	若林城跡	円墳・集落跡・城館跡	古墳・平安・中世・近世	22	郡山遺跡	官衙跡・寺院跡・包含地	縄文～奈良
3	遠見塚古墳	前方後円墳	古墳	23	北目城跡	城館跡・集落跡・水田跡	縄文～近世
4	法領塚古墳	円墳	古墳	24	西台畑遺跡	官衙跡・集落跡・墓域	縄文～弥生・飛鳥～中世
5	保春院前遺跡	集落跡	古代～近世	25	長町駅東遺跡	官衙跡・集落跡・水田跡・墓域	縄文～弥生・飛鳥～中世
6	養種園遺跡	集落跡・屋敷跡・包含地	縄文・古墳・平安～近世	26	中在家遺跡	包含地	平安
7	猫塚古墳	円墳	古墳	27	高屋敷遺跡	散布地	古墳・奈良・平安
8	沖野城跡	城館跡	中世	28	押口遺跡	河川跡・水田跡・包含地	弥生・古墳・平安～近世
9	仙台東郊条里跡	条里跡	奈良・平安	29	荒井畑中遺跡	散布地	古墳・奈良・平安・中世
10	中在家南遺跡	墓・水田跡・河川跡	弥生・古墳・平安～近世	30	荒井館跡	城館跡	中世
11	沓形遺跡	水田跡	弥生～平安	31	長喜城館跡	城館跡	中世
12	陸奥国分尼寺跡	寺院跡	奈良・平安	32	下荒井遺跡	散布地	平安
13	陸奥国分寺跡	寺院跡	奈良・平安	33	北屋敷遺跡	集落跡	平安・中世・近世
14	国分寺東遺跡	集落跡	平安・中世	34	明屋敷遺跡	散布地	平安
15	薬師堂東遺跡	集落跡・墓	奈良・平安・近世	35	地蔵浦遺跡	散布地	中世
16	志波遺跡	散布地	奈良・平安	36	河原越遺跡	散布地	古墳・奈良・平安
17	谷地館跡	城館跡	中世	37	藤田新田遺跡	集落跡・墓・水田跡	弥生・古墳・平安
18	砂押Ⅰ遺跡	散布地	古墳・古代	38	正雲寺遺跡	散布地	平安
19	砂押Ⅱ遺跡	散布地	古墳・古代	39	荒井広瀬遺跡	河川跡	弥生・古墳
20	神欄遺跡	官衙跡	古代	40	荒井南遺跡	水田跡	弥生

第１図　周辺の遺跡

現在まで 67 次に及ぶ発掘調査が行われ、東北地方における古墳時代中期の土師器の標識遺跡となっている。

縄文時代では、第 17 次で中期後葉から後期前葉期にあたる大木 10 式～南境式の土器が出土したほか、第 19 次では晩期の遺物包含層が確認されており、大洞Ａ式の縄文土器、剥片石器、礫石器などが出土している。

弥生時代では、遺構は土器棺墓が発見されたにとどまるが、遺物は弥生時代前期～後期の壺、甕、高坏などの土器のほか、石斧、石鏃、石庖丁などの石器類が多く出土しており、東北を代表する弥生時代の遺跡となっている。南小泉遺跡の東端から約 1km 東方の中在家南遺跡で、弥生時代中期の土壙墓や土器棺墓が発見され、旧河道からは弥生時代中期から中世に至る各時期の農具や建築材などの多様な木製品が出土している。中在家南遺跡から 1.5km 東方の沓形遺跡では、弥生時代中期中葉の津波堆積物に覆われて廃絶した水田跡が検出され、両遺跡の周辺には居住域などが形成されていたと考えられている。

古墳時代には、南小泉遺跡周辺や範囲内に、遠見塚古墳や法領塚古墳、猫塚古墳などの古墳が築かれる。古墳時代前期末葉に造られた遠見塚古墳は全長が 110 ｍあり、東北地方４番目の規模を誇る前方後円墳で、国指定史跡にされている。

南小泉遺跡では、今回の調査区に隣接する第 62 次調査区をはじめ、数か所で古墳時代中期から後期の竪穴住居跡からなる集落跡が確認されている。

奈良時代には南小泉遺跡の北側に陸奥国分寺や国分尼寺が造営され、奈良時代末から平安時代になると、南小泉遺跡でも竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが増加し、９世紀を中心とする集落が営まれている。

鎌倉・室町時代では、12 世紀末には掘立柱建物と土坑群から構成される屋敷跡が、13 世紀には大溝によって１町四方前後の方形もしくは台形に近い平面形に区画された屋敷が成立し、一部は 14 世紀中頃に廃絶するものの、15 世紀には新たな屋敷跡が成立している。また、12 世紀末から 14 世紀の道路跡や区画溝跡も確認されており、町場が形成されている可能性が指摘されている（田中 1999）。14 世紀後半には土塁を伴う城館跡も成立する。これらの成果から、城館の周辺に方形の屋敷を構えた中世村落の景観が復元されている。また、周辺の同時期の遺跡では今泉城跡、沖野城跡、長喜城跡などの沖積地に立地している平城がある。

第３章　調査の方法と経過

１．調査の方法

[野外調査作業] 計画時の調査区は南北方向に長い長方形であったが、立木の位置や敷地幅などの制約から、南西隅を調査対象から除外とした。方眼割付けは、今回の調査であらためて行った。東日本大震災により隣接する第 62 次調査区と、座標値の整合性がとりづらくなったことなどから、新たにグリッドを設定した。

日本測地系の座標基準による５ｍ単位の方眼割付けをして、グリッド名は北から南へアルファベット（Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ…）、西から東へアラビア数字（1・2・3・4…）で表記した。これらのグリッド名を用いて検出遺構、出土遺物の位置関係を管理した。

発掘調査にあたっては、まず重機を用いて盛土とⅠ～Ⅲ層を掘り下げた。Ⅳ層は調査区東壁際で部分的にしか確認できず、遺物も出土しなかったので、重機で掘り下げた。遺構確認面は、Ⅴ層の上面である。

検出した遺構については、調査の各段階にあわせて平面・断面などを図化した。平面の記録はトータルステーションを用いた電子平板、遺構断面の記録は実測、調査区東壁の基本土層は写真測量で行った。写真撮影は 35㎜一眼レフカメラと一眼レフデジタルカメラを使用した。全景写真は高所作業車を用いて撮影を行った。

[整理作業] 出土遺物は、全て通し番号を付けてラベル記入し、チャック付きポリ袋に封入、通し番号順にコンテナに収納した。

野外調査の写真は、スライドフィルムはケースに、モノクロフィルムはベタ焼きとともにアルバムに、デジタルカメラデータはリネームした上で DVD に納め、写真台帳を作成した。

遺構図は屋外調査で作成した DXF 形式の図面データを基にして、報告書図版に必要となる図面を編集した。手実測原図・平面図とも測量計算 CAD システム（ブルートレンド　福井コンピュータ株式会社）を使用して編集し、印

刷して図面ケースに収納した。

2. 調査の経過

現地発掘調査は平成 24 年度に、整理報告書刊行は平成 25 年度に行った。

平成 24 年度（現地発掘調査）

今回の調査は、遠見塚小学校のプール改築工事に先立って行ったものである。調査区は現在の屋内運動場（第 62 次調査区）の西隣りに位置する。

平成 24 年 9 月 27 日に、屋内運動場や小学校校庭と調査区を画する仮囲いを設置した後に、作業を開始した。表土の除去は、10 月 3 日から 12 日まで行った。第 62 次調査の結果を参考に、重機を使用して表土を掘り下げた。表土を除去すると、Ⅴ層を確認することができた。地表からは北側では約 1.2 m、南側では 0.7 mほどの深さである。

遺構検出作業は 10 月 15 日から開始した。遺構確認面はⅤ層上面で、攪乱の掘り上げも同時に行った。

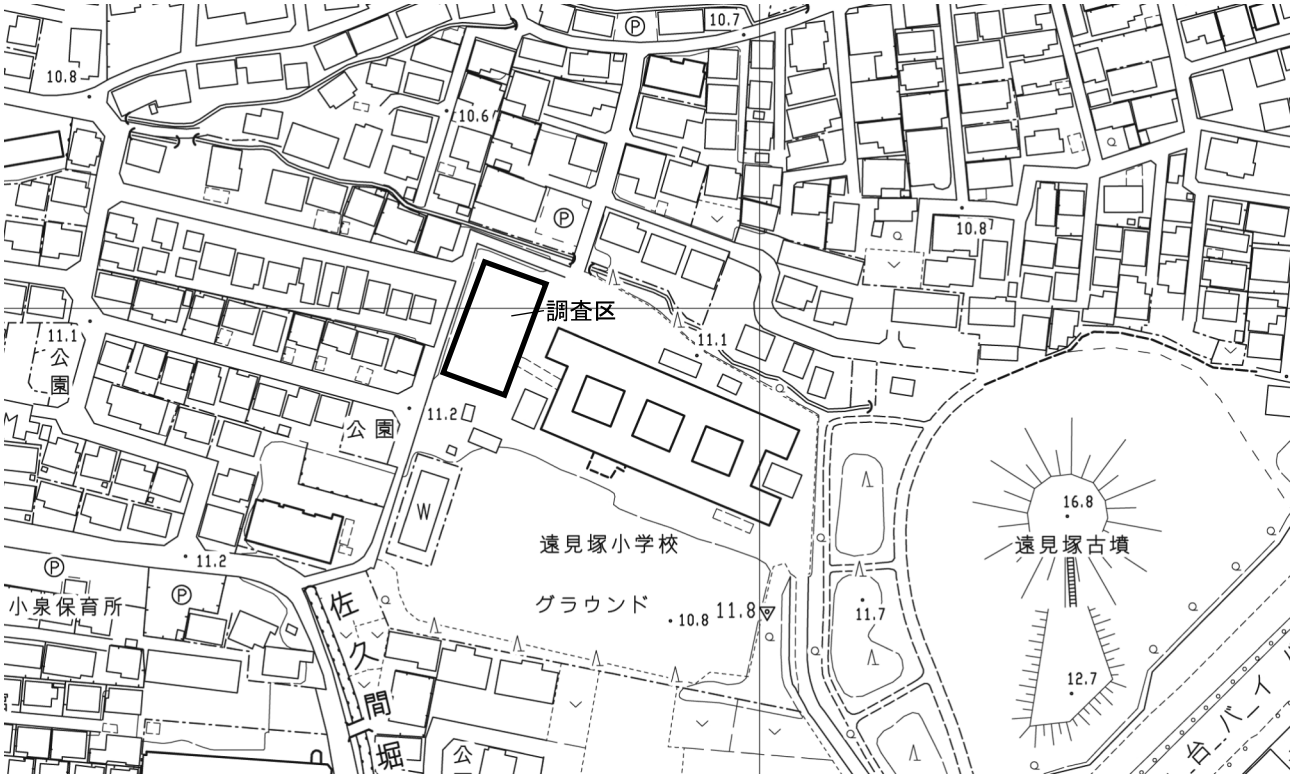
遺構の調査は 10 月 22 日から開始した。調査区中央部に位置する重複した土坑や竪穴建物跡群を中心に精査を進め、同時に周辺の遺構も並行して調査を行った。

調査区全景の写真撮影は、12 月 12 日に行った。竪穴建物跡群が重複している状況を記録するため、SX10 性格不明遺構を掘り下げる前に行った。撮影の後、竪穴建物跡群より古い SX10 性格不明遺構や SD12 溝跡などの調査区北側の溝跡や流路跡を調査した。

撤収は、平成 25 年 1 月 7 日から行い、11 日に埋戻し、17 日にフェンス撤去を終え、現地作業を終了した。

平成 25 年度（整理報告書作成刊行）

平成 25 年 5 月 20 日から出土遺物の水洗作業に着手した。水洗が終了した後、注記マシンを使用して注記した。注記の終了した遺物から接合作業に着手した。接合が終了した後、登録遺物を選定し、復元・補強を行った。報告書に掲載する遺物を抽出し、遺物の実測を行い、作図・点検を終えたものからトレース・拓本・写真撮影に進んだ。遺物整理と並行して遺構の図面合わせ・点検・編集を行い、遺構個別図を作成した後、遺物図と併せてレイアウトし、原稿執筆・編集を行った。

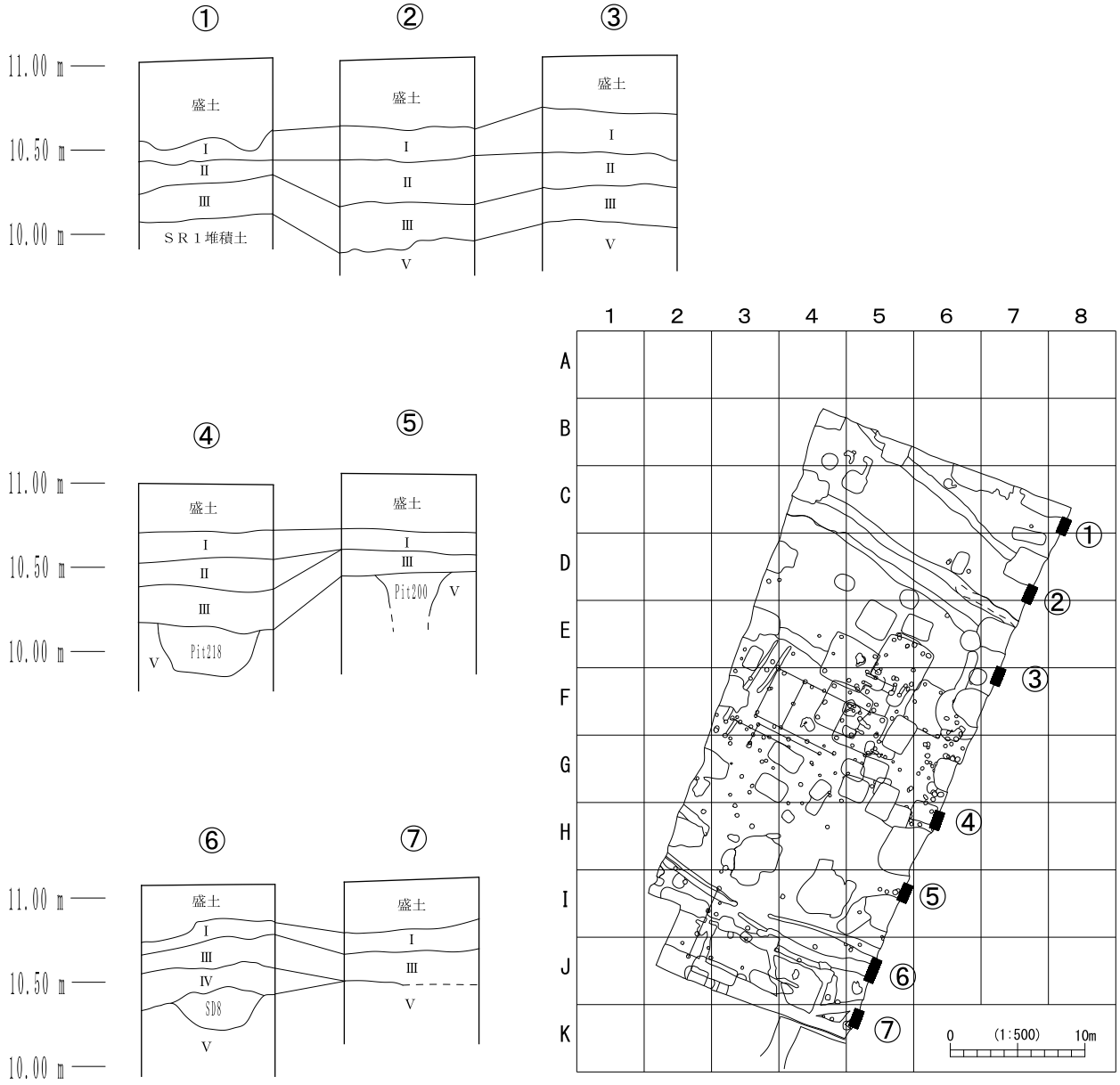


第 2 図　調査区位置図

第４章　基本層序

基本層序は、第62次調査の結果をもとに把握した。断面観察の結果、盛土とⅠ～Ⅴ層を確認できたが、Ⅳ層は調査区東壁際の南側に部分的に残存するのみである。

盛土は小学校建設時と考えられる造成地である。Ⅰ層は、厚さ約20～30cmの灰色シルト質粘土で、水田の耕作土である。Ⅱ層は、厚さ約15～25cmの灰黄褐色シルトである。2cmほどの明黄褐色ブロック土を多量に含み、攪拌されている。畑の耕作土と考えられる。Ⅲ層は、厚さ約30cmのにぶい黄褐色細砂である。畑の耕作土と考えられる。Ⅴ層上面に溝状の耕作痕（耕作溝）が残っていた。Ⅳ層は、厚さ約20cmの灰黄褐色土である。断面観察の結果からは、上面から掘り込む遺構は確認できなかった。第62次調査におけるⅣａ～Ⅳｄ層のいずれかに対応すると考えられる。Ⅴ層は、明黄褐色シルトである。Ⅴ層上面で遺構を検出した。Ⅴ層上面が検出された標高より、南にいくにつれて地形が高くなっていることが考えられる。



第３図　柱状模式図・グリッド配置図

2
3
4
5
6
7
8
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
—X＝-195800
—X＝-195810
—X＝-195820
—X＝-195830
—X＝-195840
Y＝7200
Y＝7210
Y＝7220
0
(1:200)
10m
SK3
SD2
SR1
SK1
SD12
SK2
SD11
SK6
SK7
SD13
SK12
S16
SK11
SK9
SD15
SD3
SK36
SD16
SI3
SI4
SK10
SK59
SK60
SD15
SB1
SI2
SI5
SA2
SD16
SB2
SI1
SK14
SX4
SX9
SK19
SK15
SX10
SK28
SK16
SK20
SK48
SK17
SK35
SK41
SK29
SK18
SD5
SK50
SK42
SK49
SX8
SK46
SK55
SD9
SK43
SK44
SK25
SD6
SK56
SD9
SA1
SX7
SK54
SD7
SD8
SX6
SK51
SK24
SK52
SK23
SK53
SK22
SK61

第４図　遺構全体図

第５章　検出遺構と出土遺物

1．竪穴建物跡

今回の調査では竪穴建物跡は６基検出した。F5 グリッドを中心として東西・南北ともに約 10 mの範囲でそれぞれ重複して確認された。平面形は隅丸方形で、規模は 3.28 ～ 3.75 m、深さは SI5 の約 20cm のほかは 40 ～ 50cm である。長軸方向は、SI1 を除き、北から 27 ～ 30° 東偏しており、SI1 の短軸方向が 24° 東偏であることから、ほぼ同軸方向を向いていると考えられる。SI5 を除く５基は周溝を伴っている。SI3・4 には、床面の部分的な範囲に炭化物が堆積し、焼けている箇所も確認されている。また SI1・3・4 には溝を伴った土坑状の張出し部が付随する。SI2 は張出し部は検出されていないが、張出し部に伴うと考えられる溝跡が確認された。張出し部の方向は、SI4 は西壁側に、SI1 ～ 3 は南壁側にある。

SI1 竪穴建物跡（第５・６図）

【位置・確認】調査区の F・G4・5 グリッドに位置する。

【重複】重複する SI2 より新しく、Pit180・187・213・268 や SK14・15 より古い。

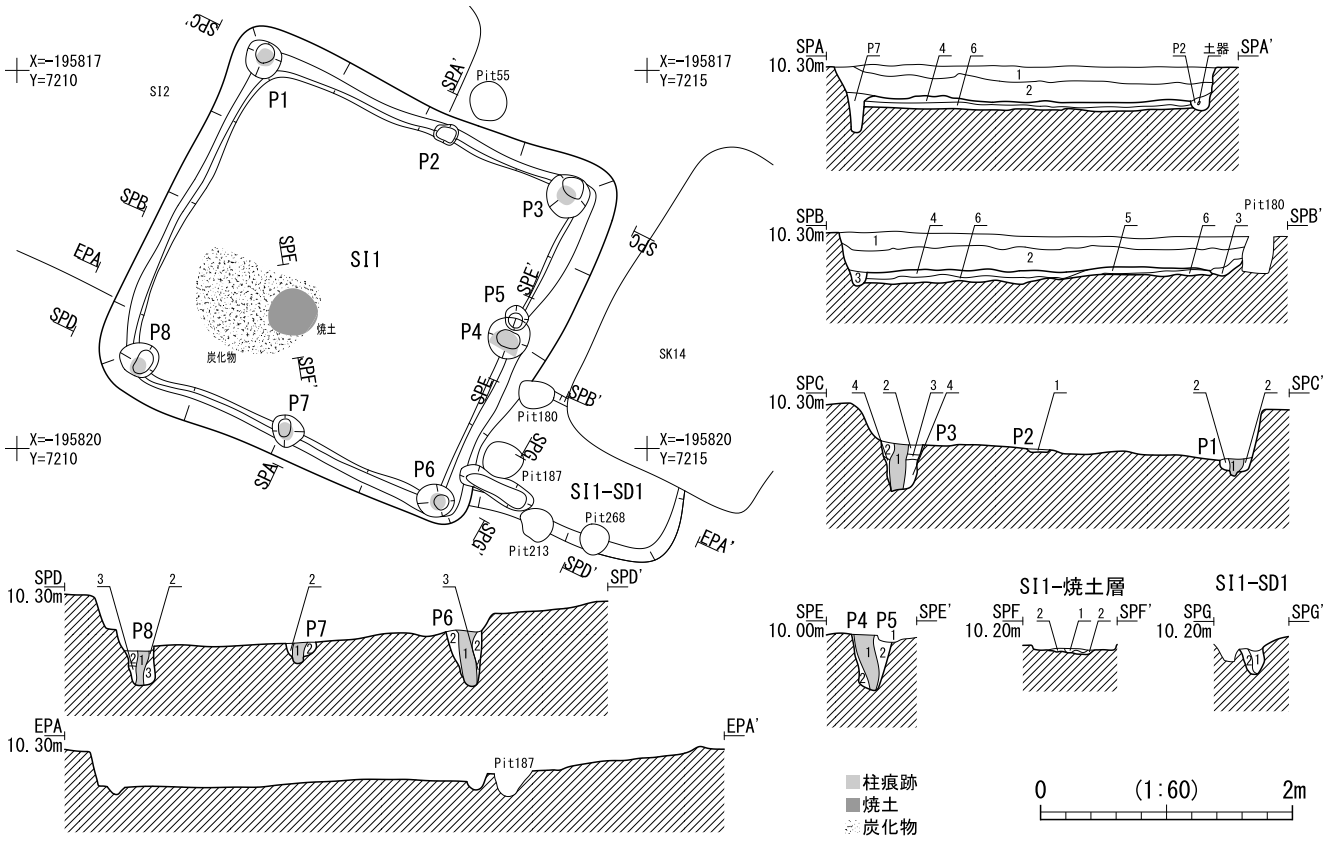
【規模・形態】平面形は隅丸方形で、東辺に張出し部（旧 SK34）を確認した。方形部分の規模は、3.28 × 3.02 m、深さは 0.42 mである。

【長軸方向】N － 66° －Wである。

【堆積土】６層に分層した。３層は周溝堆積土、4・5 層は貼床、６層は掘り方埋土である。１～３層は、基本層Ⅴ層起源の黄褐色ブロック土を含む人為堆積である。

【壁面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は 30 ～ 42cm である。

【床面】4・5 層上面を床面としている。床面は平坦である。床面の南西部では炭化物と焼土を検出した。炭化物の範囲は 1.0 × 0.69 mの不整円形で、厚さは約 3cm である。焼土は炭化物の下や周囲で部分的に確認できたが、焼け締まっておらず、弱い被熱の痕跡と考えられる。



第５図　SI1 竪穴建物跡

SI1　竪穴建物跡　堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
竪穴建物堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄褐色土ブロック（5mm 程度）を含む。炭化物（10mm 程度）を少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック（30mm 程度）を多量含む。炭化物（10mm 程度）を少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（10mm 程度）を少量含む。（周溝）
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（10mm 程度）を少量含む。（貼床）
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。他の層に比べ硬くしまっている。（貼床）
	6	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）

SI1　竪穴建物跡　施設堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄橙色土ブロック（10mm 程度）と炭化物（10mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄橙色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。（掘り方埋土）
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	こぶし大から 10mm 程度のにぶい黄橙色土ブロックを含む。（柱痕跡）
	2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。
	3	10YR7/6 明黄褐色	シルト	
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（50mm 程度）を含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）と炭化物を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。
P5	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	地山ブロック混じり
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（20mm 程度）と黄橙色土ブロック（20mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
	3	10YR7/3 にぶい黄橙色	シルト	（掘り方埋土）
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量、炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）

SI1　竪穴建物跡　施設観察表（1）

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備　　考
P1	円形	18 × 16	15	
P2	隅丸方形	38 × 34	4	
P3	円形	38 × 34	44	
P4	円形	33 × 32	45	P5 より古い。
P5	円形	20 × 19	5	P4 より新しい。
P6	楕円形	30 × 26	43	
P7	円形	27 × 27	18	
P8	不整楕円形	31 × 27	37	

SI1　竪穴建物跡　施設観察表（2）

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SI1-SD1	G5	N-63° -W	63	15 ～ 20	10 ～ 14	20	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。	SI1 に伴う。
							2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰白色土ブロック（20mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。	

SI1　竪穴建物跡　焼土層

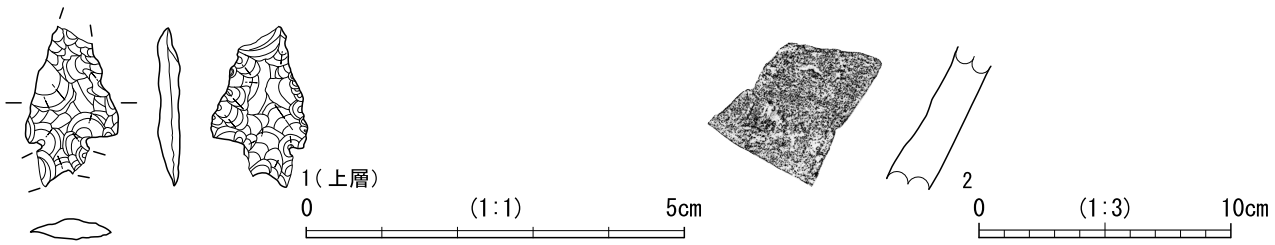
層　位	土　色	土　性	備　　考
1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼けしまって硬化している。
2	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。

【柱穴】床面で 8 基の柱穴を検出した。全て竪穴建物跡の壁際で確認された。規模は直径 18 ～ 38cm、深さは 4 ～ 45cm である。平面形は円形・楕円形・隅丸方形・不整楕円形である。このうち P1・3・4・6 ～ 8 で柱痕跡（径 14 ～ 24cm）を確認した。

【周溝】周溝は全壁で確認した。幅は 12 ～ 15cm、深さは 6 ～ 12cm である。

【その他の施設】張出し部の規模は 1.7 × 1.04 mで、接続部分に向かって緩やかに傾斜している。張出し部の底面には、断面形がU字形の溝跡 SI1 － SD1 が付随する。溝跡 SI1 － SD1 は、長さ 0.63 m、上端幅 0.15 ～ 0.2 m、下端幅 0.1 ～ 0.14 m、断面形はU字形で、深さは 0.2 mである。堆積土は 2 層である。

【出土遺物】遺物は土師器片などが出土した。堆積土からの出土が大半で、床面直上から遺物は出土しなかった。そのほか石鏃（第 6 図－ 1）、陶器（第 6 図－ 2）が出土している。石鏃は、アメリカ式石鏃で、先端と基部の一部を欠損している。石材は流紋岩である。陶器は甕の胴部である。



図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	時期	法量（cm）			重さ（g）	石材	備　考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
6-1	K-03	SI1	上層	打製石器	石鏃	弥生	2.1	1.25	0.3	0.6	流紋岩	アメリカ式石鏃　先端と基部の一部欠損	11-1

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
								口径	底径	器高				
6-2	I-01	SI1	－	陶器	甕	胴部		－	－	(5.65)	－	－		11-2

第６図　SI1 竪穴建物跡出土遺物

SI2 竪穴建物跡（第７・８図）

【位置・確認】F4・5 グリッドに位置する。

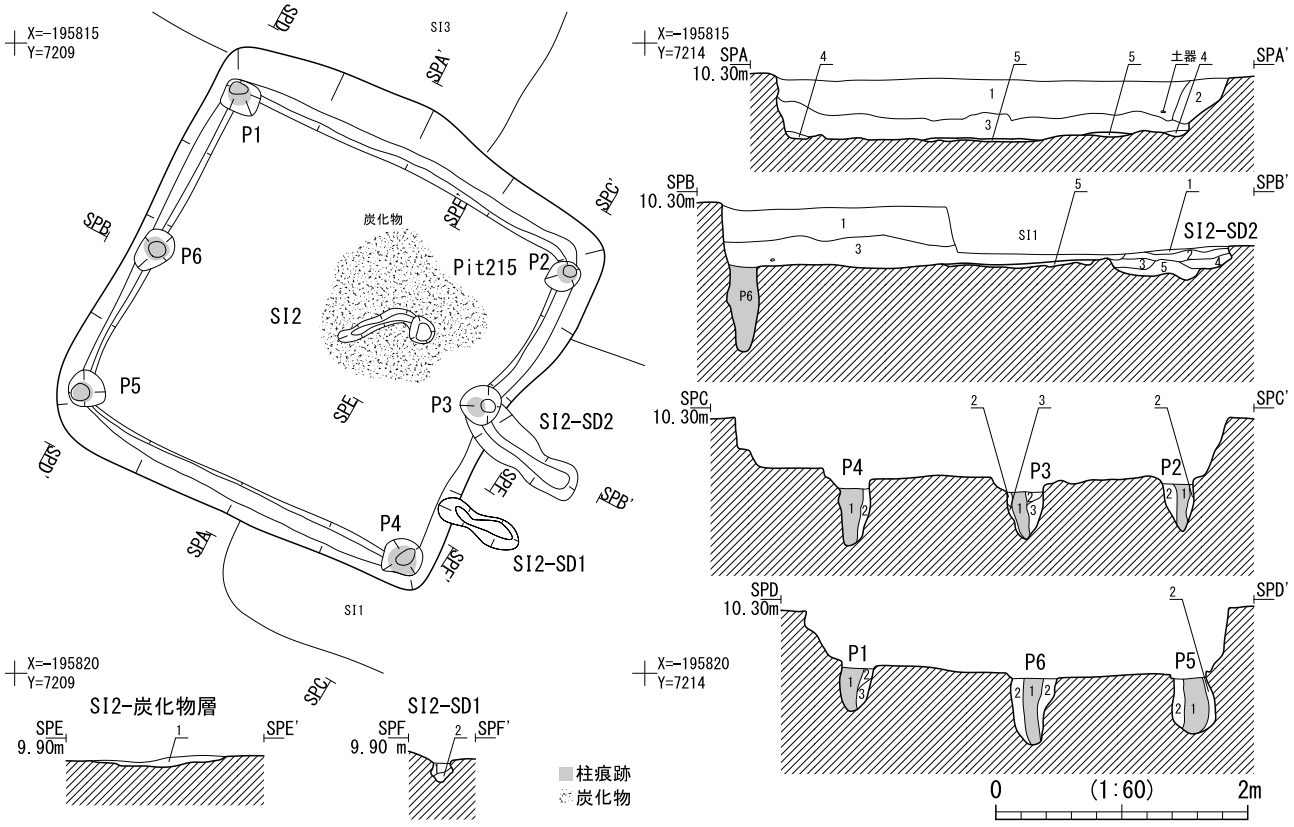
【重複】重複する SI3 より新しく、SI1 より古い。

【規模･形態】平面形は隅丸方形だが、北辺の中央部がやや外側に膨らむ。方形部分の規模は 3.6 × 3.25 m、深さは 0.5 mである。

【長軸方向】N － 27° － E である。

【堆積土】5 層に分層した。4 層は周溝堆積土、5 層は貼床である。1 ～ 3 層は、基本層Ⅴ層起源の黄褐色ブロック土を含む人為堆積である。

【壁面】北壁以外は床面からほぼ垂直に立ち上がる。北壁は床面から垂直に立ち上がり、途中で傾斜する。壁高は 39 ～ 51cm である。



第７図　SI2 竪穴建物跡

SI2　竪穴建物跡　堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
竪穴建物堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（10mm 程度）を含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を多量、褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（10mm 程度）を含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）、炭化物を含む。（周溝）
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	こぶし大以下のにぶい黄橙色土を多量に含む。硬くしまっている。（貼床）

SI2　竪穴建物跡　施設堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
SI2 炭化物層	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色シルトが混在する。焼土ブロック（30mm 程度）を少量含む。
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。
P2	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。（1 よりはしまりあり）（掘り方埋土）
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（5mm 程度）と炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（3mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（3mm 程度）を多量に含む。（掘り方埋土）
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（10mm 程度）を含む。（柱痕跡か？）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（10mm 程度）を少量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）
P6	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）

SI2　竪穴建物跡　施設観察表（1）

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備　　考
P1	隅丸方形	30 × 27	54	
P2	不整楕円形	29 × 23	47	
P3	不整円形	33 × 32	59	SI2-SD2 より新しい。
P4	不整円形	31 × 27	49	
P5	不整円形	31 × 26	69	
P6	不整楕円形	37 × 26	71	

SI2　竪穴建物跡　施設観察表（2）

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SI2-SD1	F5	N-63° -W	70	14 ～ 24	5 ～ 10	16	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色ブロック土（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	SI2 に伴う。
							2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック土（10mm 程度）を含む。	
SI2-SD2	F5	N-53° -W	87	24 ～ 40	7 ～ 14	25	1	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色土ブロック（20mm 程度）土との混土層。炭化物（5mm 程度）を少量含む。	SI1 掘削後に検出。SI2 に伴う。
							2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（10mm 程度）を含む。	
							3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
							4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
							5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（20mm 程度）を多量に含む。	

SI2　竪穴建物跡　施設観察表（3）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	層位	土　色	土　性	備　　考	重　　複
Pit215	F5	不整円形	23 × 21	21	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	内周に炭化物が巡る。柱痕無し	SI2 掘削後に床面で検出
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄橙色土ブロックを少量含む。	

【床面】基本層Ⅴ層及び 5 層上面を床面としている。床面はほぼ平坦である。床面は、SX10 堆積土範囲外にあたる地山面が硬化しており、建物使用時に硬化したと推測される。北東部では炭化物を検出した。

【柱穴】床面で 6 基の柱穴を検出した。全て竪穴建物跡の壁際で確認された。規模は径 29 ～ 37cm、深さは 47 ～ 71cm である。平面形は隅丸方形・不整円形・不整楕円形である。全ての柱穴で柱痕跡（径 15 ～ 23cm）を確認した。

【周溝】周溝は北壁、南壁、西壁、東壁の北側で確認した。幅は 12 ～ 18cm、深さは 5cm である。

【その他の施設】東壁の南側で SI2 － SD1 と SI2 － SD2 を検出した。これらの溝跡は、他の竪穴建物跡で確認された張出し部に伴う溝跡と考えられる。SI2 － SD1 は長さ 0.7 m、上端幅 0.14 ～ 0.24 m、下端幅 0.05 ～ 0.1 m、深さ 0.18 mである。堆積土は 2 層である。SI2 － SD2 は長さ 0.87 m、上端幅 0.25 ～ 0.35 m、下端幅 0.05 ～ 0.15 m、深さは 0.25 mである。堆積土は 5 層である。Pit215 は、平面形は不整円形で、規模が 0.23 × 0.21 mで、断面形はＵ字形で、深さ 0.18 mである。堆積層は 2 層である。中央部では炭化物集中範囲を確認した。範囲の形状は 1.1 × 1.4 mの不整円形で深さは 8㎝である。

【出土遺物】遺物は 1・3 層から土師器片が出土した。床面直上から遺物は出土しなかった。そのほか土製品（第 8 図－ 1）と陶器（第 8 図－ 2）が出土している。土製品は土玉である。中心に直径 5mm 程度の孔が穿たれる。陶器は甕の胴部である。

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整	備　考	写真図版
								直径	全長	孔径			
8-1	P-01	SI2	－	土製品	土玉	－		3.05	2.65	0.45 ～ 0.7	ユビオサエ	19.2g	11-3

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
								口径	底径	器高				
8-2	I-02	SI2	－	陶器	甕	胴部		－	－	(3.8)	－	－		11-4

第８図　SI2 竪穴建物跡出土遺物

SI3 竪穴建物跡（第 9・10 図）

【位置・確認】E・F4・5 グリッドに位置する。

【重複】重複する SI4 より新しく、SI2 より古い。

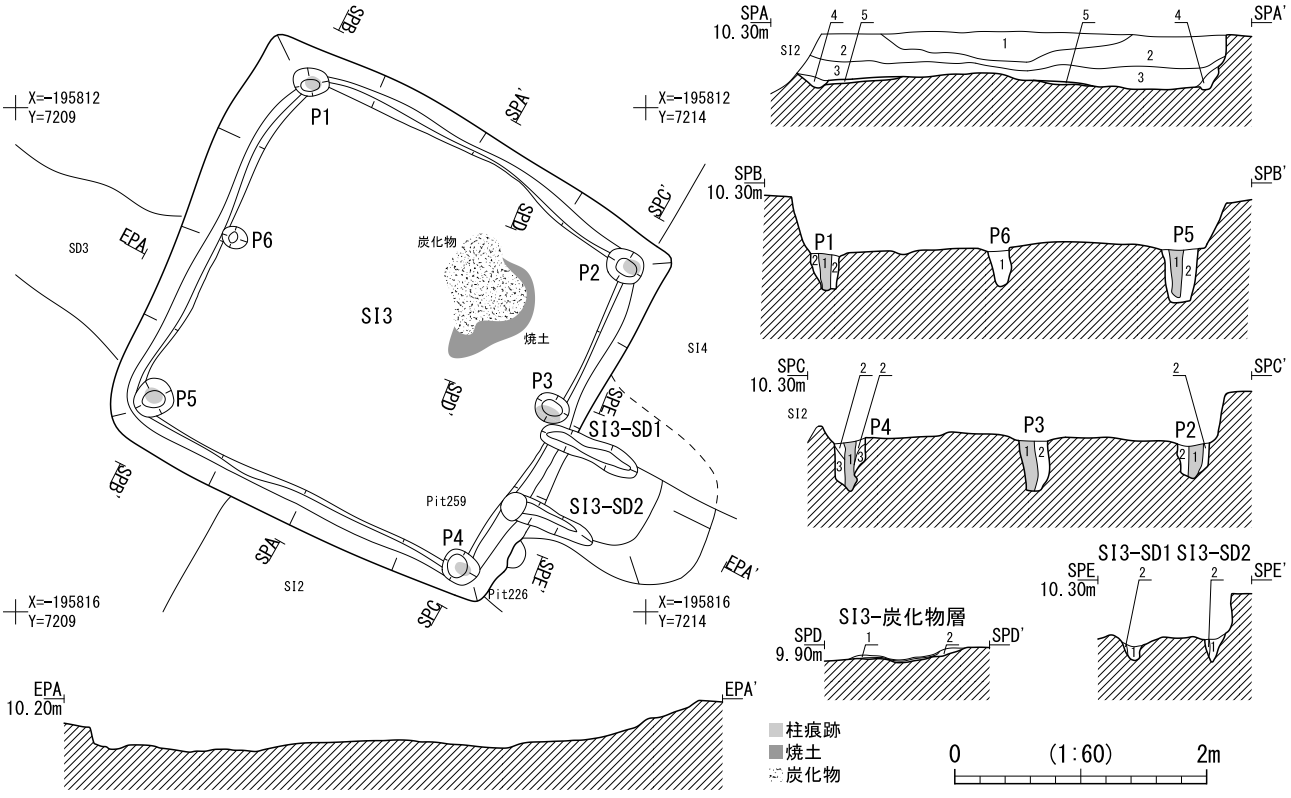
【規模･形態】平面形は隅丸方形で､東側に張出し部（旧 SK58）が付随していたと考えられる。方形部分の規模は 3.75 × 3.47 m、深さは 0.43 mである。

【長軸方向】N － 29° － Eである。

【堆積土】5 層に分層した。4 層は周溝堆積土、5 層が貼床である。1 ～ 3 層は、基本層Ⅴ層起源の黄褐色ブロック土を含む人為堆積である。

【壁面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は 37 ～ 44cm である。

【床面】基本層Ⅴ層及び 5 層上面が床面である。床面は中央部が若干盛り上がるが、ほぼ平坦である。北東部では炭化物と焼土を検出した。炭化物の範囲は 0.8 × 0.65 mの不整形で、厚さは 3cm である。焼土は厚さ 3cm で、面的に



第９図　SI3 竪穴建物跡

SI3　竪穴建物跡　堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
竪穴建物堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（周溝）
	6	10YR5/1 褐灰色	シルト	こぶし大以下のにぶい黄橙色土ブロックを含む。（貼床）

SI3　竪穴建物跡　施設堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
SI003 炭化物層	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物（幅 5㎜程度）のスジ状のものが見られた。幅の広い木材のようなものは確認できなかった。
	2	2.5YR4/6 赤褐色	焼土	しまりあり。焼け締まってはいない。（地山：10YR7/4 にぶい黄橙色砂質土 が被熱）
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	5㎜程度のにぶい黄橙色土ブロック、砂ブロックを含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（5mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（5mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（50mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。
	3	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰白色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を微量、炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量、灰黄褐色砂ブロックを含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を含む。

SI3　竪穴建物跡　施設観察表（1）

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備　　考
P1	楕円形	29 × 23	29	
P2	楕円形	31 × 26	28	
P3	楕円形	28 × 23	40	
P4	不整楕円形	30 × 25	41	
P5	不整楕円形	32 × 28	42	
P6	楕円形	21 × 17	29	

SI3　竪穴建物跡　施設観察表（2）

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SI3-SD1	F5	N-67° -W	78	18 ～ 21	5 ～ 9	13	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。	SI3 に伴う。
							2	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量、炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
SI3-SD2	F5	N-66° -W	（60）	16 ～ 21	5 ～ 9	23	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。	SI3 に伴う。
							2	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量、炭化物（5mm 程度）を微量含む。	

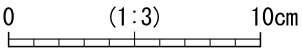
広がっている様子が確認できた。

【柱穴】床面で 6 基の柱穴を検出した。全て竪穴建物跡の壁際で確認された。規模は径 21 ～ 32cm、深さは 29 ～ 42cm である。平面形は楕円形・不整楕円形である。このうち、P1 ～ 5 で柱痕跡（径 13 ～ 22cm）を確認した。

【周溝】周溝は全壁で確認した。幅は 7 ～ 15cm、深さは 4 ～ 6cm である。

【その他の施設】張出し部の規模は 1.32 × 0.86 mで、北西に向かってなだらかに傾斜している。張出し部の底面で溝跡 SI3 － SD1・2 と柱穴 Pit259 を検出した。溝跡 SI3 － SD1 は長さ 78cm、上端幅 18 ～ 21cm、下端幅 5 ～ 9cm である。断面形はＶ字形で、深さは 13cm である。堆積土は 2 層である。溝跡 SI3 － SD2 は長さ（60）cm、上端幅 16 ～ 21cm、下端幅 5 ～ 9cm である。断面形はＶ字形で、深さ 23cm である。堆積土は 2 層である。

【出土遺物】遺物は土師器片が出土した。床面直上から遺物は出土しなかった。張出し部から土師器の坏の底部（第 10 図－ 1）が出土した。外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキ調整され、黒色処理が施される。



図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　　考	写真図版
								口径	底径	器高				
10-1	C-01	SI3	－	土師器	坏	底部		－	3.2	（1.5）	ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	11-5

第 10 図　SI3 竪穴建物跡出土遺物

SI4 竪穴建物跡（第 11 図）

【位置・確認】E・F5・6 グリッドに位置する。

【重複】重複する SI5・6、SK59・60 より新しく、SI3 より古い。

【規模・形態】平面形は隅丸方形で、南側に張出し部が付随していたと考えられる。方形部分の規模は 3.74 × 3.63 m、深さは 0.42 mである。

【長軸方向】N − 28° − Eである。

【堆積土】6 層に分層した。6 層は周溝堆積土である。1 ～ 5 層は、基本層Ⅴ層起源の黄褐色ブロック土を含む人為堆積である。

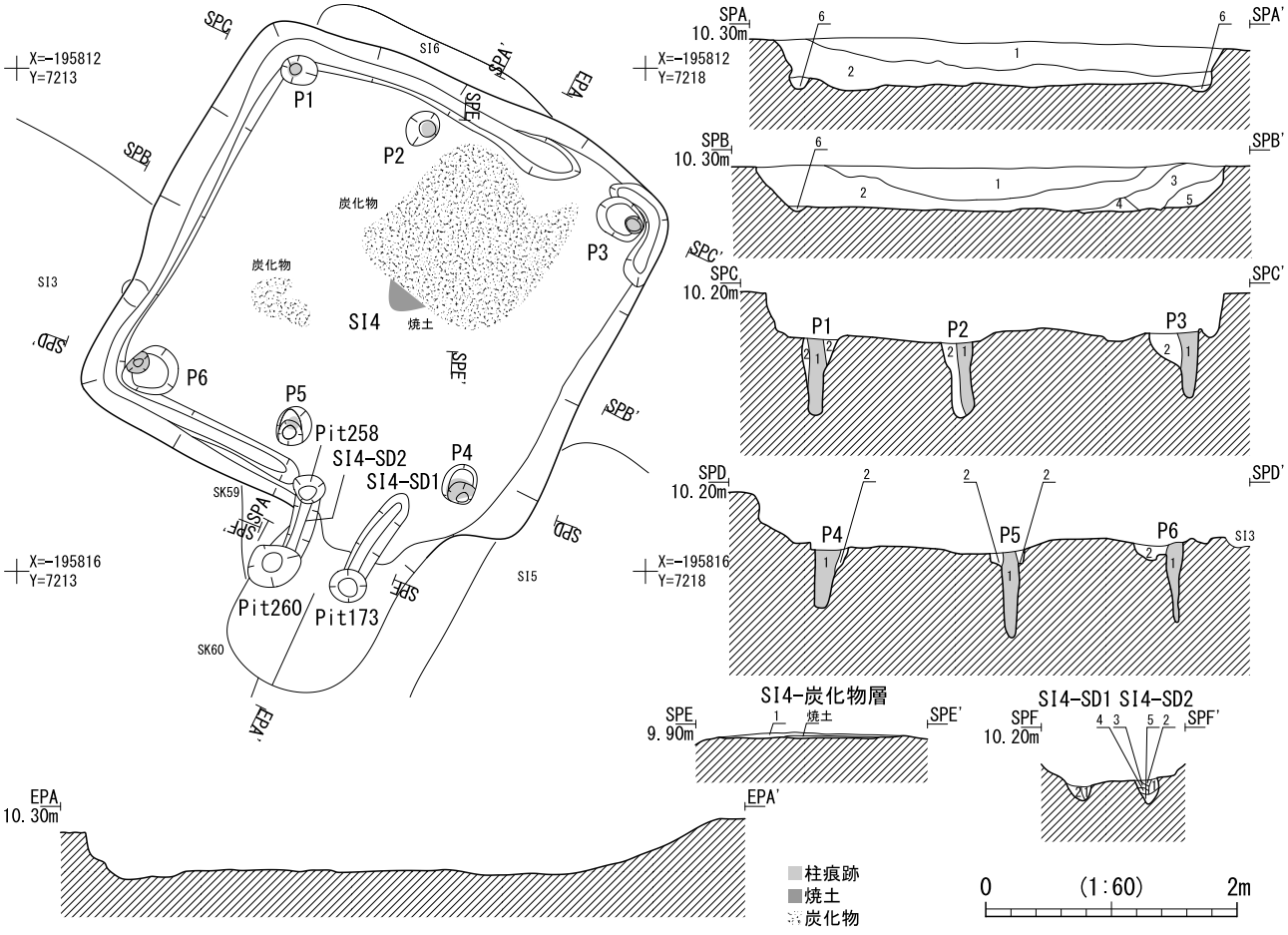
【壁面】壁は床面から傾斜して立ち上がる。壁高は 30 ～ 33cm である。

【床面】基本層Ⅴ層上面が床面である。床面はほぼ平坦である。北東部で炭化物範囲と焼土を検出した。炭化物の範囲は直径 1.26 mの不整形で、厚さは 2cm である。焼土は厚さ 2cm で、炭化物の南西部下で面的に広がっている様子が確認できた。

【柱穴】床面で 6 基の柱穴を検出した。全て竪穴建物跡の壁際で確認された。規模は径 29 ～ 46cm、深さは 48 ～ 70cm である。平面形は楕円形・不整楕円形である。全ての柱穴で柱痕跡（径 10 ～ 22cm）を確認した。

【周溝】周溝は北壁、南壁の西側、西壁、東壁の北端で確認した。幅は 15 ～ 16cm、深さは 5 ～ 9cm である。

【その他の施設】張出し部の規模は 1.5 × 1.12 mで、接続部分に向かって傾斜している。張出し部の底面で、溝跡 SI4 − SD1・2 と、柱穴 Pit173・260 を検出した。また、SI4 − SD2 北端で柱穴 Pit258 を検出した。溝跡 SI4 − SD1 は長さ（73）cm、上端幅 19 ～ 22cm、下端幅 7 ～ 8cm、断面形はU字形で、深さは 11cm である。堆積土は 2 層である。溝跡 SI4 − SD2 は長さ（49）cm、上端幅 17 ～ 20cm、下端幅 7 ～ 8cm、断面形はⅤ字形で、深さ 21cm である。堆積土は 5 層である。Pit173 は、平面形は楕円形で、規模が 29 × 26cm、深さ 45cm である。Pit258 は、平面形は不整円形で、規模が 24 × 22cm、深さ 7cm である。Pit260 は、平面形は不整楕円形で、規模が 43 × 35cm、深さ 44cm



第 11 図　SI4 竪穴建物跡

SI4　竪穴建物跡　堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
竪穴建物堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を多量に、褐灰色土ブロック（50mm 程度）を含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。
	5	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（20mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を含む。（周溝）

SI4　竪穴建物跡　施設堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
SI4 炭化物層	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	2.5Y6/2 灰黄色ブロック（10mm 程度）をわずかに含む。しまりあり。砂わずかに含む。
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（5mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。（柱痕跡）
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を微量含む。（掘り方埋土）
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。（掘り方埋土）
P4	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（5mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。（掘り方埋土）

SI4　竪穴建物跡　施設観察表（1）

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備　　考
P1	楕円形	29 × 23	64	
P2	楕円形	31 × 24	60	
P3	楕円形	39 × 31	60	
P4	楕円形	31 × 26	48	
P5	楕円形	32 × 27	70	
P6	不整楕円形	46 × 39	66	

SI4　竪穴建物跡　施設観察表（2）

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SI4-SD1	F5	N-34° -E	（73）	19 ～ 22	7 ～ 8	11	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	ブロック土（30mm 程度）を含む。	SI4 に伴う。Pit178 より古い。Pit248 より新しい。
							2	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	ブロック土（10mm 程度）を含む。	
SI4-SD2	F5	N-17° -E	（49）	17 ～ 20	7 ～ 8	21	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	SI4 に伴う。Pit281・282 より古い。
							2	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
							3	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土（5mm 程度）を少量含む。	
							4	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。	
							5	10YR7/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含	

SI4　竪穴建物跡　施設観察表（3）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	層位	土　色	土性	備　　考	重　　複
Pit173	F5	楕円形	29 × 26	45	1	10YR4/1 褐灰色	土	炭微量含む。柱痕跡無し	
Pit258	F5	不整円形	24 × 22	7	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	土	地山ブロック混じり。柱痕跡無し	SI4-SD2 より新しい。
Pit260	F5	不整楕円形	43 × 35	44	1	2.5Y3/1 黒褐色	土	地山ブロック混じり。柱痕跡無し	SI4-SD1 より新しい。

である。Pit173・258・260 に柱痕跡はなかった。

【出土遺物】遺物は土師器片が出土した。床面から遺物は出土しなかった。

SI5 竪穴建物跡（第 12 図）

【位置・確認】F5・6、G6 グリッドに位置する。

【重複】重複する SI4 や SK14、SX4 より古い。

【規模･形態】平面形は隅丸方形と考えられるが、北東側は攪乱に削平されている。方形部分の規模は、3.38 ×（3.35）m、深さは 0.2 mである。

【長軸方向】N − 30° − Eである。

【堆積土】堆積土は 1 層である。

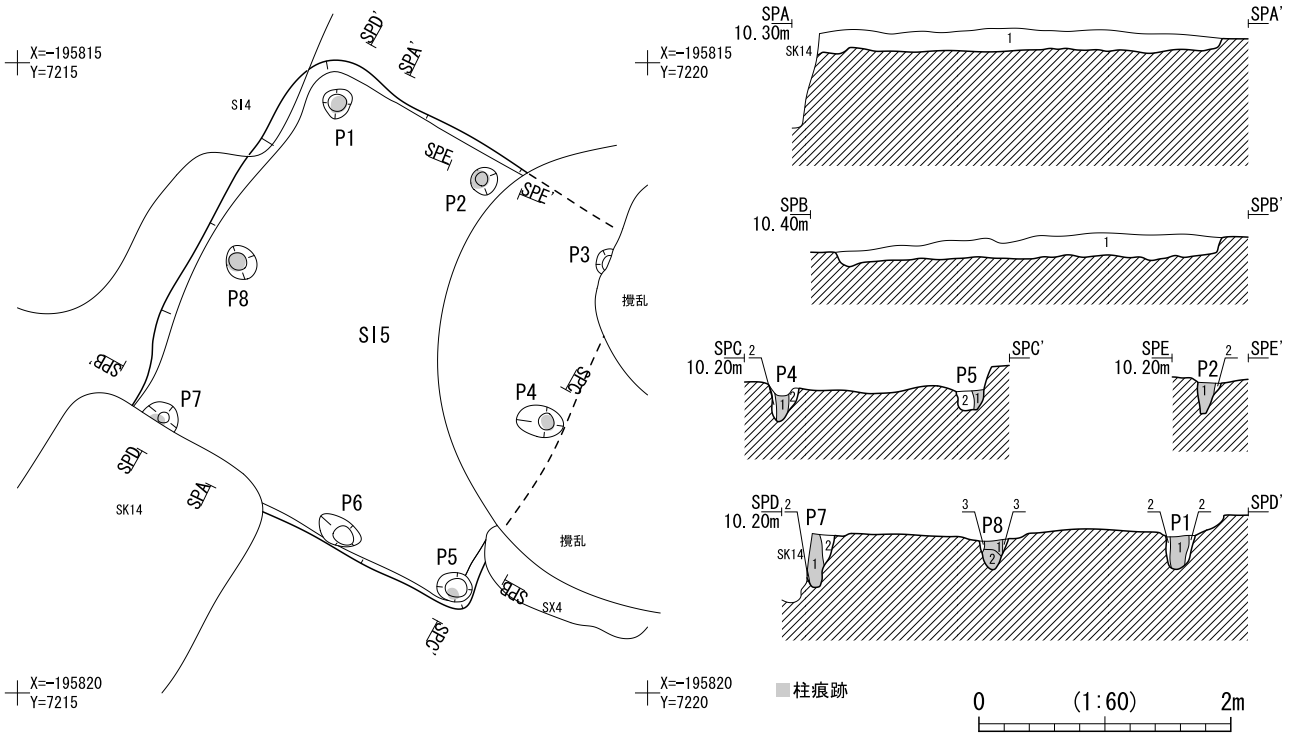
【壁面】壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は 9 ～ 12cm である。

【床面】基本層Ⅴ層上面を床面としている。中央部はほぼ平坦であるが、壁面に向かって凹凸がある。

【柱穴】床面で 8 基の柱穴を検出した。全て竪穴建物跡の壁際で確認された。規模は径 21 ～ 38cm、深さは 18 ～ 59cm である。平面形は円形・楕円形・長楕円形・不整円形である。このうち P1・2・4・5・7・8 で柱痕跡（径 11 ～ 16cm）を確認した。

【周溝】検出されなかった。

【出土遺物】遺物は土師器片が出土した。堆積土からの出土が大半で、床面から遺物は出土しなかった。



SI5　竪穴建物跡　堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
竪穴建物堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。

SI5　竪穴建物跡　施設堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（50mm 程度）を含む。（柱痕跡）
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）
P3	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	地山ブロック混じり
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
P5	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（20mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
P6	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	地山ブロック混じり
P7	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を含む。（柱痕跡）
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
P8	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。（柱痕跡）
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	3	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）

SI5　竪穴建物跡　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備　　考
P1	不整円形	25 × 22	34	
P2	円形	21 × 21	38	
P3	円形か	21 ×（10）	21	攪乱で東側が失われている。
P4	長楕円形	38 × 24	30	
P5	楕円形	28 × 23	18	
P6	不整楕円形	37 × 22	19	
P7	楕円形か	（30）×（17）	59	SK14 より古い。
P8	楕円形	29 × 24	28	

第 12 図　SI5 竪穴建物跡

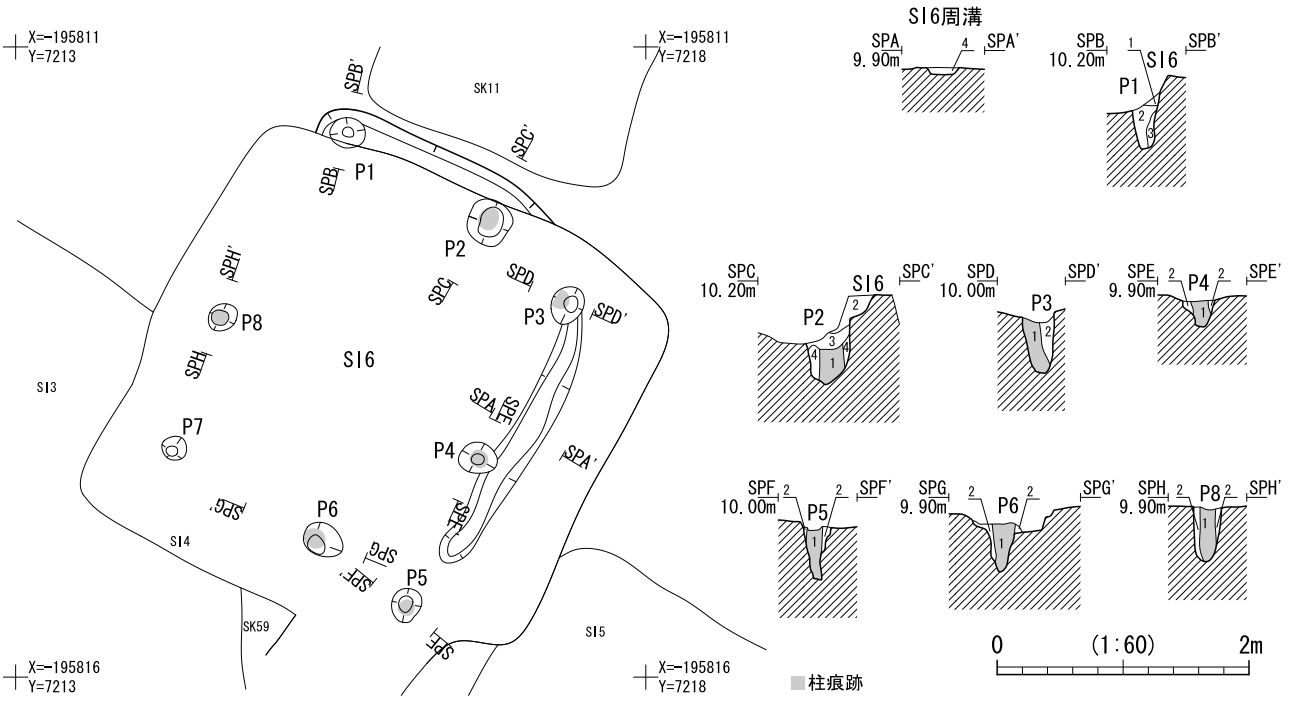
SI6 竪穴建物跡（第 13 図）

【位置・確認】E・F5・6 グリッドに位置する。

【重複】重複する SI3 や SI4 より古い。大部分が SI4 に壊されているが、北壁の一部と東辺の周溝、柱穴が残存していた。

【規模・形態】平面形は隅丸長方形と推測される。規模は約 3.6 × 3.3 m以下と推測され、深さは 0.38 mが遺存していた。

【方向】SI6 － P2 と SI6 － P6 の軸でN － 29° － E である。
【堆積土】堆積土は 3 層である。
【壁面】壁高は 28 ～ 35cm 残存している。
【床面】SI4 によって削平されている。
【柱穴】床面で 8 基の柱穴を検出した。竪穴建物跡の壁際と推測されるところで確認された。規模は径 20 ～ 35cm、深さは 36 ～ 52cm である。平面形は円形・不整円形・楕円形である。このうち、P2 ～ 6・8 で柱痕跡（径 13 ～ 19cm）を確認した。
【周溝】周溝は東壁で確認した。幅は 28cm、深さ 5cm である。断面形は逆台形である。それ以外は確認されず、SI4 によって削平されたと考えられる。
【出土遺物】遺物は土師器片が P2 から出土した。



SI6　竪穴建物跡　堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
竪穴建物堆積土	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）、褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を多量含む。
	4	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（周溝）

SI6　竪穴建物跡　施設堆積土註記表

部　位	層　位	土　色	土　性	備　　考
P1	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。（SI6-1 層）
	2	10YR6/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を多量に含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。
P2	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）、褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（SI6-2 層）
	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を多量含む。（SI6-3 層）
	4	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）
P3	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	黄色砂を 20%、基本層Ⅴ層起源の黄橙色ブロック（20mm 程度）を 5%、炭化物微量含む。（柱痕跡）
	2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	黄色砂を多量に、基本層Ⅴ層起源の黄橙色ブロック（20mm 程度）を 5%含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂	灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。（掘り方埋土）
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	浅黄橙色土ブロック（10mm 程度）と、炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。（柱痕跡）
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）
P7	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	地山ブロック混じり
P8	1	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	炭化物（5mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	細砂	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を含む。

SI6　竪穴建物跡　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円形	29 × 29	36	
P2	不整円形	35 × 34	52	
P3	楕円形	31 × 25	48	
P4	楕円形	31 × 25	38	
P5	楕円形	27 × 22	48	
P6	楕円形	33 × 26	43	
P7	円形	20 × 20	(38)	
P8	楕円形	25 × 21	49	

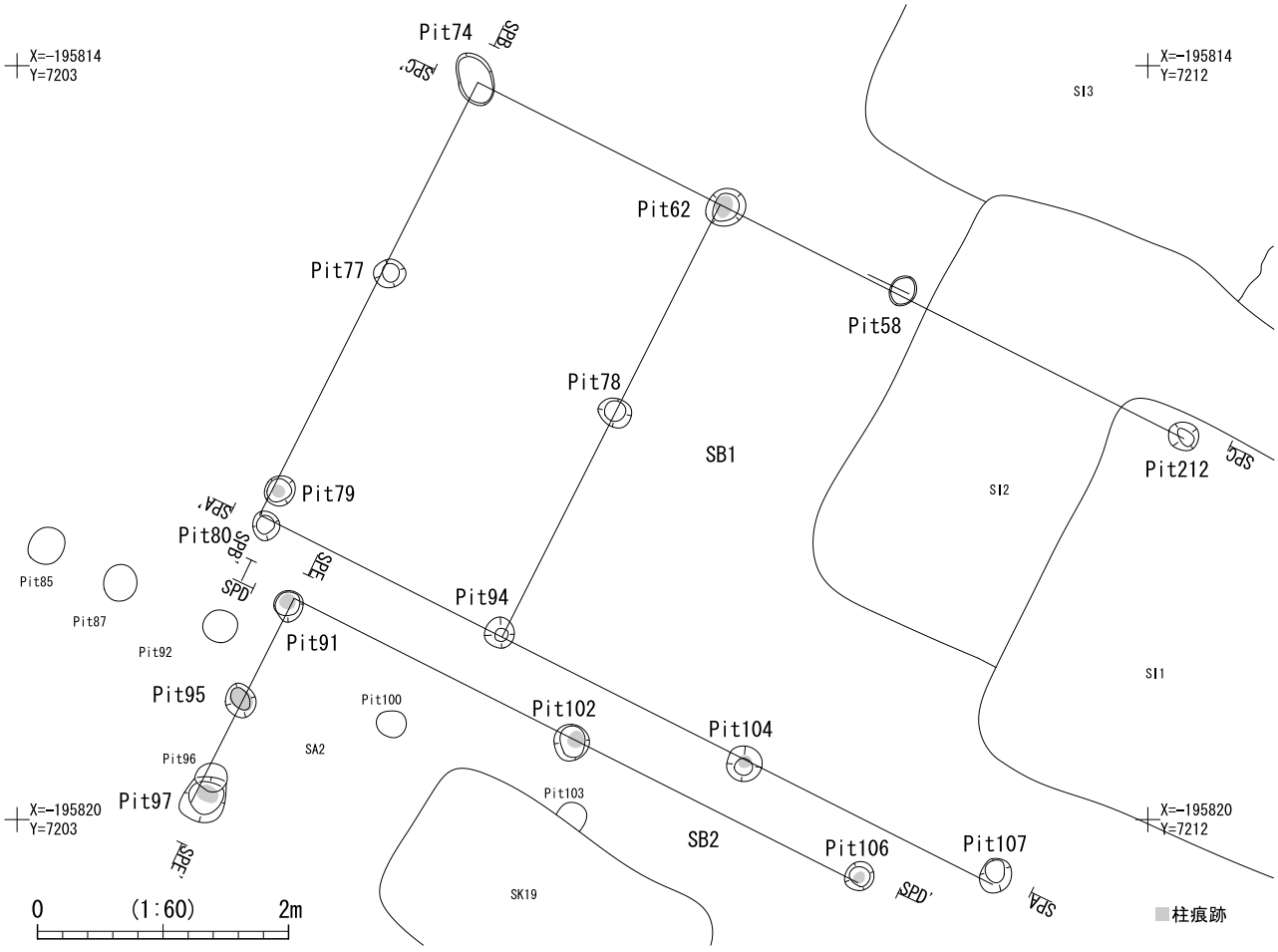
第 13 図　SI6 竪穴建物跡

2. 掘立柱建物跡

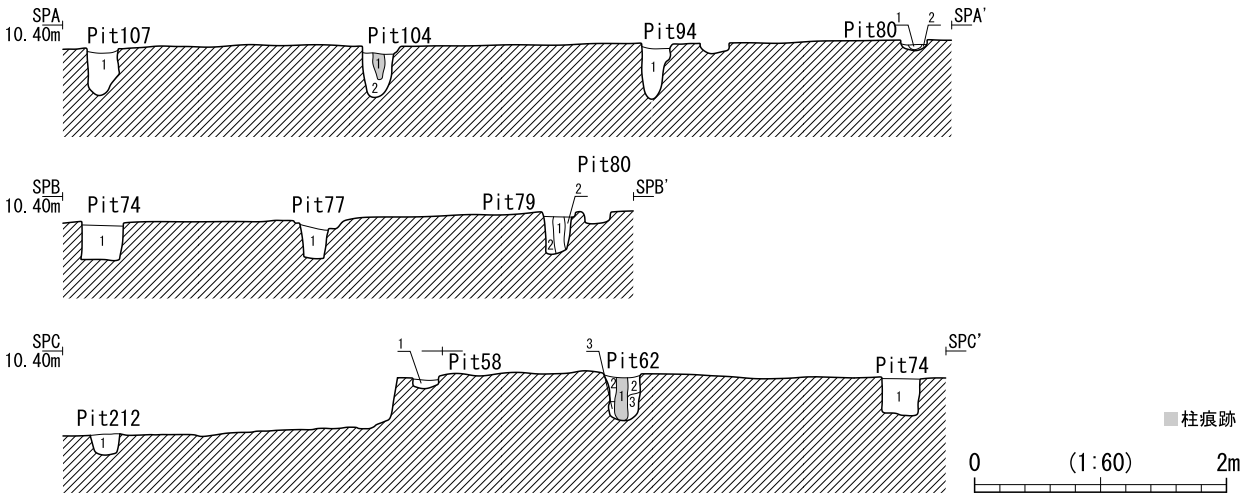
今回の調査では、掘立柱建物跡を 2 棟検出した。竪穴建物跡との重複関係から、竪穴建物跡より古い。桁行方向はともに北から 63° 西偏しており、2 棟の掘立柱建物跡は近い時期と考えられる。

SB1 掘立柱建物跡（第 14・15 図）

E3・4、F3 ～ 5、G4 グリッドに位置する。SB1 の構成ピット Pit212 が重複する SI2 よりも古いことから、SB1 は SI2 よりも古い。柱間は 3 × 2 間以上、規模は 6.4 × 3.9 m以上で、東に続く可能性がある。柱穴の平面形は円形・楕円形・長楕円形で、規模は直径 25 ～ 45cm、深さは 9 ～ 46cm である。柱痕跡は直径 10 ～ 18cm である。南側の桁行の方位はN － 63° －Wである。



第 14 図　SB1・2 掘立柱建物跡



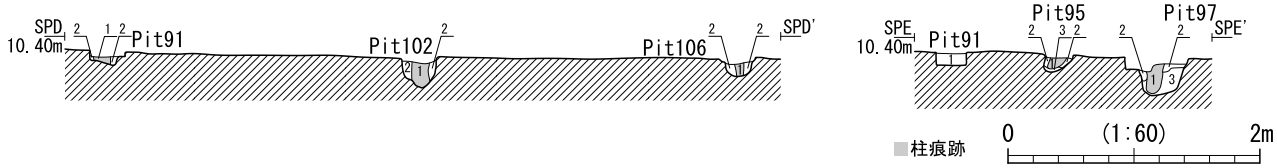
SB1　掘立柱建物跡　遺構観察・堆積土註記表

遺構名	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
		長軸×短軸	深さ					
Pit58	楕円形	25 × 21	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（5mm 程度）を含む。	
Pit62	円形	33 × 29	45	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土（10mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）	
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。（掘り方埋土）	
				3	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。（掘り方埋土）	
Pit74	長楕円形	45 × 29	28	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土（10mm 程度）を含む。	
Pit77	楕円形	26 × 23	31	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	地山ブロック混じり	
Pit78	楕円形	27 × 23	25	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
Pit79	円形	26 × 24	34	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。	SI2 より古い。SX10、Pit234 より新しい。
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。	
Pit80	円形	24 × 22	10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐灰色土ブロック（5mm 程度）を微量含む。	
				2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（5mm 程度）を微量含む。	
Pit94	円形	25 × 24	46	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）と炭化物を含む。	
Pit104	円	28 × 28	40	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）	
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。（掘り方埋土）	
Pit107	楕円形	29 × 24	38	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を含む。	
Pit212	円形	25 × 23	(17)	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	基本層Ⅴ層起源の明黄褐色土ブロック混じり	

第 15 図　SB1 掘立柱建物跡

SB2 掘立柱建物跡（第 14・16 図）

F・G3・4 グリッドに位置する。柱間は 2 × 2 間以上、規模は 5 × 1.7 m以上で、東と南に続くと考えられる。柱穴の平面形は円形・楕円形・隅丸長方形で、規模は直径 24 ～ 40cm、深さは 12 ～ 30cm である。柱痕跡は直径 8 ～ 12cm である。北列の方位はN － 63° －Wである。



SB2　掘立柱建物跡　遺構観察・堆積土註記表

遺構名	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
		長軸×短軸	深さ					
Pit91	円形	25 × 24	12	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。（柱痕跡）	
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）	
Pit95	楕円形	29 × 24	14	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰黄褐色土ブロック（5mm 程度）を含む。（柱痕跡）	
				2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（5mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）	
				3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	酸化した鉄分を含む。（掘り方埋土）	
Pit97	隅丸長方形	40 × 34	30	1	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。（柱痕跡）	Pit96 より古い。
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）	
				3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。（掘り方埋土）	
Pit102	円形	30 × 28	24	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を多量に、酸化した鉄分を含む。（柱痕跡）	
				2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を多量に含む。（掘り方埋土）	
Pit106	円形	24 × 23	16	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）	
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。（掘り方埋土）	

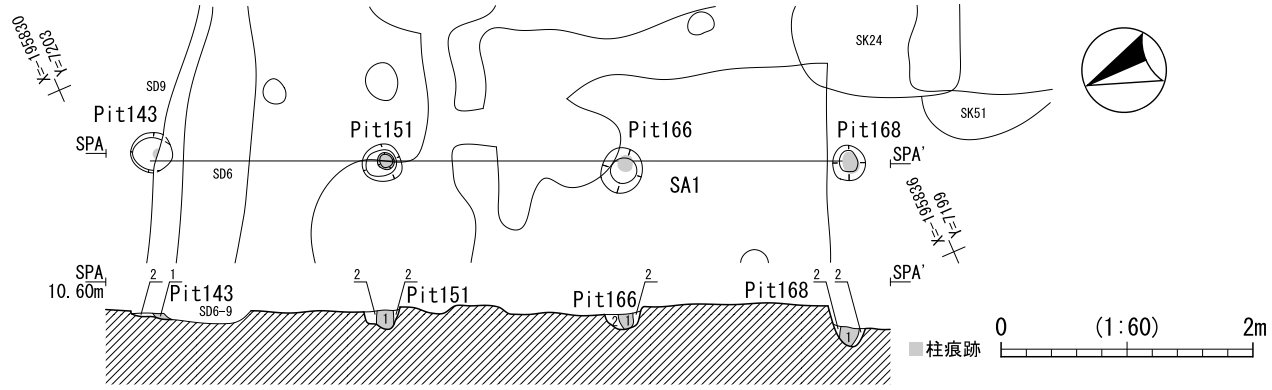
第 16 図　SB2 掘立柱建物跡

3. 柱列跡

今回の調査では柱列跡を 2 列検出した。SA1 と SA2 は 11 m以上離れているが、ほぼ直角方向である。また、SB1・2 と同じ方位である事から、掘立柱建物跡と近い時期の柱列跡の可能性が考えられる。

SA1 柱列跡（第 17 図）

I2 ～ J2 グリッドにかけて直線的に存在する。重複する SD6・9 より古い。柱列の規模は北東端の Pit143 の中心から南西端の Pit168 の中心まで 5.54 mである。各柱間距離は、Pit143 から Pit151 は 1.86 m、Pit151 から Pit166 は 1.9 m、Pit166 から Pit168 は 1.78 mである。全ての柱穴から柱痕跡が確認された。検出した柱穴の平面形はほぼ円形で、断面形はU字形である。柱穴の規模は、上端幅 28 ～ 36cm、深さは 9 ～ 18cm である。柱痕跡の直径は 13 ～ 17cm である。方位はN － 23° － Eである。



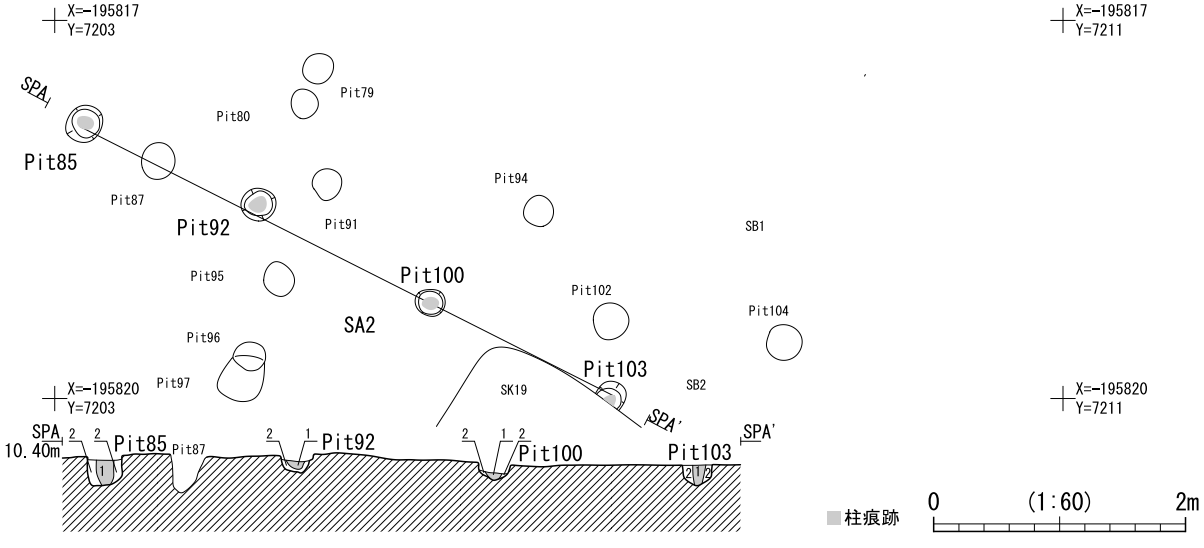
SA1　柱列跡　遺構観察・堆積土註記表

規模（cm）				層位	土　色	土性	備　考	重　複
Pit 名	上端幅	下端幅	深さ					
Pit143	(34) × 32	(32) × 26	9	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（50mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）	SD6・9 より古い。撹乱で上層が失われている。
				2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）	
Pit151	32 × 30	25 × 21	18	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。（柱痕跡）	
				2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。（掘り方埋土）	
Pit166	36 × 32	21 × 21	18	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（20mm 程度）を含む。（柱痕跡）	
				2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）	
Pit168	28 × 27	18 × 18	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）	
				2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（20mm 程度）を含む。（掘り方埋土）	

第 17 図　SA1 柱列跡

SA2 柱列跡（第 18 図）

F3、G3・4 グリッドに位置する。重複する SK19 より古い。柱列の規模は南東端の Pit103 の中心から北西端の Pit85 の中心まで 4.7 mである。各柱間距離は、Pit103 から Pit100 は 1.62 m、Pit100 から Pit92 は 1.57 m、Pit92 から Pit85 は 1.51 mである。全ての柱穴から柱痕跡が確認された。検出した柱穴の平面形は円形・楕円形で、断面形はU字形である。柱穴の規模は、上端幅 23～30cm、深さは 15～22cm である。柱痕跡の直径は 10～16cm である。方位はN － 63° －Wである。



第 18 図　SA2 柱列跡

SA2　柱列跡　遺構観察・堆積土註記表

規模（cm）				層位	土　色	土性	備　考	重　複
Pit 名	上端幅	下端幅	深さ					
Pit85	30 × 27	24 × 21	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。（柱痕跡）	SK19 より古い。
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。（掘り方埋土）	
Pit92	27 × 26	22 × 19	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。（柱痕跡）	
				2	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）	
Pit100	24 × 22	20 × 18	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。（柱痕跡）	
				2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。（掘り方埋土）	
Pit103	23 ×（23）	19 ×（11）	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土（10mm 程度）、明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。（柱痕跡）	
				2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。褐灰色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。（掘り方埋土）	

4. 土坑

調査区の全域で合計 42 基の土坑を検出した。平面形状は隅丸方形もしくは隅丸長方形が 22 基、円形もしくは楕円形が 14 基、それ以外は不整形が 3 基である。長軸は 0.65 ～ 3.47 mとばらつきはあるものの、隅丸長方形は長軸が 1 m未満は 2 基で、1.5 ～ 3.4 mが 15 基と、その大半が大型である。また、堆積土が人為堆積である土坑は 15 基あり、そのうち隅丸長方形の土坑は 10 基である。遺物が出土している土坑は 9 基あり、そのうち隅丸長方形の土坑は 14・28・54 から出土している。そのほか、SK15 からは骨片が出土している。また、遺構検出時に土坑としていたものが、調査中に竪穴建物跡や、それに付随する施設であると判明したため、欠番としている土坑もある。

SK1（第 19 図）

C7 ～ D7 グリッドに位置する。重複する SR1 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 2.56 × 0.86 mである。断面形は西側が袋状形に突出し、東側は直線的に立ち上がる。深さは 28cm である。底面はほぼ平坦である。堆積土は 5 層で、いずれも褐灰色と明黄褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

SK2（第 19 図）

D6 グリッドに位置する。重複する SR1 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 1.66 × 1.03 mである。断面形は長方形で、深さは 28cm である。底面には多少の起伏がある。堆積土は 2 層に分層した。遺物は土師器の甕（第 23 図－ 1）が出土している。甕の口縁部で、口縁部には内外面ともにヨコナデ調整が施される。

SK3（第 19 図）

B・C4 グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径 1.2 mである。断面形は皿形で、深さは 23cm である。底面には多少の起伏がある。堆積土は 2 層に分層した。遺物は土師器の甕 2 点（第 23 図－ 2・3）と鉢 1 点（第 23 図－ 4）が出土している。甕（第 23 図－ 2）の口縁部は外反し、端部を面取りするような形でケズリ調整している。甕（第 23 図－ 3）は口縁部と頸・肩部が残存する。口縁部は外反し、折り返し口縁である。鉢（第 23 図－ 4）は、内外面ともにヨコナデ調整された後、外面にはヘラケズリの後ヘラナデ調整が、内面にはヘラミガキ調整が施される。

SK6（第 19 図）

D4・5 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は 1.53 × 1.10 mである。断面形は不整逆台形で下部は外側へ広がる。深さは 89cm である。底面には多少の起伏がある。堆積土は 5 層であり、4 層から陶器が出土している。鉢（第 23 図－ 5）の底部で、細身の高台が付く。

SK7（第 19 図）

D・E5・6 グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は 1.43 × 1.36 mである。断面形は逆台形状で、深さは 36cm である。底面は中央部が窪み、多少の起伏がある。堆積土は 8 層で、7 層から土師器片が出土している。

SK9（第 19 図）

E6 グリッドに位置する。重複する SD12 より新しく、攪乱によって北東部が失われている。平面形は円形で、規

模は直径が 1.59m である。断面形はU字形で、深さは 78cm である。堆積土は 13 層に分層した。1・2 層中は灰白色土ブロックを多量に含む。10 層から土師器片が出土している。

SK10（第 19 図）

F6・7 グリッドに位置する。重複する Pit181 より新しい。平面形は円形で、規模は 1.28 × 1.24 mである。断面形は逆台形で、深さは 56cm である。底面は平坦である。堆積土は 4 層に分層した。

SK11（第 19 図）

E5・6 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は 2.1 × 1.49 mである。断面形は逆台形である。深さは 46cm である。底面はほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層した。褐灰色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

SK12（第 19 図）

E5 グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、規模は 2.45 × 2.41 mである。断面形は逆台形で、深さは 45cm である。底面は平坦である。堆積土は 3 層で、1・2 層は明黄褐色土ブロックを多量に含む人為堆積である。遺物は陶器の甕（第 23 図－ 6）の底部が出土している。

SK14（第 20 図）

F5･6、G5 グリッドに位置する。重複する SI1 と SI5、Pit214･244 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 2.58 × 1.81 mである。断面形は逆台形で、深さは 75cm である。底面で全周を巡る周溝を確認した。堆積土は 5 層で、いずれも褐灰色と明黄褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

SK15（第 20 図）

G5 グリッドに位置する。重複する SI1、SI1 － P6、SD21、Pit187 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 0.96 × 0.65 mである。断面形は皿形で、深さは 11cm である。底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層され、炭化物が多量に、骨片が少量含まれており、中世の火葬墓と考えられる。

SK16（第 20 図）

G5 グリッドに位置する。重複する SK28・29・35、Pit231、SX10 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 1.87 × 1.47 mである。断面形は逆台形で、深さは 27cm である。底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分けられ、明黄褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

SK17（第 20 図）

G4・5 グリッドに位置する。重複する SK28 より古く、Pit265、SX10 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 1.99 × 1.73 mである。断面形は長方形で、深さは 53cm である。底面は多少の起伏がある。堆積土は 3 層に分層した。この上部の堆積土はブロック土を多量に含む人為堆積である。遺物は青磁の碗（第 23 図－ 7）が出土している。

SK18（第 20 図）

G・H4 グリッドに位置する。重複する Pit111、SK48 より古い。平面形は隅丸長方形で、規模は（2.00）× 0.95 m である。断面形は逆台形で、深さは 47cm である。底面は平坦である。堆積土は 3 層に分層した。遺物は須恵器の坏（第 23 図－ 8）が出土している。焼成が甘く、全体的に赤い。底部には回転糸切の痕跡がある。

SK19（第 20 図）

G3･4 グリッドに位置する。重複する SA2 － Pit103、SX10 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 2.51 × 1.38 mである。断面形は逆台形で、深さは 42cm である。底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層した。

SK20（第 20 図）

G3・4 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は 2.33 × 1.49 ｍである。断面形は下部に向かって緩やかなカーブを描く逆台形で、深さは 71cm である。底面は多少の起伏があり中央部がやや窪む。堆積土は 4 層に分層した。遺物は土師器（第 23 図－ 9）が出土している。高台付の坏である。削り出して高台を形作る。内面はヘラミガキ調整の後、黒色処理が施されている。

SK22（第 20 図）

J4 グリッドに位置する。攪乱によって南･西側が失われている。規模は（2.26）×（0.86）ｍである。断面形は皿形で、深さは 15cm である。底面は多少の起伏がある。堆積土は 1 層である。

SK23（第 21 図）

J3・4 グリッドに位置する。平面形は不整形長楕円形で、規模は 3.47 ×（1.15）ｍである。断面形は逆台形で、深さは 43cm である。底面はほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層した。遺物は砥石（第 24 図－ 1）が出土している。凝灰岩製で、砥面は 3 面ある。

SK24（第 21 図）

J2・3 グリッドに位置する。重複する SK51・53 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 3.38 × 1.34 ｍである。断面形は逆台形で、深さは 55cm である。堆積土は 5 層で、明黄褐色土ブロックを多量に含む人為堆積である。

SK25（第 21 図）

I2 グリッドに位置する。重複する SD6、Pit147 より古い。平面形は不整円形で、規模は直径約 1 ｍである。断面形は不整形のＵ字形で、深さは 33cm である。堆積土は 4 層で、褐灰色土を主体とし、1 層には灰白色火山灰がブロック状に含まれていた。

SK28（第 21 図）

G4・5 グリッドに位置する。重複する SK16 より古く、SK17、Pit232・274・275、SX10 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 1.80 × 1.34 ｍである。断面形は長方形で、深さは 36cm である。底面には多少の起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層した。遺物は土師器の甕（第 24 図－ 2）が出土している。口縁部のみ残存する。口縁部は外反し、外面はヨコナデ調整が施される。

SK29（第 21 図）

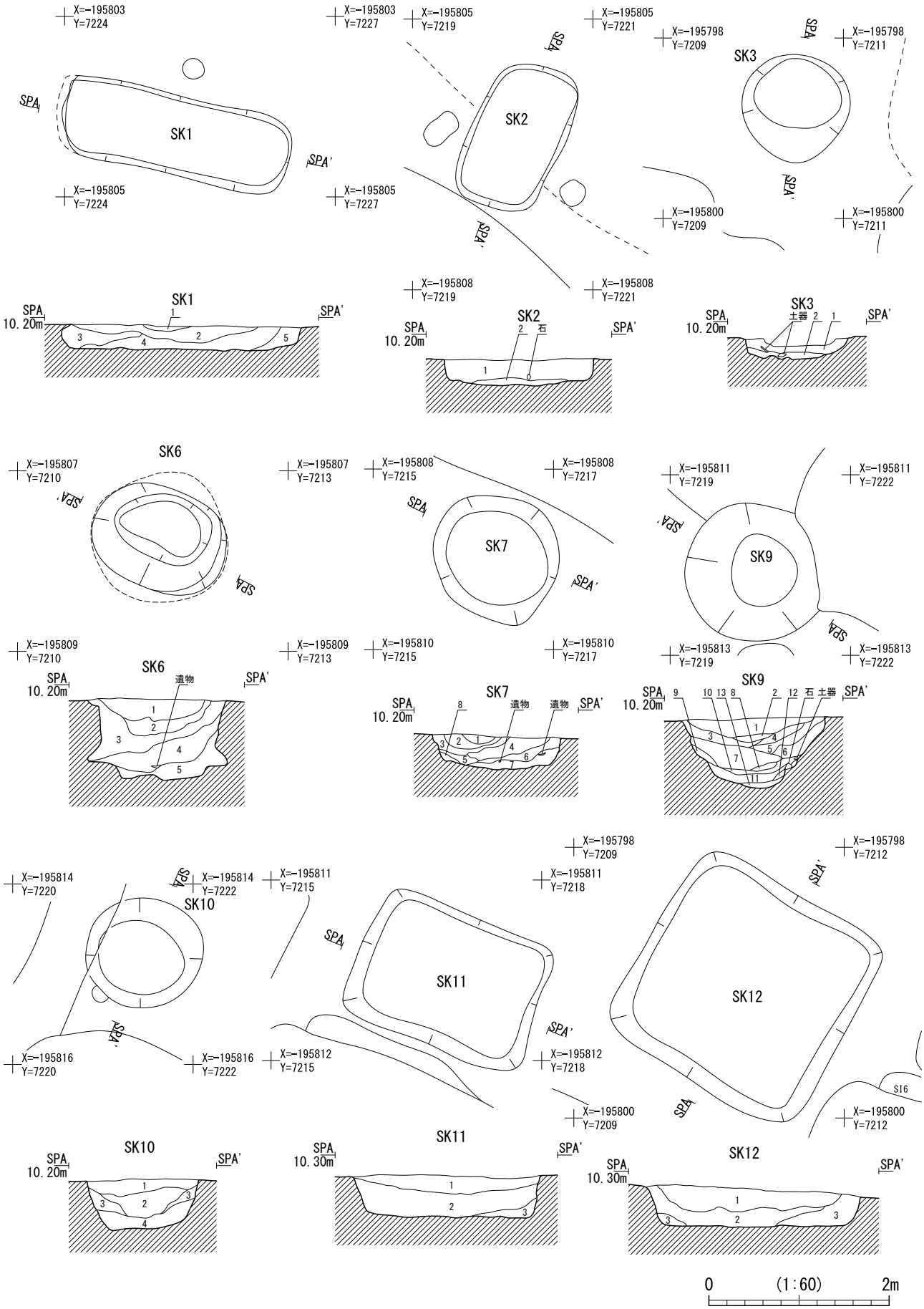
G･H5 グリッドに位置する。重複する SK16 より古く、SK35･42 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 2.54 × 1.80 ｍである。断面形は逆台形で、深さは 47cm である。底面には多少の起伏があり、中央部が若干高く、壁面に向かって緩やかに下る。堆積土は 2 層で、ブロック土を多量に含む人為堆積である。

SK35（第 21 図）

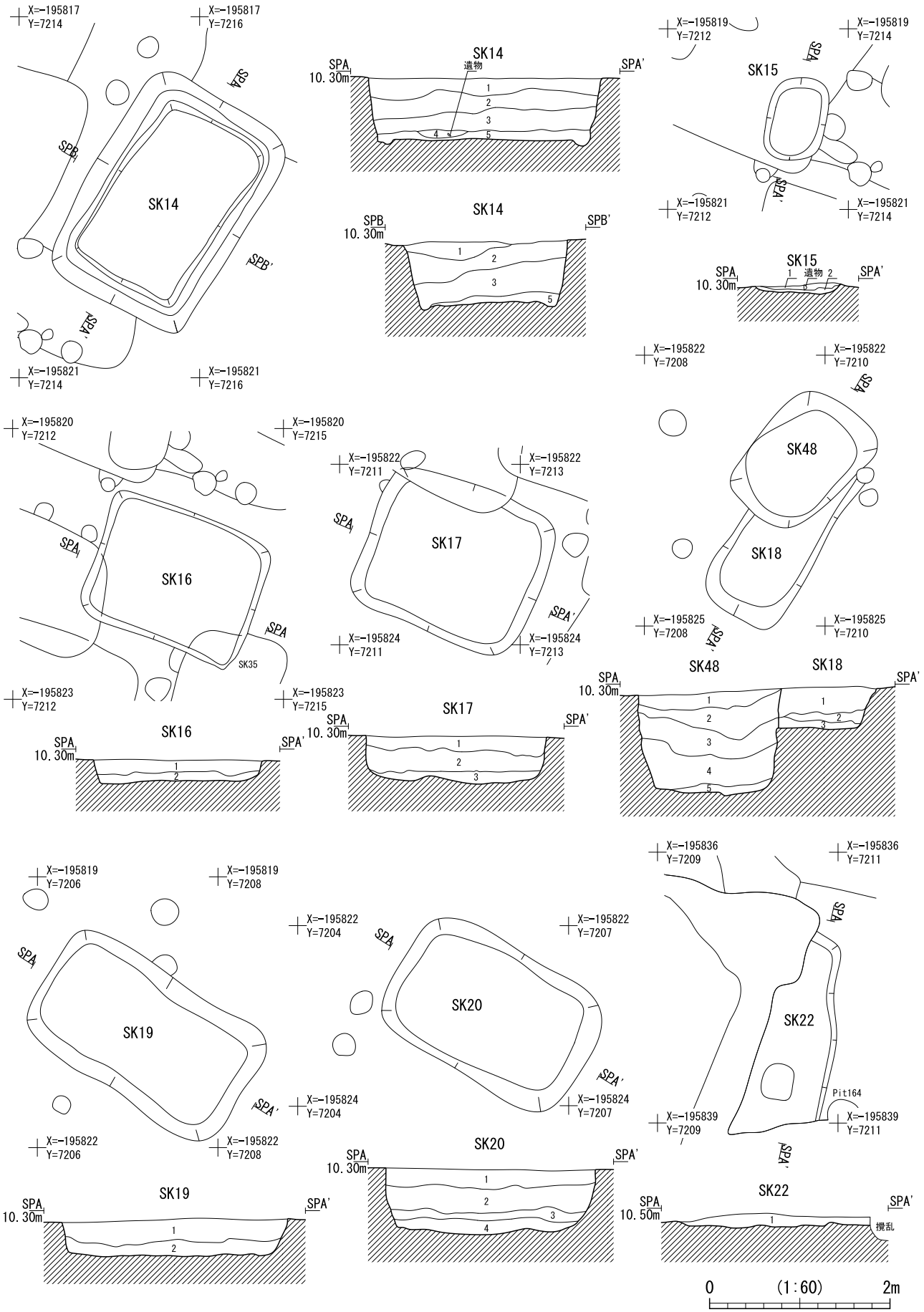
G5 グリッドに位置する。SK16・29 より古く、Pit231 より新しい。規模は（1.34）× 1.10 ｍである。断面形は逆台形で、深さは 35cm である。堆積土は 2 層で、1 層目は明黄褐色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

SK36（第 21 図）

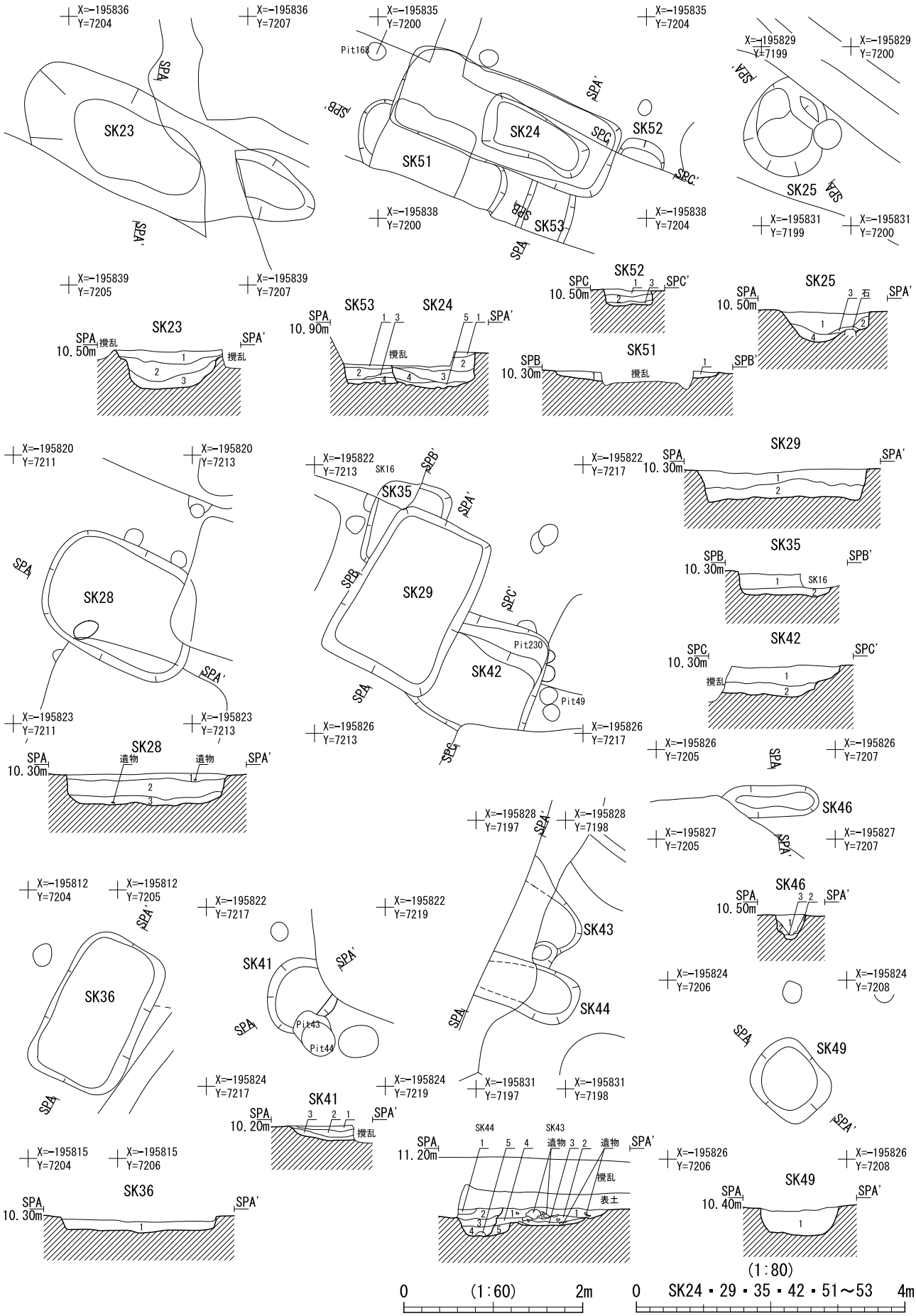
E3・F3 グリッドに位置する。重複する SX10 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 1.75 × 1.07 ｍである。断面形は逆台形で、深さは 18cm である。底面は平坦である。堆積土は 1 層である。


SK1
SK2
SK3
SK6
SK7
SK9
SK10
SK11
SK12
SPA
SPA'
10.20m
10.30m
遺物
土器
石
0
(1:60)
2m

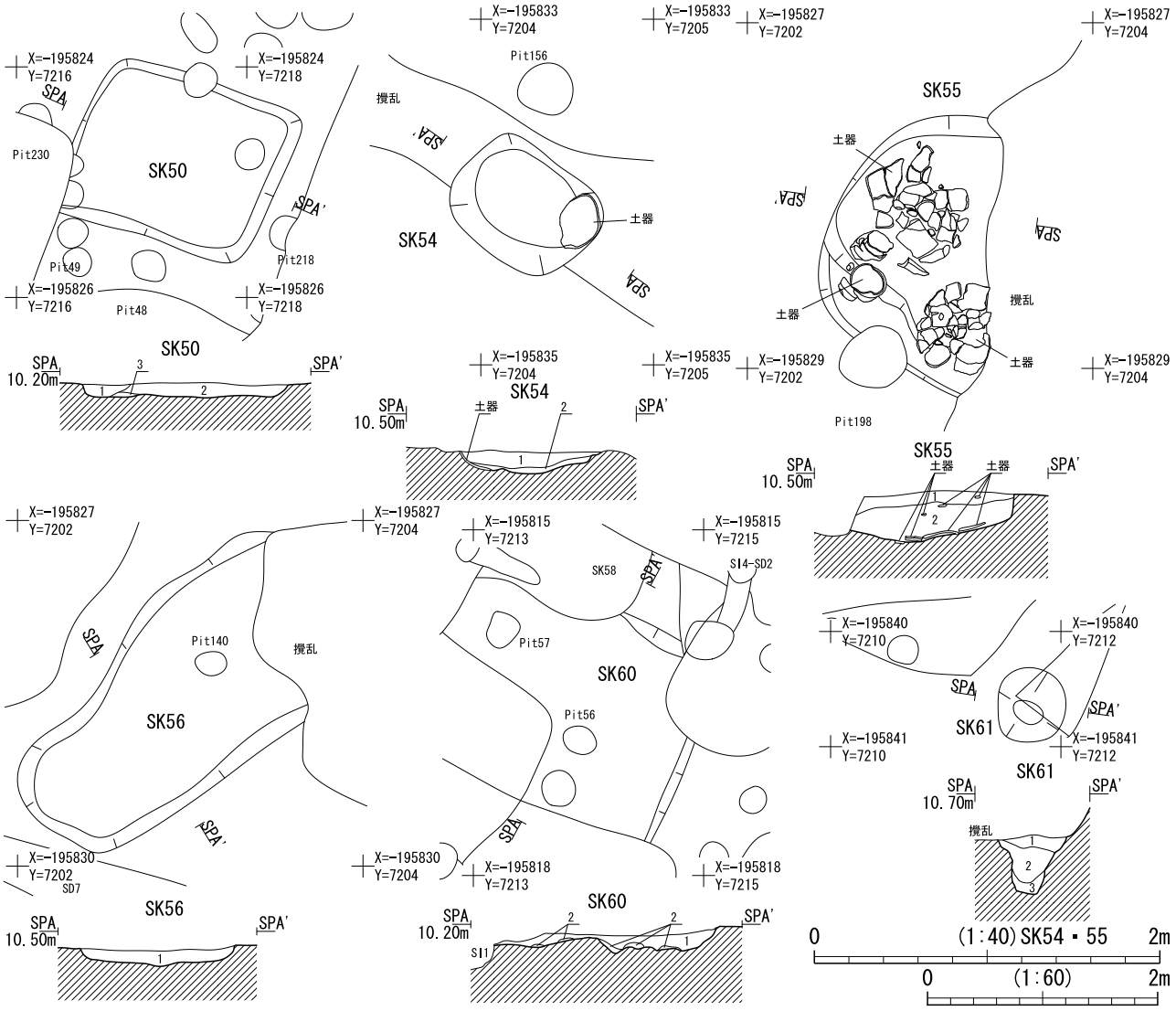
第 19 図　SK 土坑（1）


X=-195817
Y=7214
X=-195817
Y=7216
SPA
SPB
SK14
SPB'
SPA'
X=-195821
Y=7214
X=-195821
Y=7216
SK14
遺物
SPA
10.30m
SPA'
1
2
3
4
5
SK14
SPB
10.30m
SPB'
1
2
3
5
X=-195819
Y=7212
X=-195819
Y=7214
SPA
SK15
SPA'
X=-195821
Y=7212
X=-195821
Y=7214
SK15
SPA
10.30m
1
遺物
2
SPA'
X=-195822
Y=7208
X=-195822
Y=7210
SPA
SK48
SK18
SPA'
X=-195825
Y=7208
X=-195825
Y=7210
X=-195820
Y=7212
X=-195820
Y=7215
SPA
SK16
SPA
SK35
X=-195823
Y=7212
X=-195823
Y=7215
SK16
SPA
10.30m
SPA'
1
2
X=-195822
Y=7211
X=-195822
Y=7213
SPA
SK17
SPA'
X=-195824
Y=7211
X=-195824
Y=7213
SK17
SPA
10.30m
SPA'
1
2
3
SK48
SK18
SPA
10.30m
SPA'
1
2
3
4
5
1
2
3
X=-195819
Y=7206
X=-195819
Y=7208
SPA
SK19
SPA'
X=-195822
Y=7206
X=-195822
Y=7208
SK19
SPA
10.30m
SPA'
1
2
X=-195822
Y=7204
X=-195822
Y=7207
SPA
SK20
SPA'
X=-195824
Y=7204
X=-195824
Y=7207
SK20
SPA
10.30m
SPA'
1
2
3
4
X=-195836
Y=7209
X=-195836
Y=7211
SPA
SK22
Pit164
X=-195839
Y=7209
X=-195839
Y=7211
SPA'
SK22
SPA
10.50m
SPA'
1
攪乱
0
(1:60)
2m

第 20 図　SK 土坑（2）


SK23
SK24
SK25
SK28
SK29
SK35
SK36
SK41
SK42
SK43
SK44
SK46
SK49
SK51
SK52
SK53
Pit168
Pit230
Pit49
Pit43
Pit44
撹乱
遺物
表土
石
(1:60)
(1:80)
0
2m
4m
SK24・29・35・42・51～53

第21図　SK土坑（3）



遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土　性	備　　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
SK1	C7 ～ D7	隅丸長方形	256 × 86	28	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	SR1 より新しい。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）、明黄褐色土ブロックを多量に含む。	
					3	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）、浅黄橙ブロックを多量に含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（20mm 程度）多量に、明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を含む。	
					5	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（20mm 程度）多量、浅黄色ブロックを含む。	
SK2	D6	隅丸長方形	166 × 103	28	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）、にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）、明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。酸化した鉄分を含む。	SR1 より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（20mm 程度）、酸化した鉄分を含む。	
SK3	B・C4	円形	120 × 120	23	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物ブロック（10mm 程度）を微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。	
SK6	D4・5	楕円形	153 × 110	89	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	小礫（10mm 程度）多量に含む。褐灰色土（30mm 程度）、明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。	
					2	10YR7/6 明黄褐色	シルト	こぶし大の褐灰色土ブロックを含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（50mm 程度）を少量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	こぶし大以下の明黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロックを含む。礫（50mm 程度）を少量含む。	
					5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	礫（50mm 程度）を含む。	

第 22 図　SK 土坑（4）

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土　色	土　性	備　　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
SK7	D・E5・6	円形	143 × 136	36	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土（50mm 程度）を含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）を少量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）を少量含む。炭化物（10mm 程度）を少量含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）、にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。	
					5	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土（50mm 程度）をひとかたまり含む。	
					6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
					7	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。	
					8	10YR3/1 黒褐色	シルト		
SK9	E6	円形	159 × 159	78	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。酸化した鉄分を含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色土ブロック（50mm 程度）を多量に含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰白色土ブロック（50mm 程度）、酸化した鉄分を含む。	
					4	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色土ブロック（10mm 程度）、酸化した鉄分を含む。	
					5	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色土ブロック（50mm 程度）、酸化した鉄分を少量含む。	
					6	10YR5/1 褐灰色	シルト	こぶし大以下の灰白色土ブロック、褐灰色土ブロックを含む。	
					7	10YR5/1 褐灰色	シルト	こぶし大以下の灰白色土ブロック、褐灰色土ブロック、酸化した鉄分を含む。	SD12 より新しい。撹乱で北東部が失われている。
					8	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰白色土ブロック（10mm 程度）、酸化した鉄分を含む。	
					9	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。	
					10	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
					11	10YR4/1 褐灰色	シルト	酸化した鉄分を含む。	
					12	10YR7/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	褐灰色土を層状に含む。	
					13	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
SK10	F6・7	円形	128 × 124	56	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色白粘性土ブロック（100mm 程度）を含む。にぶい黄褐色土ブロック（100mm 程度）を含む。酸化した鉄分を含む。	
					2	10YR8/2 灰白色	粘質シルト	褐灰色土ブロック（100mm 程度）を含む。酸化した鉄分を多量に含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）、にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。	Pit181 より新しい。
					4	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（50 ～ 100mm 程度）とにぶい黄橙色土ブロック（50 ～ 100mm 程度）を含む。	
SK11	E5・6	隅丸長方形	210 × 149	46	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。	
					3	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。	
SK12	E5	隅丸方形	245 × 241	45	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	明黄褐色土（30mm 程度）、褐灰色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	明黄褐色土（30mm 程度）、褐灰色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。	
					3	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	明黄褐色土（10mm 程度）、褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
SK14	F5・6、G5	隅丸長方形	258 × 181	75	1	10YR7/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（50mm 程度）を多量に含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（80mm 程度）を多量に含む。	
					3	10YR7/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。	SI1・5、Pit214・244 より新しい。
					4	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（50mm 程度）を含む。	
					5	10YR6/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。	
SK15	G5	隅丸長方形	96 × 65	11	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（30mm 程度）と骨片を含む。	SI1・SI1-P6、SD21、Pit187 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（50mm 程度）を多量に含む。骨片を少量含む。	
SK16	G5	隅丸長方形	187 × 147	27	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（50mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を含む。	SK28･29･35、Pit231、SX10 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（50mm 程度）を多量含む。土の粒子が大きく砂っぽい。	
SK17	G4・5	隅丸長方形	199 × 173	53	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）、にぶい黄橙色度ブロック（30mm 程度）を含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（10mm 程度）を少量含む。	SK28より古い。Pit265、SX10 より新しい。
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。	
SK18	G・H4	隅丸長方形	(200) × 95	47	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。	Pit111、SK48 より古い。
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。	
SK19	G・4	隅丸長方形	251 × 138	42	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	SA2-Pit103、SX10 より新しい。
SK20	G3・4	隅丸長方形	233 × 149	71	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土（20mm 程度）を含む。	
					2	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）、炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土（20mm 程度）を含む。	
					4	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	φ 3㎝以下の明黄褐色土ブロックをとφ 5㎜以下の炭化物を少量含む。	
SK22	J4	不明	(226) × (86)	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土（10mm 程度）を含む。	撹乱で南・西側が失われている。
SK23	J3・4	不整形長楕円形	347 × (115)	43	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	褐灰色土ブロック（50mm 程度）を少量、にぶい黄橙色土（10mm 程度）を含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	黒褐色土ブロック（30mm 程度）を少量、にぶい黄橙色土（10mm 程度）を少量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。	

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土　色	土　性	備　　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
SK24	J2・3	隅丸長方形	338 × 134	55	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土（50mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	SK51･53 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（50mm 程度）を多量に含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。	
					4	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。	
					5	10YR7/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を含む。	
SK25	I2	（不整円形）	99 ×（99）	33	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色土（火山灰）（30mm 程度）を含む。	SD6、Pit147 より古い。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
					3	10YR7/6 明黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を多量に、炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
SK28	G4・5	隅丸長方形	180 × 134	36	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色ブロック（20mm 程度）を含む。	SK16より古い。SK17、Pit232・274・275、SX10 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（10mm 程度）を微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色ブロック（30mm 程度）を含む。	
SK29	G5・H5	隅丸長方形	254 × 180	47	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土（10mm 程度）多量、炭化物（5mm 程度）を微量含む。	SK16より古い。SK35、SK42 より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土（30mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を多量含む。	
SK35	G5	（隅丸長方形）	（134）× 110	35	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。	SK16・29 より古い。Pit231 より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
SK36	E3・F3	隅丸長方形	175 × 107	18	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）と褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。	SX10 より新しい。
SK41	G6	（楕円形）	75 ×（70）	17	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（50mm 程度）を含む。	Pit43 より古い。攪乱で北東側が失われている。
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	にぶい灰白色ブロック土（30mm）を少量含む。	
					3	10YR7/3 にぶい黄橙色	シルト		
SK42	H5	（隅丸方形）	177 ×（148）	46	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を含む。	SK29より古い。SK50、Pit183・184・230より新しい。攪乱で南側が失われている。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
SK43	H・I2	不整形	（85）×（46）	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）を含む。	SK44 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）を含む。炭化物（10mm 程度）を少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）を含む。	
					4	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色土（10mm 程度）を含む。	
					5	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土（10mm 程度）を少量含む。	
SK44	I2	（長楕円形）	（52）× 59	31	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト		SK43 より新しい
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（5mm 程度）を含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（5mm 程度）を微量、にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（5mm 程度）を微量含む。にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
					5	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト		
SK46	H3・4	（長楕円形）	（107）× 35	28	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	攪乱で南西側が失われている。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
SK48	G4	隅丸長方形	157 × 109	118	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。	Pit111より古い。SK18より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）、炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。	
					5	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。	
SK49	H4	隅丸方形	88 × 75	32	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土（30mm 程度）を含む。炭化物（10mm 程度）を微量含む。	
SK50	G6・H5・6	隅丸長方形	179 × 146	30	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（20mm 程度）を多量、褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	SK42、Pit183・184・186・188 より古い。
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	浅黄橙色土ブロック（20mm 程度）と褐灰色土ブロック（20mm 程度）を含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト		
SK51	J2・3	（長楕円形）	242 ×（102）	13	1	10YR7/8 黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。	SK24 より古い。攪乱で中央部が失われている。
SK52	J3	（楕円形）	71 ×（33）	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。炭化物（10mm 程度）を微量含む。	攪乱で南側が失われている。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。	
SK53	J3	不明	76 ×（70）	29	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（50mm 程度）を多量に含む。	SK24 より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）と炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
					3	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色土ブロック（5mm 程度）と炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（5mm 程度）とにぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を含む。	
SK54	I・J3	隅丸長方形	84 × 65	13	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）をごく微量含む。	Pit196 より古い。攪乱で上層が失われている。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（5mm 程度）をごく微量含む。	

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土　色	土　性	備　　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
SK55	H3	不明（不整楕円形）	162×(102)	28	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）、炭化物（5mm 程度）を少量含む。	Pit198 より古い。撹乱で東側が失われている。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
SK56	I4・5	不整形	(290)×165	13	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（100mm 程度）を含む。	検出面の層よりブロック土が多く、粘性がある。Pit140 より古い。撹乱で北東側が失われている。
SK59	F5	不明	(80)×(40)	19	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（20mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	SI4、SI4-SD2、Pit260より古い。SK60より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
SK60	F5	（隅丸方形）	(245)×(195)	15	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	こぶし大以下のにぶい黄橙色土ブロックを多量に含む。	SI1 ～ 4、SK58・59、Pit55・56・57 より古い。
					2	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
SK61	K4・5	円形	65×59	51	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		撹乱で上層部が失われている。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト		

SK41（第 21 図）

G6 グリッドに位置する。重複する Pit43 より古い。攪乱によって北東側が失われている。規模は 0.75 ×（0.7）m である。断面形は皿状形である。深さは 17cm である。堆積土は 3 層に分層した。

SK42（第 21 図）

H5 グリッドに位置する。重複する SK29 より古く、SK50、Pit183・184・230 より新しい。攪乱により南側が失われている。平面形は隅丸方形と推測され、規模は 1.77 ×（1.48）mである。断面形はU字形で北側に段がつく。深さは 46cm である。底面には多少の起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分層した。

SK43（第 21 図）

H・I2 グリッドに位置する。重複する SK44 より古い。平面形は不整形で、北西部調査区外へ続く。断面形は不整形の皿状形である。深さは 30cm である。堆積土は 5 層に分層した。遺物は土師器の坏（第 24 図－ 3）と須恵器の坏（第 24 図－ 4）、土製品（第 24 図－ 5）が出土している。土師器の坏は外面ロクロナデ、内面はヘラミガキ調整の後、黒色処理が施されている。口縁端部が若干厚みを持つ。須恵器の坏は焼成が甘く、全体的に赤い。底部は回転糸切の痕跡がある。土製品は直方体で、表面に浅い窪みがあり、断面に粘土を積んだ痕跡がある。部分的に被熱痕がある。

SK44（第 21 図）

I2 グリッドに位置する。重複する SK43 より新しい。平面形は長楕円形と推測され、北西部調査区外へ続く。規模は(0.52)× 0.59 mである。断面形は逆台形で、深さは 31cm である。堆積土は 5 層に分層した。遺物は須恵器の甕（第 24 図－ 6）が出土している。二次焼成を受けており、剥離が激しい。

SK46（第 21 図）

H3・4 グリッドに位置する。攪乱によって南西側が失われている。規模は（1.07）× 0.35 mである。断面形はU字形である。深さは 28cm である。堆積土は 3 層に分層した。

SK48（第 20 図）

G4 グリッドに位置する。重複する Pit111 より古く、SK18 より新しい。平面形は隅丸長方形で、規模は 1.57 × 1.09 mである。断面形は長方形で、深さは 1.18 mである。底面には多少の起伏があるが、ほぼ平坦である。堆積土は 5 層に分層した。

SK49（第 21 図）

H4 グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、規模は 0.88 × 0.75 mである。断面形は逆台形で、深さは 32cm である。底面は南東側にやや下るが、平坦である。堆積土は 1 層である。

SK50（第 22 図）

G6・H5・6 グリッドに位置する。重複する SK42、Pit183・184・186・188 より古い。平面形は隅丸長方形で、規模は 1.79 × 1.46 mである。断面形は皿形で、深さは 30cm である。底面は平坦である。堆積土は 3 層で、1 層目はにぶい黄橙色土のブロックを多量に含む人為堆積である。

SK51（第 21 図）

J2・3 グリッドに位置する。重複する SK24 より古い。攪乱により中央部が失われている。規模は 2.42 ×（1.02）m である。断面形は皿状で、深さは 13cm である。堆積土は 1 層である。

SK52（第 21 図）

J3 グリッドに位置する。攪乱により南側が失われているが、平面形は楕円形と推測される。規模は 0.71 ×（0.33）mである。断面形は長方形で、深さは 25cm である。堆積土は 3 層で、明黄褐色土のブロックやにぶい黄橙色土のブロックを含む人為堆積である。

SK53（第 21 図）

J3 グリッドに位置する。重複する SK24 より古い。規模は 0.76 ×（0.70）mで、南西側調査区外に続く。断面形は長方形で、深さは 29cm である。底面はわずかに起伏がみられる。堆積土は 4 層で、1 層目に明黄褐色土のブロックが多量に含まれている。

SK54（第 22 図）

I・J3 グリッドに位置する。重複する Pit196 より古い。攪乱により上層が失われている。平面形は隅丸長方形で、規模は 0.84 × 0.65 mである。断面形は皿状形で、深さは 13cm である。堆積土は 2 層である。遺物は古墳時代の土師器の甕（第 24 図－ 7）と甑（第 24 図－ 8）が出土した。東側の底面からは甕の体部が出土した。出土状況と堆積土の状況からは、原位置を保っていないと考えられる。土師器の甕は胴部から底部である。胴の径にくらべ、底径が小さめである。甑は、底部は丸みを帯び、多孔式である。口縁部は外反して立ち上がり端部を丸くおさめる。

SK55（第 22 図）

H3 グリッドに位置する。重複する Pit198 より古い。東側が攪乱で失われているが、平面形は不整楕円形と考えられる。規模は 1.62 ×（1.02）mである。断面形は台形で、深さは 28cm である。堆積土は 2 層である。遺物は土師器（第 24 図－ 9 ～第 25 図－ 1 ～ 5）が出土した。主な器種は甕で、古墳時代のものと考えられる。堆積土中には、甕の上部が横向きで破片になって入っていた。中央の底面には甕がつぶれたように、破片となって広がっていた。出土状況からは、底面のものはほぼ原位置で壊れたと考えられる。甕は 5 点（第 24 図－ 9、第 25 図－ 1 ～ 4）図化した。第 24 図－ 9 は、ほぼ完形の甕である。調整は内外面ともに、口縁部ヨコナデ調整、体部はヘラナデの後一部ヘラミガキ調整される。丸い体部から屈曲して、口縁部は外反する。底部は厚みがあり、底面は若干窪む。甑（第 25 図－ 5）は底部をきれいに打ち欠いており、甕から転用された甑である。頸部でくびれ、口縁部は外反して立ち上がる。

SK56（第 22 図）

I4・5 グリッドに位置する。重複する Pit140 より古い。攪乱により北東側が失われている。平面形は不整形で、規模は（2.90）× 1.65 mである。断面形は中央部が窪む皿形で、深さは 13cm である。堆積土は 1 層である。青磁の碗（第 25 図－ 6）が出土している。鎬蓮弁文の碗である。

SK59

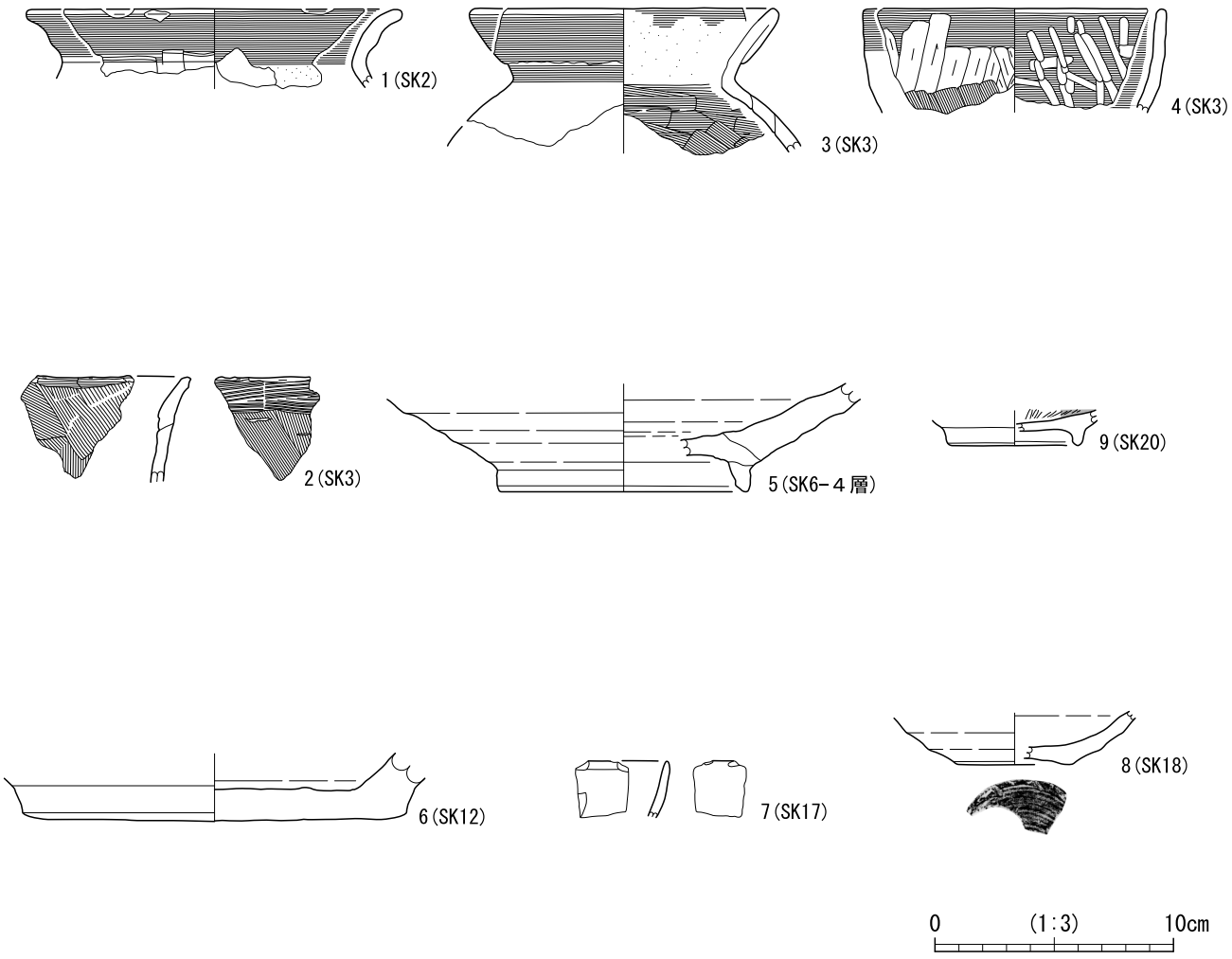
F5 グリッドに位置する。重複する SI4、SI4 － SD2、Pit260 より古く、SK60 より新しい。断面形は皿形で、深さは 19cm である。底面はかなり起伏がある。堆積土は 2 層に分層した。

SK60（第 22 図）

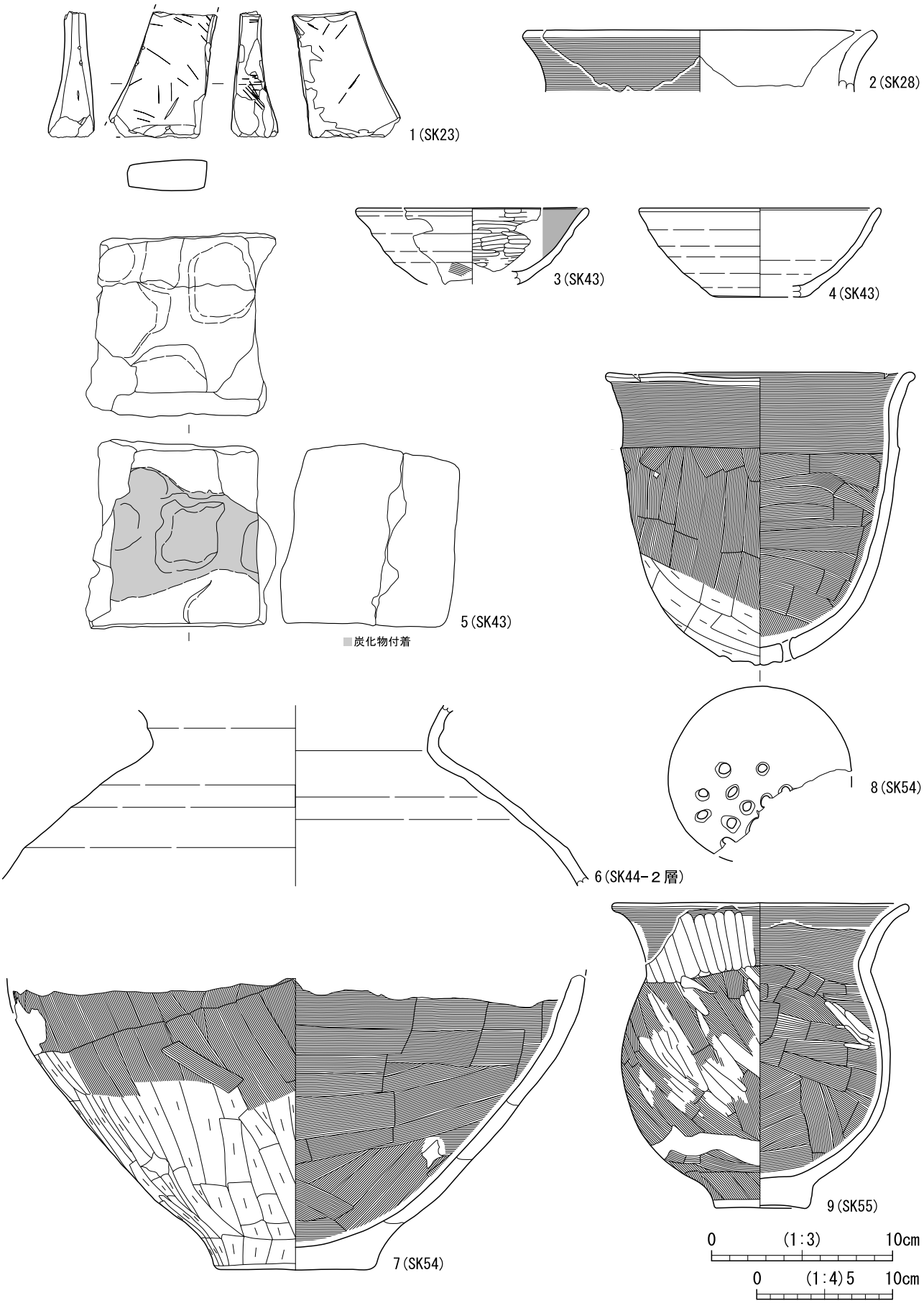
F5 グリッドに位置する。重複する SI1 ～ 4、SK58・59、Pit55・56・57 より古い。断面形は起伏のある皿形で、深さ 15cm である。堆積土は 2 層である。こぶし大以下のにぶい黄橙色土のブロックを多量に含む人為堆積である。遺物は土製品の土玉（第 25 図－ 7）が出土している。中心に直径 7mm 程度の孔が穿たれる。そのほか鉄滓が出土している。

SK61（第 22 図）

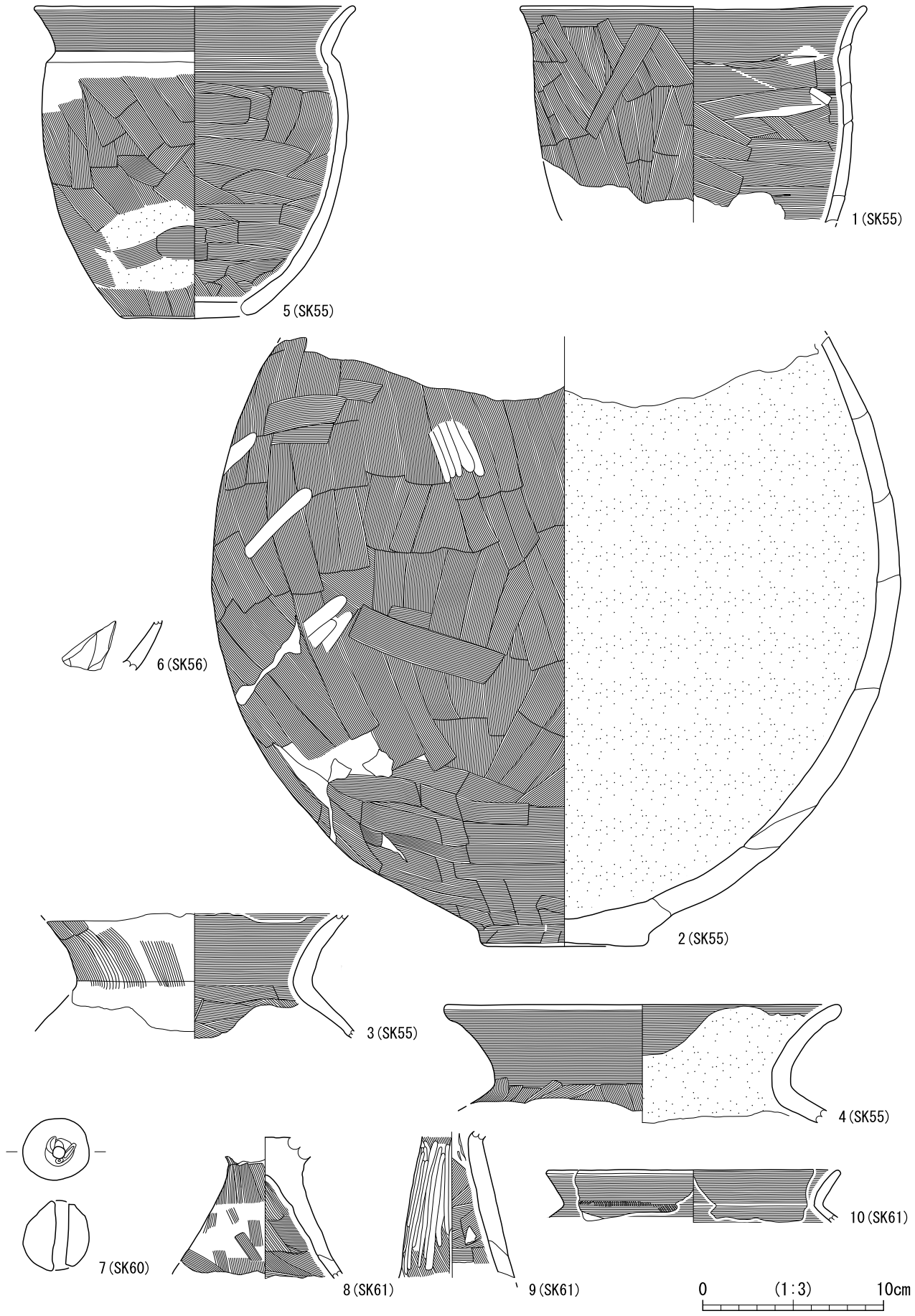
K4・5 グリッドに位置する。攪乱により上層が失われている。平面形は円形で、規模は 0.65 × 0.59 mである。断面形は漏斗形で、深さは 51cm である。堆積土は 3 層である。遺物は土師器の高坏（第 25 図－ 8・9）と甕（第 25 図－ 10）が出土している。高坏は脚部片で、8 は内外面ともにヘラナデ、一部にユビナデ調整される。9 は外面の調整はヘラナデ調整の後に縦方向のヘラミガキを施す。10 の甕は口縁部から頸部のみ残存する。調整はヨコナデであるが、頸部外面にハケ目調整が残る。



第 23 図　SK 土坑出土遺物（1）



第 24 図　SK 土坑出土遺物（2）



第 25 図　SK 土坑出土遺物（3）

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
								口径	底径	器高				
23-1	C-02	SK2	−	土師器	甕	口縁部	古墳	15.8	−	(3.3)	口縁部ヨコナデ 頸部ナデ・ヘラナデ	ヨコナデ		11-6
23-2	C-05	SK3	−	土師器	甕	口縁部	古墳	−	−	(4.4)	口縁端部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ	口縁端部ヘラケズリ 口縁部ヨコハケメ 胴部ヘラナデ		11-7
23-3	C-03	SK3	−	土師器	甕	口縁部～肩部		12.6	−	(6.1)	口縁部ヨコナデ 頸部ヘラナデ→ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ		11-8
23-4	C-04	SK3	−	土師器	鉢	口縁部		12.4	−	(4.4)	口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ→ヘラナデ	ヨコナデ→ヘラミガキ		11-9
23-5	I-03	SK6	4 層	陶器	鉢	底部		−	10.4	(3.8)	ロクロナデ	ロクロナデ		11-10
23-6	I-04	SK12	−	陶器	甕	底部		−	16.1	(2.85)	ロクロナデ	−		11-14
23-7	J-01	SK17	−	青磁	碗	口縁部		−	−	(2.4)	−	−		11-13
23-8	D-01	SK18	−	須恵器	坏	体部～底部		−	4.8	(2.2)	体部ロクロナデ 底部回転糸切	ロクロナデ		11-11
23-9	C-06	SK20	−	土師器	高台付坏	底部		−	5.4	(1.45)		ヘラミガキ	内面黒色処理	11-12
24-2	C-07	SK28	−	土師器	甕	口縁部	古墳	19.2	−	(3.4)	ヨコナデ	剥離により不明		11-16
24-3	D-02	SK43	−	土師器	坏	底部欠損	平安	12.4	−	(4.2)	ロクロナデ　ナデ	ヘラミガキ	内面黒色処理	11-15
24-4	D-03	SK43	−	須恵器	坏	底部欠損		(15.4)	5.0	4.9	体部ロクロナデ 底部回転糸切	ロクロナデ		11-17
24-6	E-01	SK44	2 層	須恵器	甕	頸部～肩部		−	−	(10.0)	ロクロナデ	ロクロナデ		12-1
24-7	C-09	SK54	−	土師器	甕	胴部～底部		−	8.8	(15.8)	ケズリ→ヘラナデ	ヘラナデ	内面二次焼成	12-2
24-8	C-08	SK54	−	土師器	甑	口縁部～底部		16.8	−	16.2	口縁部ヨコナデ 胴部ハケメ 底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ		12-3
24-9	C-10	SK55	−	土師器	甕	全体	古墳	16.4	5.3	16.9	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ 胴部ヘラナデ→ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ→ヘラミガキ		12-4
25-1	C-12	SK55	−	土師器	甕	口縁部～胴部	古墳	19.2	−	(11.9)	口縁部ヨコナデ→ 胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ	積み痕あり	12-6
25-2	C-15	SK55	−	土師器	甕	口縁部欠損		−	9.2	(33.7)	胴上部ヘラナデ→ヘラミガキ 胴部ヘラナデ	内面磨耗		13-7
25-3	C-13	SK55	−	土師器	甕	口縁部～肩部	古墳	16.9	−	(6.5)	口縁部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ		12-5
25-4	C-14	SK55	−	土師器	甕	口縁部		(22.0)	−	(6.4)	口縁部ヨコナデ 胴部上端ハケメ	口縁部ヨコナデ 胴部上端ナデ		12-7
25-5	C-11	SK55	−	土師器	甑	底部欠損		17.5	7.2	17.3	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ		13-1
25-6	J-02	SK56	−	青磁	碗			−	−	(2.7)	−	−	鎬蓮弁文	13-2
25-8	C-17	SK61	−	土師器	高坏	脚部	古墳	−	−	(7.8)	ヘラナデ 裾部ユビナデ	上部ユビナデ ヘラナデ		13-5
25-9	C-16	SK61	−	土師器	高坏	脚部	古墳	−	−	(8.15)	脚部ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ		13-6
25-10	C-18	SK61	−	土師器	甕	口縁部	古墳	15.8	−	(2.6)	口縁部ヨコナデ 頸部ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ		13-4

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整	備　考	写真図版
								長さ	幅	厚さ			
24-5	P-06	SK43	−	土製品	直方体土製品	−	不明	14	13.9	13.2	−	積み痕あり	11-19

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	時期	法量（cm）			重さ（g）	石材	備　考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
24-1	K-14	SK23	−	石製品	砥石	−	(7.00)	(5.85)	2.55	99.4	凝灰岩	砥面は 3 面　上下端欠損	11-18

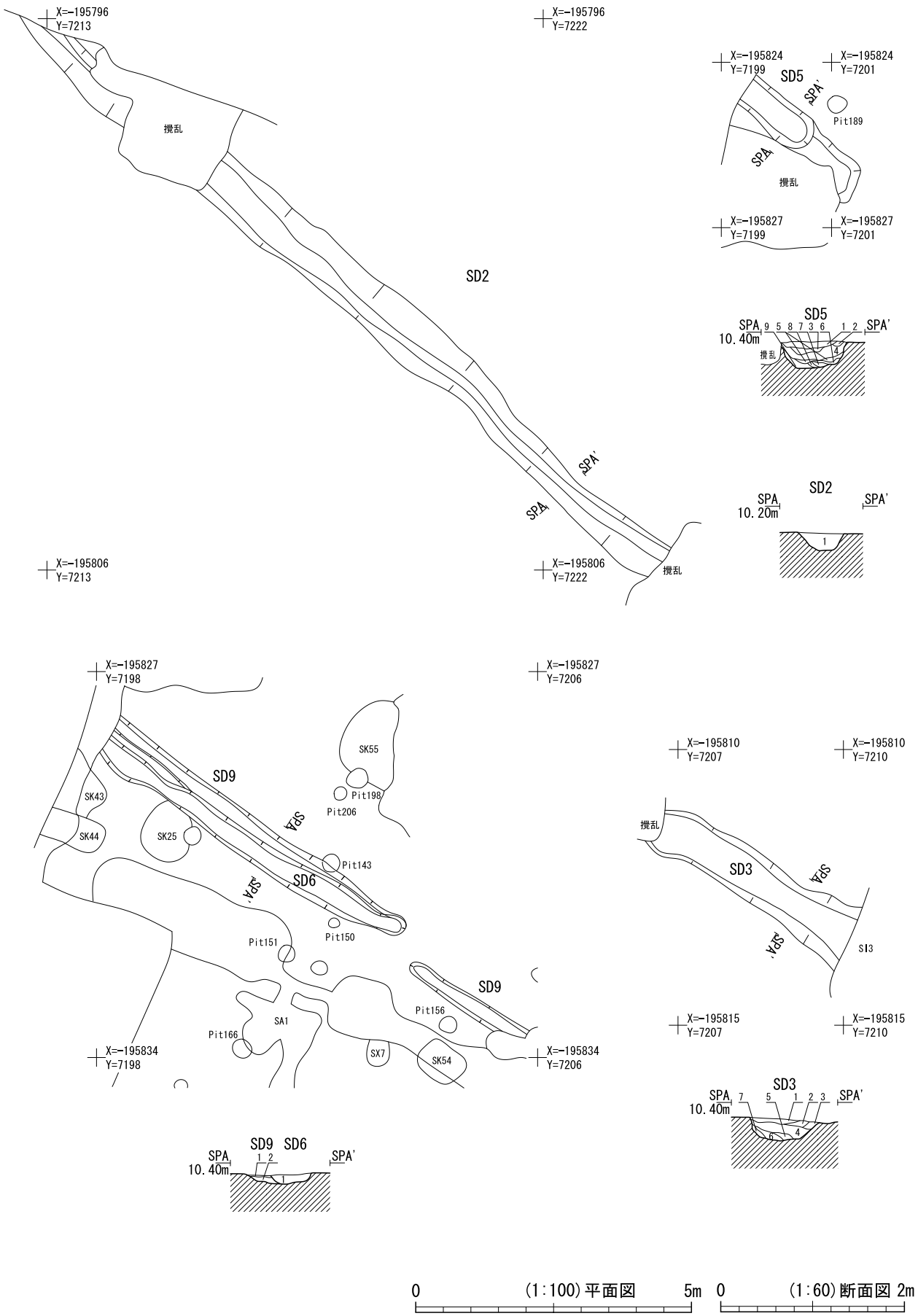
図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	備　考	写真図版
								直径	全長	孔径			
25-7	P-02	SK60	−	土製品	土玉	−		3.6	3.9	0.7 ～ 0.75		41.5 g	13-3

5. 溝跡

12 条の溝跡を検出した。調査区の北側で検出した SD11・12・13 は、南小泉遺跡第 62 次で確認された SD22・25・26 溝跡のつづきである。

SD2（第 26 図）

北端部に位置する。重複する SR1 より新しい。攪乱により北西・南東部が失われている。第 62 次調査で確認された SD20 の延長と考えられる。規模は、検出長 14.6 m、上端幅 0.5 ～ 0.96 m、下端幅 0.08 ～ 0.48 mである。断面形は逆台形で、深さは約 19cm である。底面は東に向かって傾斜する。


X=-195796
Y=7213
X=-195796
Y=7222
X=-195824
Y=7199
X=-195824
Y=7201
SD5
SPA'
SPA
Pit189
攪乱
X=-195827
Y=7199
X=-195827
Y=7201
SD2
SD5
SPA
10.40m
9 5 8 7 3 6
1 2
SPA'
攪乱
4
SD2
SPA
10.20m
SPA'
1
X=-195806
Y=7213
X=-195806
Y=7222
攪乱
X=-195827
Y=7198
X=-195827
Y=7206
SD9
SK43
SK44
SK25
SK55
Pit198
Pit206
SPA
SPA'
Pit143
SD6
Pit151
Pit150
SD9
Pit156
SA1
Pit166
SX7
SK54
X=-195834
Y=7198
X=-195834
Y=7206
X=-195810
Y=7207
X=-195810
Y=7210
攪乱
SD3
SPA
SPA'
SI3
X=-195815
Y=7207
X=-195815
Y=7210
SD3
SPA
10.40m
7
5
1
2
3
SPA'
6
4
SD9 SD6
SPA
10.40m
1 2
SPA'
0
(1:100)平面図
5m
0
(1:60)断面図 2m

第 26 図　SD 溝跡（1）

SD3（第 26 図）

中央部西側に位置する。重複する SI3 より古い。攪乱により北西部が失われている。規模は検出長 3.93 m、上端幅 0.74 ～ 1.26 m、下端幅 0.41 ～ 0.8 mである。断面形は弧状形で、深さは 26cm である。底面は南東に向かって傾斜する。遺物は鏡形の石製模造品（第 29 図－ 1）が出土している。

SD5（第 26 図）

南西部に位置する。攪乱により南東部が失われている。規模は検出長 2.7 m、上端幅 0.61 ～ 0.72 m、下端幅 0.43 ～ 0.44 mである。断面形は逆台形で、深さは 30cm である。

SD6（第 26 図）

南西部に位置し、調査区外へ西に延びる。重複する SD9・Pit190 より新しい。規模は検出長 6.37m、上端幅 0.26 ～ 0.5 m、下端幅 0.17 ～ 0.35m である。断面形は皿状形で、深さは 10cm である。遺物は土師器の坏（第 29 図－ 2）、陶器の甕（第 29 図－ 3）が出土している。土師器の坏は、外面はロクロナデ調整、内面はヘラミガキ調整の後、黒色処理が施される。陶器の甕は、外面はナデ調整であるが、内面は剥離しており調整は不明である。

SD7（第 27 図）

南部に位置し、調査区外へ東に延びる。重複する Pit193・194・201 より新しい。規模は検出長 8.63m、上端幅 0.23 ～ 0.79 m、下端幅 0.14 ～ 0.57 mである。断面形は皿形で、深さは 12cm である。

SD8（第 27 図）

南部に位置し、調査区外へ東に延びる。重複する SX6 より古い。規模は検出長 8.95 m、上端幅 0.76 ～ 0.97 m、下端幅 0.44 ～ 0.72 mである。断面形は皿形で、深さは 19cm である。遺物は瓦（第 29 図－ 4）が出土した。丸瓦で、凸面は縄目の後の叩き痕、凹面は布目痕を残す。側縁はケズリ調整される。

SD9（第 27 図）

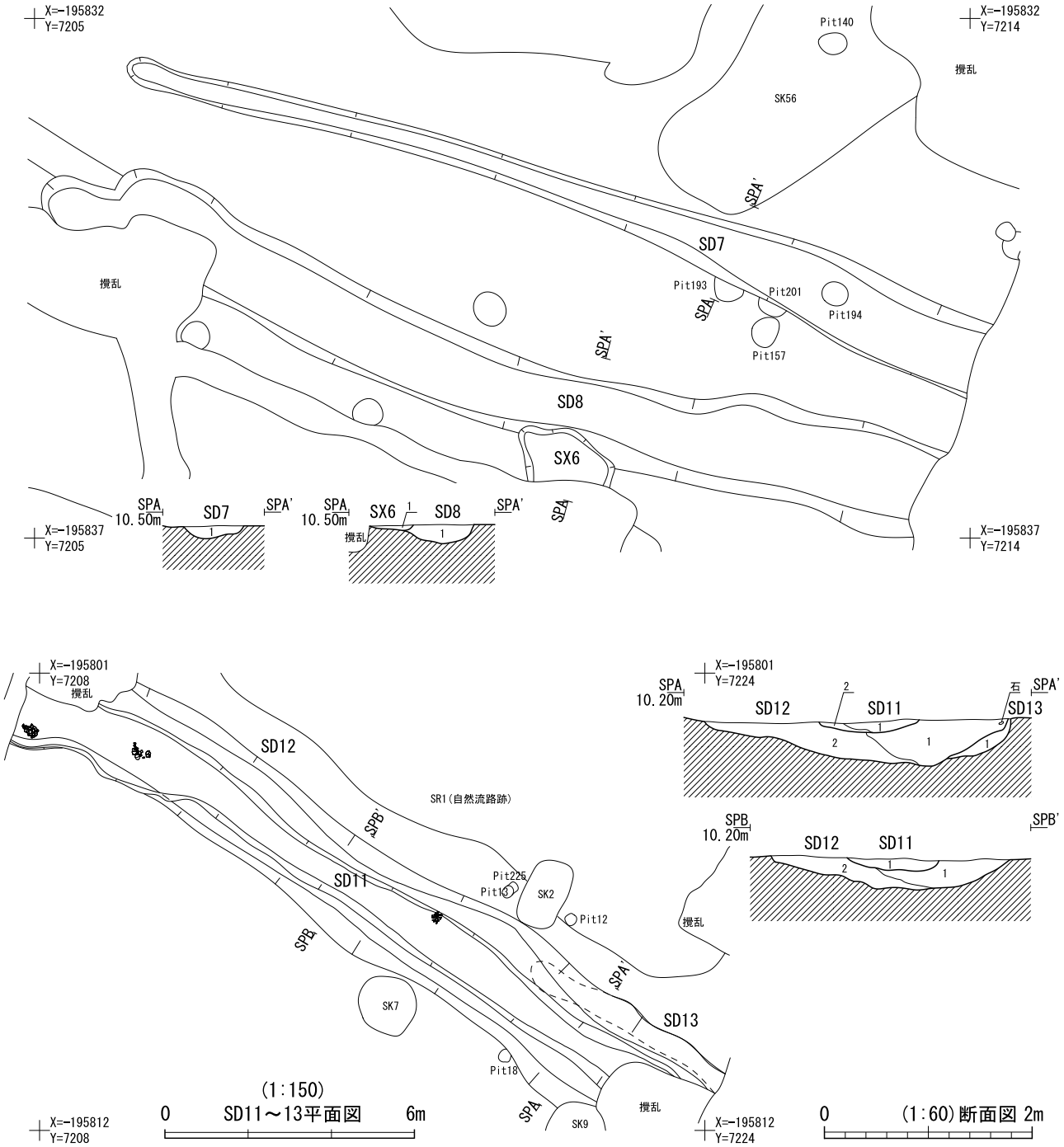
南西部に位置し、調査区外へ西に延びる。重複する SD6 より古い。規模は検出長 9.60 m、上端幅 0.25 ～ 0.35 m、下端幅 0.13 ～ 0.23 mである。断面形は皿形で、深さは 9cm である。

SD11（第 27 図）

北部に位置し、調査区外へ延びる。重複する SD12・13 より新しい。第 62 次調査で確認された SD22 と同じ溝跡である。規模は検出長 18.4 m、上端幅 0.87 ～ 1.64 m、下端幅 0.59 ～ 1.4 mである。断面形は皿状形で、深さは 13cm である。堆積土は 2 層で、浅黄橙色土のブロックを多量含む人為堆積である。遺物は底面から石製品の管玉（第 29 図－ 5）が出土している。

SD12（第 27 図）

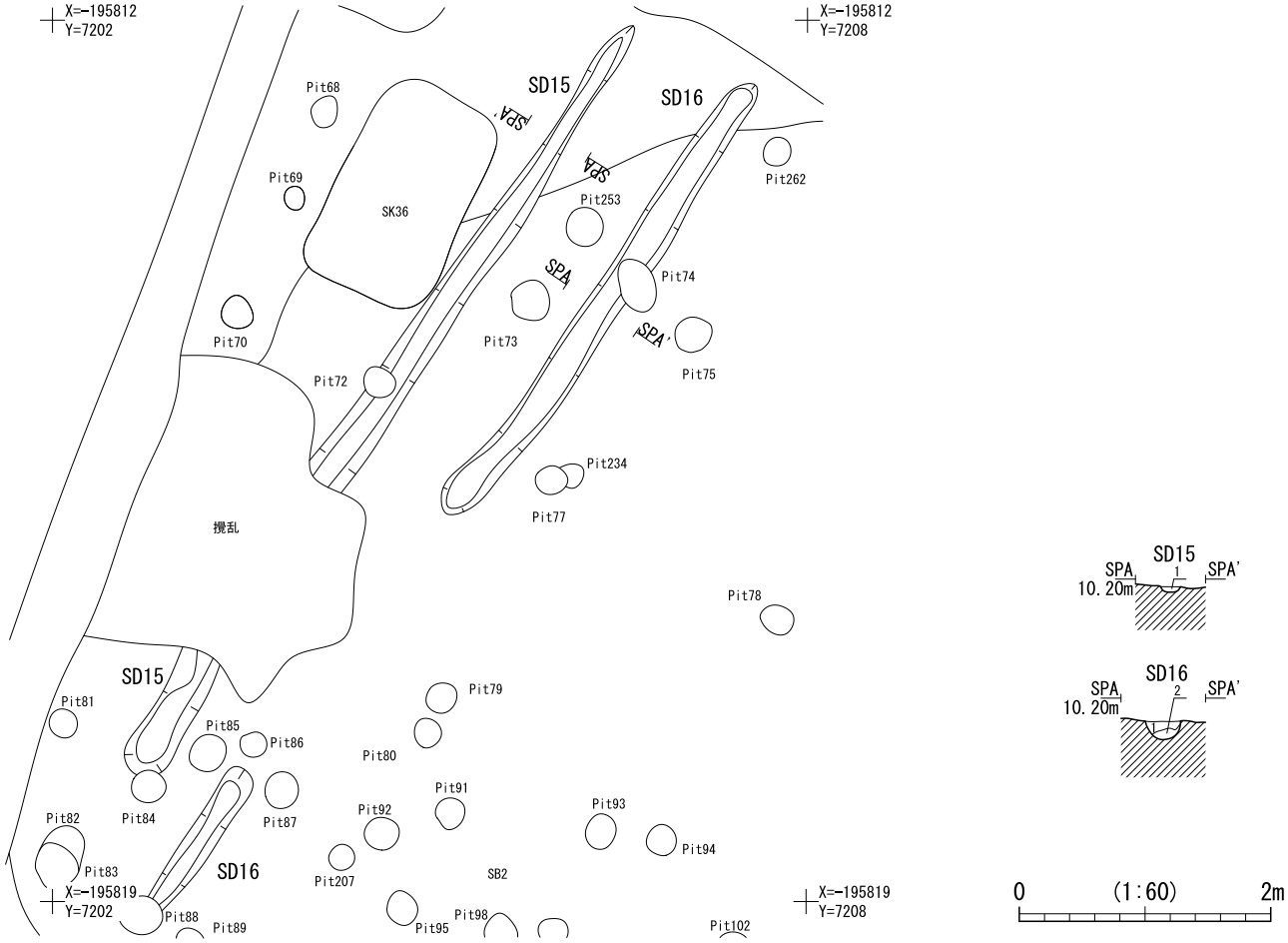
北部に位置する。重複する SD11 より古く、SD13 より新しい。第 62 次調査で確認された SD25 と同じ溝跡である。検出した規模は、検出長 19.26 m、上端幅 2.11 ～ 3.04 m、下端幅 1.62 ～ 2.15 mである。断面形は皿状形で、深さは 33cm である。遺物は弥生土器（第 29 図－ 6）、土師器（第 29 図－ 7 ～ 10・第 30 図－ 1）や須恵器（第 29 図－ 11）、石製模造品（第 29 図－ 12 ～ 14）が出土した。弥生土器は、壺形土器の頸部と思われる。3 条一単位の沈線文が施される。古墳時代の土師器の高坏 7・8 は坏部、9 は脚部である。そのほか甕（第 29 図－ 10・第 30 図－ 1）が出土している。須恵器は器台の脚部である。突帯と突帯の間に櫛書きの波状文が施される。石製模造品の剣形 12 と、鏡形 13・14 が出土している。12 は、鏑はなく平坦だが、片面には刃の表現がなされている。13 は、両面とも左穴の穿孔位置を変更している。



第 27 図　SD 溝跡（2）・SX 性格不明遺構（1）

SD13（第 27 図）

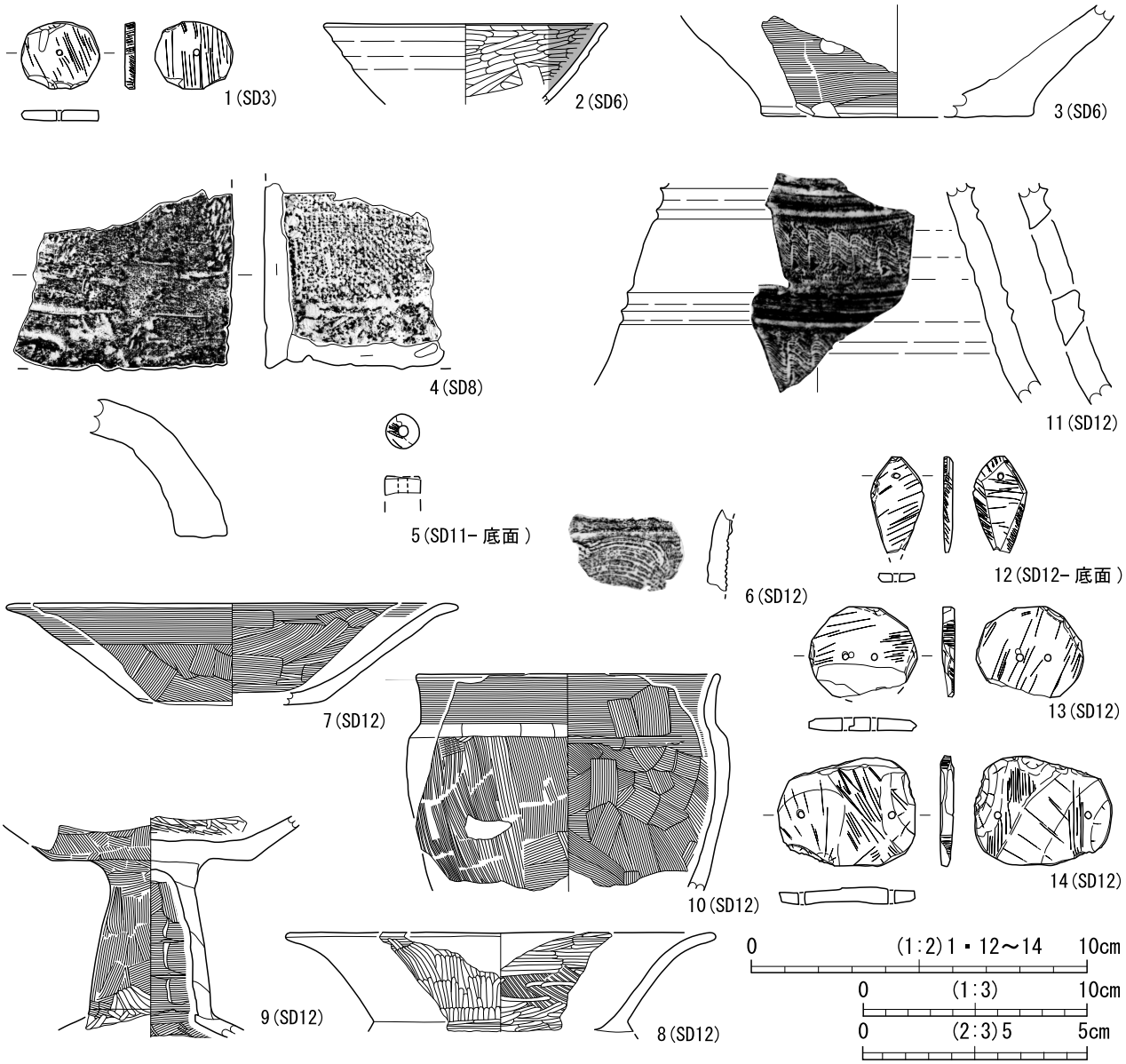
北部に位置する。重複する SD12 より古い。第 62 次調査で確認された SD26 と同じ溝跡である。上端の一部が SD12 の上端と重なって検出した。大半が SD12 により失われており、調査区の東側で残存していた。規模は、残存長 5.37 m、上端幅 0.38 ～ 0.64 m、下端幅 0.2 ～ 0.53 mである。深さは 37cm である。堆積土は 1 層で、褐灰色土のブロックを多量に含む人為堆積である。遺物は有孔石製品（第 30 図－ 2）が出土している。



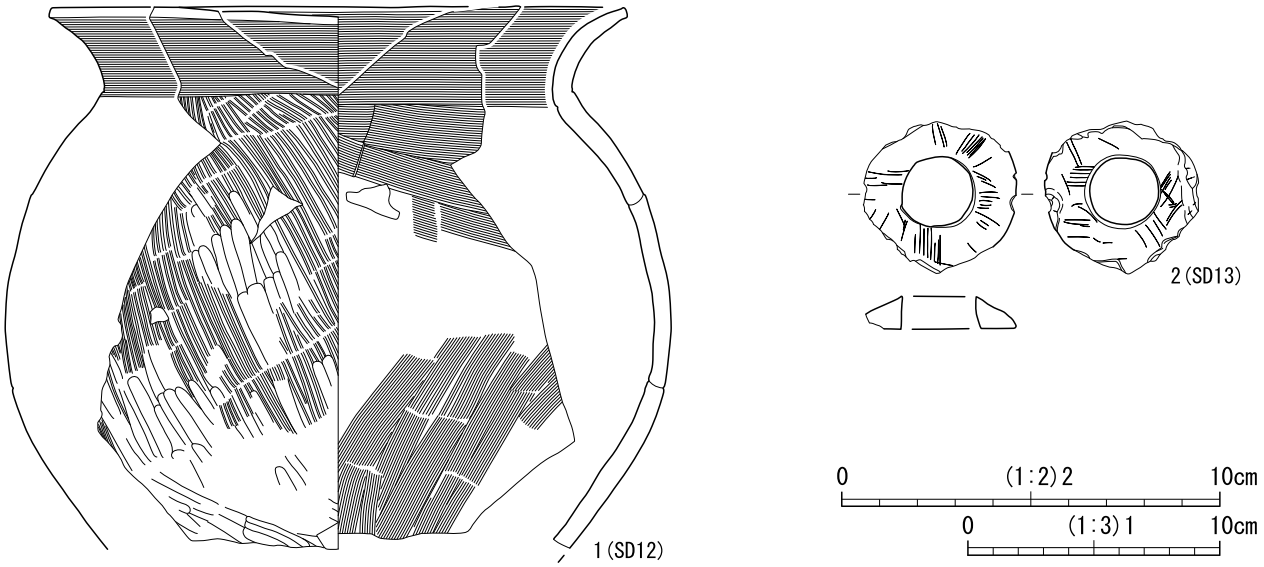
遺構名	グリッド	方　向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD2	B5・6、C5～7、D6・7	N-50° -W	(1460)	50～96	8～48	19	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	酸化した鉄分を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を微量含む。	SR1 より新しい。攪乱で北西・南東部が失われている。
SD3	E3・4	N-60° -W	(393)	74～126	41～80	26	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	基本層Ⅴ層を基調とした黄橙色ブロック、砂を含む。	SI3 より古い。攪乱で北西部が失われている。
							2	10YR5/1 褐灰色	シルト	基本層Ⅴ層を基調とした黄橙色ブロックを帯状に 5%含む。砂を含む。	
							3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰色ブロックを帯状に 3%含む。砂を含む。	
							4	10YR5/1 褐灰色	シルト	基本層Ⅴ層を基調とした黄橙色ブロックを 50%含む。遺物・炭化物を多く含む。	
							5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	やや粘質あり。砂を含む。	
							6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰色ブロックを帯状に 3%含む。砂を含む。	
							7	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	基本層Ⅴ層を基調とした黄橙色ブロック（20mm 程度）を 5%含む。砂を含む。	
SD5	H2	N-46° -W	(270)	61～72	43～44	30	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）、褐灰色土ブロック（10mm 程度）を含む。	攪乱で南東部が失われている。
							2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト		
							3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土（30mm 程度）を少量含む。	
							4	10YR4/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を含む。	
							5	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
							6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト		
							7	10YR7/6 明黄褐色	シルト		
							8	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
							9	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	
SD6	H2、I2、I3	N-59° -W	(637)	26～50	17～35	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土（20mm 程度）を含む。	SD9・Pit190 より新しい。
SD7	I3～5、J4・5	N-70° -W	(863)	23～79	14～57	12	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土（10mm 程度）を少量含む。	Pit193・194・201 より新しい。

第 28 図　SD 溝跡（3）

遺構名	グリッド	方　向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD8	I3・4、J3 ～ 5	N-61° -W ～ N-77° -W	(895)	76 ～ 97	44 ～ 72	19	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。	SX6 より古い。
SD9	H2、I2・3	N-55° -W	960	25 ～ 35	13 ～ 23	9	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	酸化した鉄分を含む。	SD6 より古い。
							2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。	
SD11	C4・5、D5・6、E6・7	N-56° -W	(1840)	87 ～ 164	59 ～ 140	13	1	10YR6/1 褐灰色	シルト	灰黄褐色ブロック土（10mm 程度）を含む。にぶい黄橙色土ブロック土（10mm 程度）、炭化物（5mm 程度）を微量含む。	SD12・13 より新しい。
							2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	浅黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量、炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
SD12	C4・5、D4 ～ 7、E6・7	N-56° -W	(1926)	211 ～ 304	162 ～ 215	33	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）と酸化した鉄分を多量に含む。	SD11 より古い。SD13 より新しい。
							2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（10mm 程度）と酸化した鉄分を含む。	
SD13	D6・7、E6・7	N-56° -W	(537)	(38 ～ 64)	(20 ～ 53)	37	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を多量に含む。	SD12 より古い。
SD15	E3、F3	N-35° -E	(440)	14 ～ 36	9 ～ 16	5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰白色土ブロック（5mm 程度）を含む。	Pit72 より古い。攪乱で南部が失われている。
SD16	E3・4、F3	N-34° -E	820	16 ～ 28	9 ～ 22	15	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。	Pit74 より古い。
							2	10YR4/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（10mm 程度）を含む。	



第 29 図　SD 溝跡出土遺物（1）



第 30 図　SD 溝跡出土遺物（2）

SD15（第 28 図）

中央部西側に位置する。重複する Pit72 より古い。攪乱により一部が失われている。規模は検出長 4.4 m、上端幅 0.14 ～ 0.36 m、下端幅 0.09 ～ 0.16 mである。断面形は皿形で、深さは 5cm である。

SD16（第 28 図）

中央部西側に位置する。重複する Pit74 より古い。北東－南西方向に延びるが、南側で一部途切れる。規模は長さ 8.20 m、上端幅 0.16 ～ 0.28 m、下端幅 0.09 ～ 0.22 mである。断面形はU字形で、深さは 15cm である。

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
								口径	底径	器高				
29-2	D-04	SD6	－	土師器	坏	底部欠損		12.4	－	(3.6)	ロクロナデ	ヘラミガキ	内面黒色処理	14-2
29-3	I-05	SD6	－	陶器	甕	底部		－	12.1	(5.0)	ナデ	－		14-5
29-6	B-01	SD12	－	弥生土器	壺か	胴部	弥生中期中葉	－	－	(3.15)	沈線文			14-4
29-7	C-19	SD12	－	土師器	高坏	坏部	古墳	18.9	－	(4.4)	口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ		14-7
29-8	C-20	SD12	－	土師器	高坏	坏部	古墳	19.2	－	(4.45)	ヘラミガキ	ハケメ→ヘラミガキ	二次焼成	14-8
29-9	C-21	SD12	－	土師器	高坏	口縁部・裾部欠損	古墳	－	－	(9.9)	坏部・脚部ユビナデ 裾部ヘラミガキ	坏部ヘラミガキ 脚部上半ヘラナデ 脚部下半ヘラナデ→ナデ→ヘラナデ		14-9
29-10	C-22	SD12	－	土師器	甕	口縁部～胴部	古墳	13.6	－	(9.7)	口縁部ヨコナデ 胴部ハケメ→ユビナデ→ヘラナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ		14-10
29-11	E-02	SD12	－	須恵器	器台	脚部		－	－	(9.3)	ロクロナデ 波状文	ロクロナデ	窓あり	14-11
30-1	C-23	SD12	－	土師器	甕	口縁部～胴部		23.2	－	21.0	口縁部ヨコナデ 胴上部ハケメ→ミガキ 胴下部ナデ	口縁部ヨコナデ 胴上部ヘラナデ 胴下部ナデ		15-1

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
								口径	底径	器高				
29-4	F-01	SD8	－	瓦	丸瓦	－		(8.3)	(6.1)	2.3	縄目→叩き痕	布目痕　ケズリ　側縁ケズリ		14-6

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	時期	法量（cm）			重さ（g）	石材	備　考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
29-1	K-07	SD3	－	石製品	石製模造品	古墳	2.3	2	0.3	3.0	滑石	鏡形	14-1
29-5	K-08	SD11	底面	石製品	管玉	古墳	(0.4)	0.8	－	0.3	滑石	下部欠損	14-3
29-12	K-09	SD12	底面	石製品	石製模造品	古墳	(2.9)	1.6	0.25	1.8	滑石	剣形	14-12
29-13	K-10	SD12	－	石製品	石製模造品	古墳	3.2	(2.7)	0.35	5.4	滑石	鏡形	14-13
29-14	K-11	SD12	－	石製品	石製模造品	古墳	4.1	3.2	0.4-0.5	9.6	滑石	鏡形	14-14
30-2	K-12	SD13	－	石製品	不明	－	(4.05)	(4)	0.85	12.0	凝灰岩	円孔あり	15-2

6. 性格不明遺構

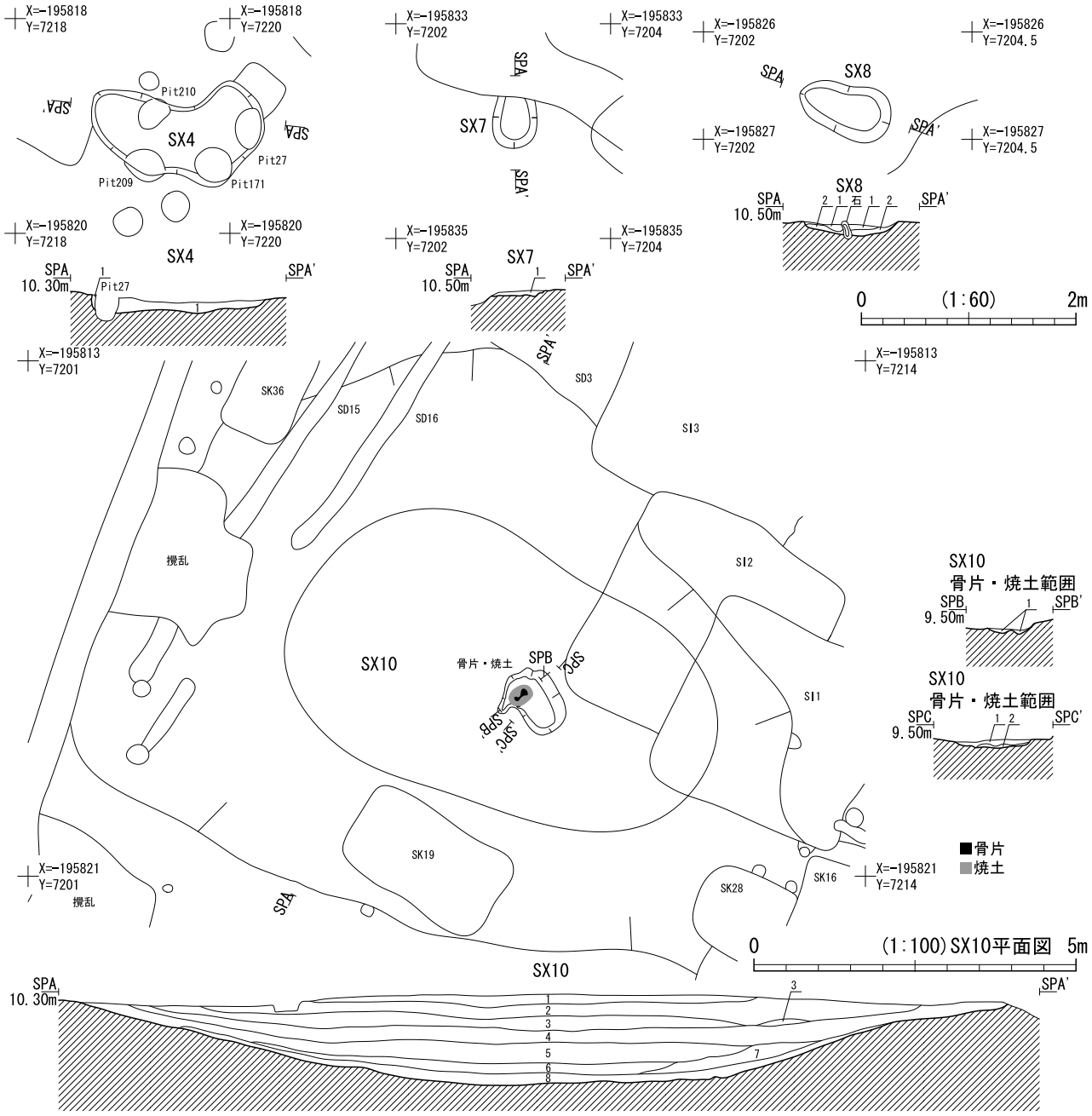
今回の調査では 6 基検出されており、そのうち 5 基を掲載した。

SX4（第 31 図）

F6 ～ G6 グリッドに位置する。重複する Pit27・171 より古く、SI5、Pit209・210 より新しい。平面形は不整形で、規模は長軸 1.62 m、短軸 0.63 ～ 1.00 mである。断面形は皿形で、深さは 18cm である。堆積土は 1 層である。

SX6（第 27 図）

J4 グリッドに位置する。重複する SD8 より新しい。攪乱により南部が失われている。平面形は不整形で、規模は長軸 1.03 m、短軸（0.65）mである。断面形は皿形で、深さは 4cm である。堆積土は 1 層である。



第 31 図　SX 性格不明遺構（2）

SX7（第 31 図）

I･J3 グリッドに位置する。攪乱により北部が失われている。平面形は隅丸長方形と推測され、規模は長軸（0.42）m、短軸 0.42 mである。断面形は皿形で、深さは 5cm である。堆積土は 1 層である。

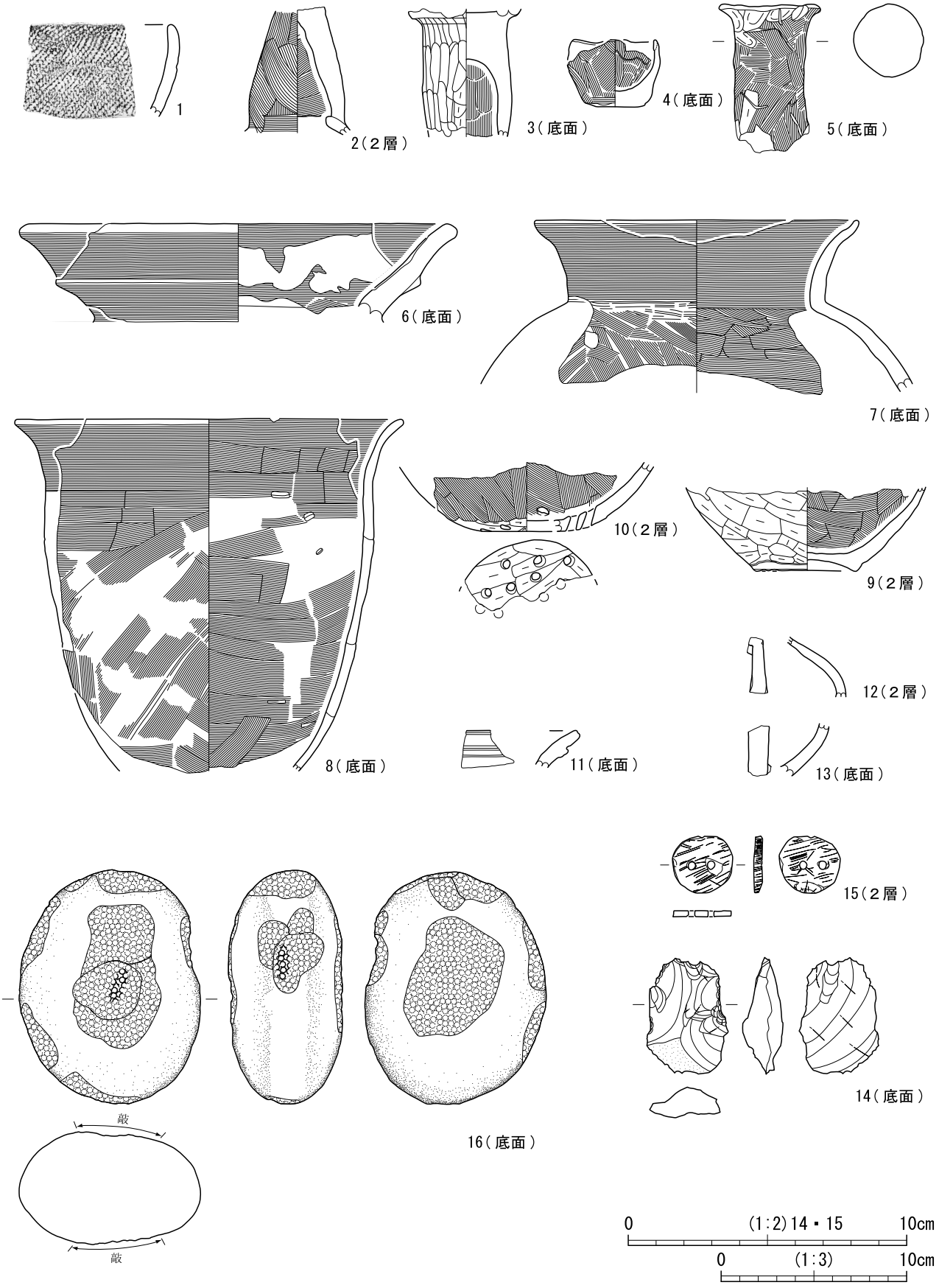
SX8（第 31 図）

H3 グリッドに位置する。平面形は不整楕円形で、規模は長軸 0.88 m、短軸 0.39 ～ 0.52 mである。断面形は弧状形で、深さは 13cm である。堆積土は 2 層に分層した。

SX10（第 31 図）

E3・4、F2 ～ 5、G3 ～ 5 グリッドに位置する。重複する竪穴建物跡や掘立柱建物跡、溝跡やピットや土坑などより古い。規模は長軸 11.58 m、短軸 8.86 mである。深さは 84cm である。8 グリッドにまたがる、断面形が皿状形の大規模な窪みである。堆積土は 8 層に分層され、自然堆積である。また、中央部の底面では、骨片や炭化物・焼土範囲を検出し、10mm 程度の骨片が多量出土している。遺物は縄文土器の深鉢の口縁部（第 32 図－ 1）、土師器の高坏（第 32 図－ 2・3）や甕（第 32 図－ 6 ～ 8）、壺（第 32 図－ 9）や甑（第 32 図－ 10）、須恵器（第 32 図－ 11 ～ 13）、ミニチュア土器（第 32 図－ 4）、支脚（第 32 図－ 5）、石器（第 32 図－ 14）、石製模造品（第 32 図－ 15）、礫石器（第 32 図－ 16）などが出土した。1 は縄文土器の口縁部で、外面には LR 縄文が施される。2 は高坏の脚部である。脚部と裾部の接続痕が明瞭に遺る。6 は甕の口縁部である。形状は外反し、二重口縁となる。7 は土師器の甕である。口縁部から頸・肩部にかけて残存する。口縁部は外反して立ち上がり、端部で若干内湾させている。8 は底部のみ欠損する。器壁は比較的薄く、口縁部は外反し端部を丸くおさめる。9 は壺の底部である。底面を窪ませた底部を持つ。10 は甑の底部片である。内外面ともにヘラナデ調整で、外面底部にはヘラケズリを残す。底部に直径 5mm ほどの孔が穿たれる。11 は須恵器の口縁部で、二重口縁となる。12・13 は須恵器の二重踵の胴部である。4 はミニチュアの土器で、内外面ともにユビナデが施されている。5 はかまどの支脚である。14 は二次加工がある剥片である。15 は鏡形の石製模造品である。16 は敲石である。表裏面の中央部分と側面に敲打痕がある。

遺構名	グリッド	方　向	規模（cm）			層位	土　色	土性	備　　考	重　　複
			長軸	短軸	深さ					
SX4	F6 ～ G6	－	162	63 ～ 100	18	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。	Pit27・171より古い。SI5、Pit209・210 より新しい。
SX6	J4	－	103	（65）	4	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	明黄褐色土ブロック（30mm 程度）を含む。	SD8より新しい。攪乱で南部が失われている。
SX7	I・J3	－	（42）	42	5	1	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を含む。焼土ブロック（10mm 程度）を少量含む。	攪乱で北部が失われている。
SX8	H3	N-70° -W	88	39 ～ 52	13	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（5mm 程度）を微量、酸化した鉄分を含む。	
						2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
SX10	E3・4、F2 ～ 5、G3 ～ G5	－	1158	886	84	1	10YR7/3 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色土（10mm 程度）を含む。酸化した鉄分を含む。	あらゆる遺構よりも古い。
						2	10YR6/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土（10mm 程度）を多量に含む。褐灰色土（10mm 程度）を含む。酸化した鉄分を含む。	
						3	10YR5/1 褐灰色	シルト	酸化した鉄分を多量に含む。土器を多量に含む。	
						4	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土ブロック（30mm 程度）を少量含む。土器を多量に含む。	
						5	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を微量含む。	
						6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（5mm 程度）を微量含む。	
						7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。酸化した鉄分を含む。	
						8	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄橙色土（30mm 程度）を含む。	
SX10 骨片・焼土範囲	F4	－	110	68	8	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	黒褐色土ブロック（50mm 程度）を少量、にぶい黄橙色ブロック（30mm 程度）を含む。骨片（10mm 程度）を多量含む。	B-B' セクション
						1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色土（50mm 程度）、炭化物（10mm 程度）、骨片（10mm 程度）を含む。	C-C' セクション
						2	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土。下部は被熱のため赤褐色化している。	



第 32 図　SX10 性格不明遺構出土遺物

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
								口径	底径	器高				
32-1	A-01	SX10	−	縄文土器	深鉢	口縁部	縄文晩期	−	−	(4.85)	LR 縄文	−		15-3
32-2	C-24	SX10	2 層	土師器	高坏	脚部	古墳	−	−	(6.65)	脚部ヘラナデ 裾部ヨコナデ	ヘラナデ		15-5
32-3	C-25	SX10	底面	土師器	高坏	脚部	古墳	−	−	(6.8)	下半ヘラケズリ→ヘラミガキ	ナデ		15-7
32-4	C-26	SX10	底面	土師器	ミニチュア土器	口縁部～底面		4.8	3.2	3.6	ユビナデ	ユビナデ		15-4
32-5	P-05	SX10	底面	土製品	支脚	−		−	−	(8.0)	上半ユビオサエ 下半ケズリ→ナデ	−	直径 5.4cm	15-6
32-6	C-27	SX10	底面	土師器	甕	口縁部	古墳	22.8	−	(5.3)	ヨコナデ	ヨコナデ	二重口縁　塩釜式	15-8
32-7	C-28	SX10	底面	土師器	甕	口縁部～肩部		17.3	−	(9.3)	口縁部ヨコナデ 胴部ナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ		15-9
32-8	C-29	SX10	底面	土師器	甕	底部欠損		21.0	−	(19.0)	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ→ナデ	口縁部ヨコナデ 口縁部下半～胴部ヘラナデ	内面圧痕あり	15-11
32-9	C-30	SX10	2 層	土師器	壺	底部		−	5.5	(4.5)	ヘラケズリ	ヘラナデ		15-12
32-10	C-31	SX10	2 層	土師器	甑	底部		−	−	(3.7)	体部ヘラナデ 底部ケズリ	ヘラナデ		15-10
32-11	E-03	SX10	底面	須恵器		口縁部		−	−	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ		15-13
32-12	E-04	SX10	2 層	須恵器	二重廻	胴部		−	−	(3.0)				15-14
32-13	E-05	SX10	底面	須恵器	二重廻	胴部		−	−	(2.15)				15-15

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	時期	法量（cm）			重さ（g）	石材	備　考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
32-14	K-02	SX10	底面	打製石器	剥片	縄文～弥生	4.15	2.9	1.45	12.4	流紋岩		15-16
32-15	K-13	SX10	2 層	石製品	石製模造品	古墳	2.2	2.05	0.2-0.3	2.4	滑石	鏡形	15-17
32-16	K-01	SX10	底面	礫石器	敲石	縄文～弥生	13.7	9.8	6.1	1118.4	安山岩		15-18

7. ピット

本調査区では、竪穴建物跡の柱穴や掘立柱建物跡、柱列跡の構成ピットを除き、214 基検出された。平面形は円形・楕円形・長楕円形・不整円形・不整楕円形と、円形基調である。規模は長径 9 ～ 45cm、深さは 3 ～ 73cm である。断面形は概ねＵ字形・Ｖ字形・長方形である。そのうち柱痕跡が確認されたものは、214 基のうち 35 基検出された。平面形は円形・楕円形・長楕円形・不整円形・不整楕円形である。規模は 21 ～ 45cm、深さは 7 ～ 73cm である。

Pit13 から土師器の甕（第 33 図－ 1）の口縁部が出土している。接合部は厚みを持ち、口縁端部に向かい外傾する。外面はヨコナデ、頸部にユビナデ、内面はヨコナデが施されている。

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
								口径	底径	器高				
33-1	C-32	Pit13	−	土師器	甕	口縁部	古墳	(21)	−	(3.3)	口縁部ヨコナデ 頸部ユビナデ	ヨコナデ		15-19

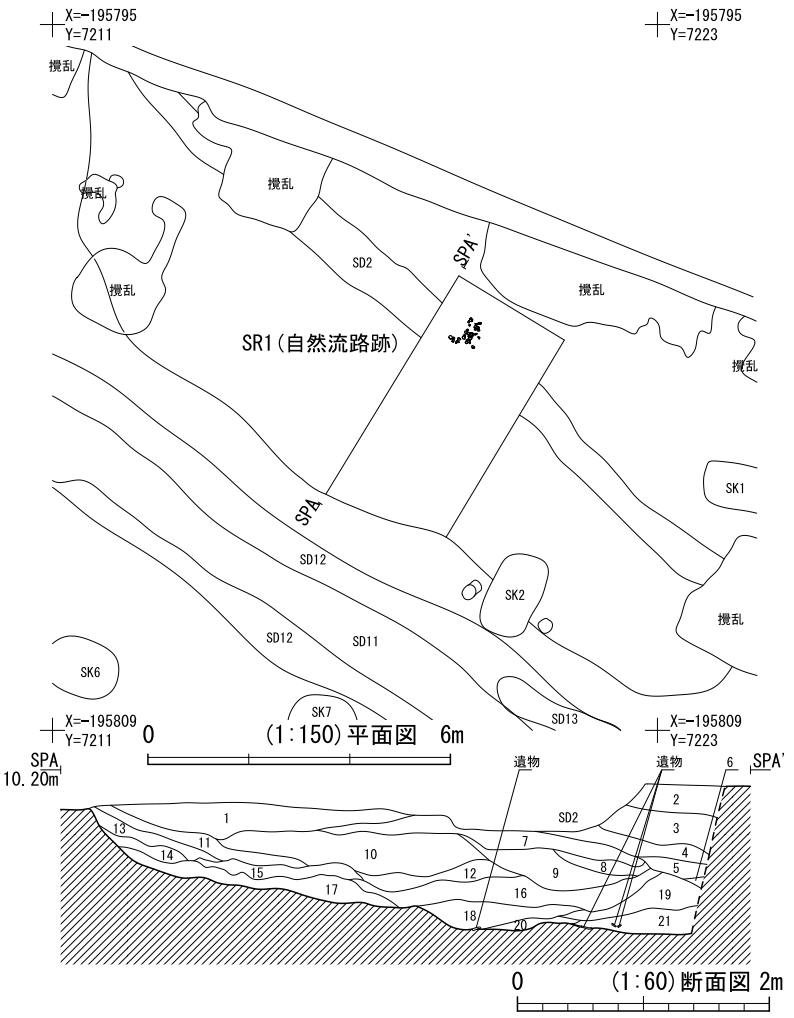
第 33 図　Pit13 ピット出土遺物

8. 自然流路跡

SR1（第 34・35 図）

調査区北端部で自然流路跡を確認した。重複するそのほかの遺構より古い。調査区西側で北方に彎曲すると考えられ、東西両端部と北辺は調査区外へ続く。第 62 次調査で確認された SD23 と同じ流路跡である。規模は、長さ 17.6 m、上端幅 6.0 m以上である。断面形は皿形で、深さは 1.14 mである。堆積土は 21 層に分層した。遺物は弥生時代の土器（第 35 図－ 1・2)、黒耀石製の石鏃（第 35 図－ 14・15)、片麻岩製の磨製石斧（第 35 図－ 16)、古墳時代の土師器の高坏（第 35 図－ 3 ～ 7)、甕（第 35 図－ 8 ～ 10)、鉢（第 35 図－ 11)、小型壺（第 35 図－ 12)、土玉（第 35 図－ 13)が出土した。1 は外面に LR 縄文が施される。口縁端部は内面から棒状工具で圧迫され波状を呈する。2 は甕で、口縁部に 2 本の平行沈線が施される。口縁端部内面をナデ調整し、端部を若干細くしている。3 は高坏で口縁部と裾部が欠損している。4 ～ 7 は高坏脚部である。4 は脚部と裾部はなだらかにつながる。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ、裾部はヘラナデ調整される。5 は外面はナデ調整の後ヘラミガキ、内面はヘラナデ調整される。裾端部には粘土が付け足された部分がある。6 は外面は脚部がヘラミガキ、裾部がヨコナデ調整される。7 は外面はヘラミガキ、

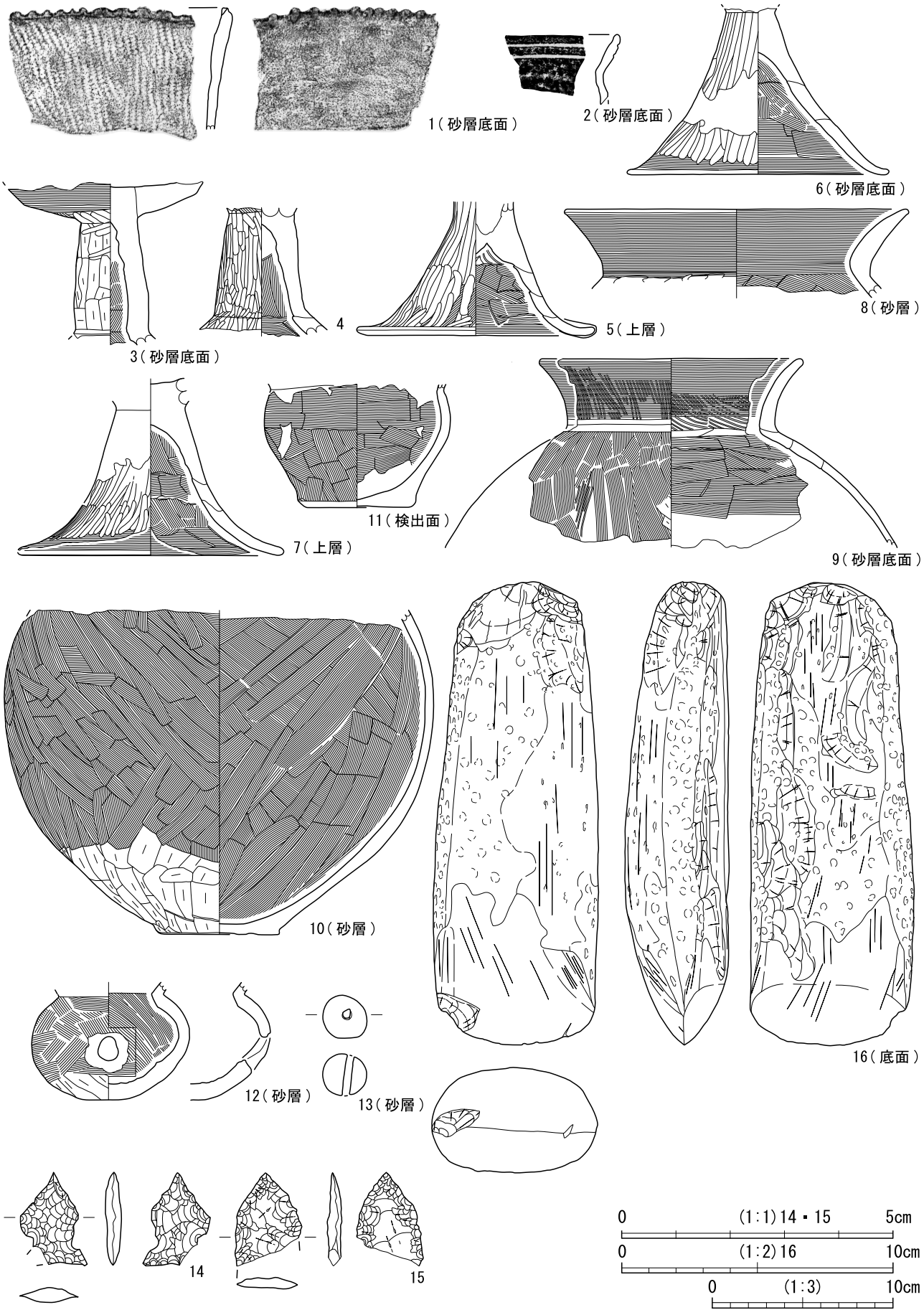
内面はヘラナデの後ユビナデ調整される。8 は甕の口縁部である。接合部で厚みを持ち、口縁部は外反する。口縁部は内外面ともヨコナデ、頸部以下はヘラナデ調整される。9 は甕で口縁部から肩部である。口縁部は頸部から外反する。10 は胴部である。器壁は比較的薄く、丸みを持って立ち上がる。焼成は良く、硬質である。11 は小型の鉢である。口縁部は欠損し不明である。外内面ともにヘラナデ調整される。12 は小型壺で、胴部のみ残る。焼成後、胴部に孔が 1 か所あけられている。外面は胴部はナデ調整の後、底部はヘラケズリ調整される。13 は土玉である。中心に直径 5mm 程度の孔が穿たれる。14･15 は黒耀石の石鏃である。14 はアメリカ式石鏃で、基部を一部欠損している。15 は基部を欠損している。16 は太型蛤刃石斧である。両主面には整形時の剥離痕が観察され、ほぼ全面に敲打痕とその後の研磨痕を残している。刃部は使用による欠損がある。



SR1　自然流路跡　堆積土註記表

層　位	土　色	土　性	備　　考	重　複
1	10YR6/1 褐灰色	シルト	酸化した鉄分を多量に含む。	
2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。	
3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。炭化物（5mm 程度）を少量含む。	
4	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄橙色土ブロック（30mm 程度）を含む。炭化物（50mm 程度）を微量含む。酸化した鉄分を微量含む。	
5	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	灰白色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。酸化した鉄分を微量含む。炭化物（5mm 程度）をごく微量含む。	
6	10YR7/2 にぶい黄橙色	シルト	酸化した鉄分を多量に含む。	
7	10YR6/3 にぶい黄橙色	細砂	炭化物（5mm 程度）をごく微量含む。	
8	10YR6/3 にぶい黄橙色	細砂	角礫（10mm 程度）や褐灰色土ブロック（10mm 程度）を多量に含む。	
9	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	角礫（10mm 程度）を含む。下ほど徐々に粒が粗く、明るい色調になる。	
10	10YR6/3 にぶい黄橙色	細砂	褐灰色細砂（幅 1mmほど）を縞状に含む。	
11	10YR7/2 にぶい黄橙色	シルト	炭化物（5mm 程度）を微量含む。	SK1・2、SD2 より古い。
12	10YR6/3 にぶい黄橙色	細砂	10 層よりも粒子がやや粗い細砂。酸化した鉄分を微量含む。	
13	10YR7/2 にぶい黄橙色	シルト	炭化物（5mm 程度）を微量含む。	
14	10YR6/1 褐灰色	シルト	酸化した鉄分を少量含む。	
15	10YR6/4 にぶい黄橙色	細砂	褐灰色土ブロックを層状に含む。	
16	10YR6/4 にぶい黄橙色	粗砂	厚さ 20 ～ 30mm の褐色砂層を含む。	
17	10YR5/1 褐灰色	シルト	炭化物（10mm 程度）、酸化した鉄分を含む。	
18	10YR6/2 灰黄褐色	粗砂	褐灰色細砂を層状に含む。	
19	10YR7/1 灰白色	シルト	酸化した鉄分を層状に多量に含む。	
20	10YR5/2 灰黄褐色	粗砂	角礫（5mm 程度）を含む。	
21	10YR6/2 灰黄褐色	細砂		

第 34 図　SR1 自然流路跡



第 35 図　SR1 自然流路跡出土遺物

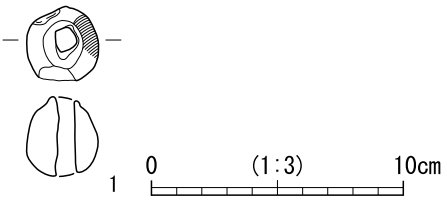
図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備　考	写真図版
								口径	底径	器高				
35-1	B-02	SR1	砂層底面	弥生土器	甕	口縁部	弥生後期	−	−	(6.7)	LR 縄文	ナデ	スス付着	16-1
35-2	B-03	SR1	砂層底面	弥生土器	甕	口縁部	弥生中期	−	−	(3.85)	口縁部 2 本の沈線	ナデ		16-2
35-3	C-33	SR1	砂層底面	土師器	高坏	口縁部・裾部欠損		−	−	(9.0)	坏部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ→ヘラミガキ	ナデ		16-6
35-4	C-34	SR1	−	土師器	高坏	脚部	古墳	−	−	(6.95)	ヘラミガキ	ナデ 裾部ヘラナデ		16-3
35-5	C-35	SR1	上層	土師器	高坏	脚部	古墳	−	13.2	(7.4)	ナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ		16-4
35-6	C-36	SR1	砂層底面	土師器	高坏	脚部	古墳	−	14.3	(9.2)	脚部ヘラミガキ 裾部ヨコナデ	脚部上半ユビナデ 脚部下半ヘラナデ 裾部ヨコナデ		16-5
35-7	C-37	SR1	上層	土師器	高坏	脚部	古墳	−	14.2	(9.8)	脚部ヘラミガキ 裾部ヨコナデ	ヘラナデ→ユビナデ		16-8
35-8	C-38	SR1	砂層	土師器	甕	口縁部～頸部	古墳	18.8	−	(4.9)	口縁部ヨコナデ 頸部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ		16-10
35-9	C-40	SR1	砂層底面	土師器	甕	口縁部～胴部	古墳	14.5	−	(10.5)	口縁端部ヨコナデ 口縁部ハケメ→ヨコナデ 頸部ナデ 胴部ハケメ→ユビナデ	口縁部ハケメ→ヨコナデ 頸部ハケメ 胴部ヘラナデ		16-9
35-10	C-41	SR1	砂層	土師器	甕	口縁部欠損	古墳	−	6.8	(18.0)	胴上部ヘラナデ 底部ヘラケズリ	ヘラナデ→ナデ→ヘラナデ		16-12
35-11	C-39	SR1	検出面	土師器	鉢	口縁部欠損		−	6.6	(6.8)	ヘラナデ	ヘラナデ		16-7
35-12	C-42	SR1	砂層	土師器	壺	胴部	古墳	−	2.7	(6.5)	胴部ナデ→ 底部ヘラケズリ	ナデ	焼成後、胴部に穿孔	16-11

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整	備　考	写真図版
								直径	全長	孔径			
35-13	P-03	SR1	砂層	土製品	土玉	−		2.25	2.4	0.4 ～ 0.45		13.8g	16-15

図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	時期	法量（cm）			重さ（g）	石材	備　考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
35-14	K-04	SR1	−	打製石器	石鏃	弥生	1.75	(1.25)	0.3	0.5	黒曜石	アメリカ式石鏃　基部の一部欠損	16-16
35-15	K-05	SR1	−	打製石器	石鏃	弥生	1.7	1.2	0.27	0.4	黒曜石	基部欠損	16-17
35-16	K-06	SR1	底面	磨製石器	太型蛤刃石斧	弥生	17.1	6.2	3.9	707.9	片麻岩		16-13

9. 遺構外出土の遺物

第 36 図－ 1 は土玉である。法量は 3.15 × 2.8cm を測る。中心に直径 7mm 程度の孔が穿たれる。ユビナデで整形されている。



図版番号	登録番号	出土地	層位	種別	器種	部位	時期	法量（cm）			外面調整	備　考	写真図版
								直径	全長	孔径			
36-1	P-04	F4	V 層	土製品	土玉	−		2.8	3.15	0.6 ～ 0.8	ナデ・ユビオサエ	22.1g	16-14

第 36 図　遺構外出土遺物

第６章　総括

南小泉遺跡第 68 次発掘調査地点は、遠見塚小学校の敷地内で、史跡遠見塚古墳の西側に位置している。今回の調査では竪穴建物跡 6 基、掘立柱建物跡 2 棟、柱列跡 2 列、土坑 42 基、溝跡 12 条、自然流路跡 1 条、性格不明遺構 6 基を確認した。本章では特に、検出遺構の主体を占める竪穴建物跡を中心として総括を行い、本報告のまとめとしたい。

1．竪穴建物跡について

竪穴建物跡 6 基は、調査区中央部の限られた範囲で重複して検出されている。SI5 と SI6 の新旧関係は不明であるが、重複関係より SI5・SI6 → SI4 → SI3 → SI2 → SI1 の順に建て替えが行われたことが確認される。竪穴建物跡の軸方向は東に 24 ～ 30° 偏しており、ほぼ同じ方向に造られている。また、堆積土が全て人為堆積であることから、一定の範囲内で、前の竪穴建物を取り壊して埋め戻し、新たに建て直していたものと考えられる。

竪穴建物跡の平面形は全て隅丸方形で、周溝と壁柱穴を伴っている。壁柱穴は建物の四隅とその中間の壁際で検出されている。壁柱穴には柱痕跡が確認されるものが多い。

SI1、SI3、SI4 には張出し部が付属している。張出し部の底面は、建物本体に向かって緩やかに傾斜しており、竪穴建物跡の出入り口と推定される。張出し部と建物本体の接続部寄りには、張出し部底面の両側に溝が敷設されている。同様の溝は SI2 でも確認されており、SI2 にも張出し部が付属していたものと考えられる。張出し部の位置は、SI1 ～ 3 では東壁側、SI4 では南壁側である。

SI1 ～ 4 の床面には炭化物と焼土が堆積しており、SI3 と SI4 では明瞭な焼けた痕跡も確認されている。炭化物と焼土が確認された位置は中央部ではなく、SI1 は建物の南西側、SI2 ～ 4 は北東側であり、中央部で確認されたものはない。

竪穴建物跡の時期を決定する遺物は出土していないが、SI1 と SI2 の堆積土中から中世陶器の甕の破片が出土しており、今回の調査で検出された竪穴建物跡は中世以降の時期に属すると考えられる。

今回の調査で検出された竪穴建物跡に類似する遺構は、仙台市内では、養種園遺跡第 2 次調査で確認されている（仙台市教委　2009）。中世後半の時期とされる SI203 竪穴建物跡は、張出し部は付属していないものの、壁柱穴が建物の四隅とその中間の壁際で検出され、1 辺に溝を伴っており、建物の構造的に類似している。また、壁柱穴は確認されていないが、南小泉遺跡第 11 次調査第 1 号土倉跡には、3 段の階段が張出し部状に付設されている（仙台市教委　1984）。時期は桃山時代から江戸時代初期である。これらとは別に、王ノ壇遺跡と養種園遺跡第 1 次調査では、鍛冶関連の施設と考えられる竪穴状の遺構が確認されている。鎌倉時代前半の時期に属すると考えられている王ノ壇遺跡 SI601 竪穴建物跡は壁柱穴を伴っており、床面中央のやや南寄りでは焼面が検出されている。堆積土中より羽口や鉄製品が出土している（仙台市教委 2000）。養種園遺跡第 1 次調査Ⅳ区 SI01 竪穴建物跡は、戦国期から江戸時代初期の時期とされ、遺構全体の 4 分の 1 程度の部分的な検出にとどまっているが、壁際に柱穴を伴い、鉄滓や湯玉が出土している（仙台市教委　1997）。

中世の竪穴建物跡は日本各地で確認されているが、出土遺物が少ないことなどから、遺構の性格については不明なところが多い。しかし、鎌倉で調査された竪穴建物跡の研究から、倉庫としての機能を持つものもあることが指摘されている（鈴木　2013）。一方、北東北で確認されている竪穴建物跡の中には出土遺物から鍛冶工房の機能を持つものもある（工藤ほか　2001）。今回の調査で確認された竪穴建物跡では鉄滓や羽口などの鍛冶に関わる遺物が出土していないことから、鍛冶関連の施設というよりはむしろ、倉庫跡の可能性が考えられるが、遺構の性格については、今後の類例の増加を待って検討したい。

竪穴建物跡の周辺には SK12 や SK20 などの方形の土坑が確認されている。堆積土は人為堆積で、竪穴建物跡と同様に人為的に埋め戻されている。SI1 及び SI5 と SK14 には重複関係があり、SK14 が新しい。このように新旧関係が認められる例もあるが、竪穴建物跡とほぼ同じ方向で造られていることから、近い時期に造られた遺構の可能性がある。

今回の調査地点の近辺で調査された第 17 次調査と第 30 次調査、第 67 次調査では、区画溝に囲まれた掘立柱建物

跡等で構成される中世の屋敷跡が確認されている。今回確認された遺構群はこれらの屋敷跡の北側に位置しており、居住の空間とは区別して造られていた可能性が考えられる。

2. まとめ

(1) 南小泉遺跡は、おもに広瀬川によって形成された標高 7 ～ 14 mの自然堤防上に立地している。

(2) 今回の調査によって検出された遺構は、竪穴建物跡 6 基、掘立柱建物跡 2 棟、柱列跡 2 列、土坑 42 基、溝跡 12 条、自然流路跡 1 条、性格不明遺構 6 基である。重複関係等から、自然流路跡・SD11・12・13 →掘立柱建物跡・柱列跡→竪穴建物跡→方形土坑という変遷が考えられる。ただし、竪穴建物跡と方形土坑の明確な新旧関係は、SI1 及び SI5 と SK14 に重複関係が確認できるのみであり、竪穴建物群から方形土坑群への大きな変遷を考える根拠としては充分とは言い難い。今後の調査事例の蓄積を待って、あらためて検討を加える必要がある。

(3) 竪穴建物跡は 6 基確認され、ほぼ同規模、同一方向に造られ、重複している。人為的な堆積状況を示していることから、一定の範囲内で建て替えが行われたものと考えられる。遺構の時期は中世もしくはそれ以降の可能性がある。

(4) 今回の調査では、縄文時代から中世までの遺物が出土した。

(5) 自然流路跡と SD12 から、古墳時代中期南小泉式期に属する土師器や石製模造品が出土している。SX10 からは古墳時代中期のものと考えられる二重廻の破片が出土しており、南小泉遺跡では第 30 次調査と第 67 次調査でも出土している。

(6) 弥生時代の遺構は確認されなかったが、自然流路跡から弥生土器、石鏃、太型蛤刃石斧など弥生時代の遺物が出土している。

参考文献

氏家和典　1957「東北土師器の形式分類とその編年」『歴史』第 14 輯

山田一郎・庄子貞雄　1980「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979』

仙台市教育委員会　1984『南小泉遺跡　都市計画街路建設工事関係第 3 次調査報告』　仙台市文化財調査報告書第 68 集

仙台市教育委員会　1990『南小泉遺跡　第 16 ～ 18 次発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書第 140 集

仙台市教育委員会　1996『中在家南遺跡他　仙台市荒井地区土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書』
仙台市文化財調査報告書第 213 集

仙台市教育委員会　1997『養種園遺跡　発掘調査報告書　―伊達家別荘跡の調査―』　仙台市文化財調査報告書第 214 集

仙台市教育委員会　1998『南小泉遺跡　第 30・31 次発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書第 226 集

田中則和　1999「一地域における中世から近世へ　―南小泉遺跡と養種園遺跡―（一）」
『六軒丁中世史研究　第 6 号』　東北学院大学中世史研究会

田中則和　2000「一地域における中世から近世へ　―南小泉遺跡と養種園遺跡―（二）」
『六軒丁中世史研究　第 7 号』　東北学院大学中世史研究会

仙台市教育委員会　2000『王ノ壇遺跡　都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査 1』
仙台市文化財調査報告書第 249 集

工藤清泰ほか　2001『掘立と竪穴　中世遺構論の課題』　高志書院

仙台市教育委員会　2008『南小泉遺跡　第 28 次発掘調査報告書　―都市計画道路「南小泉茂庭線」―関連遺跡調査報告書Ⅰ』
仙台市文化財調査報告書第 325 集

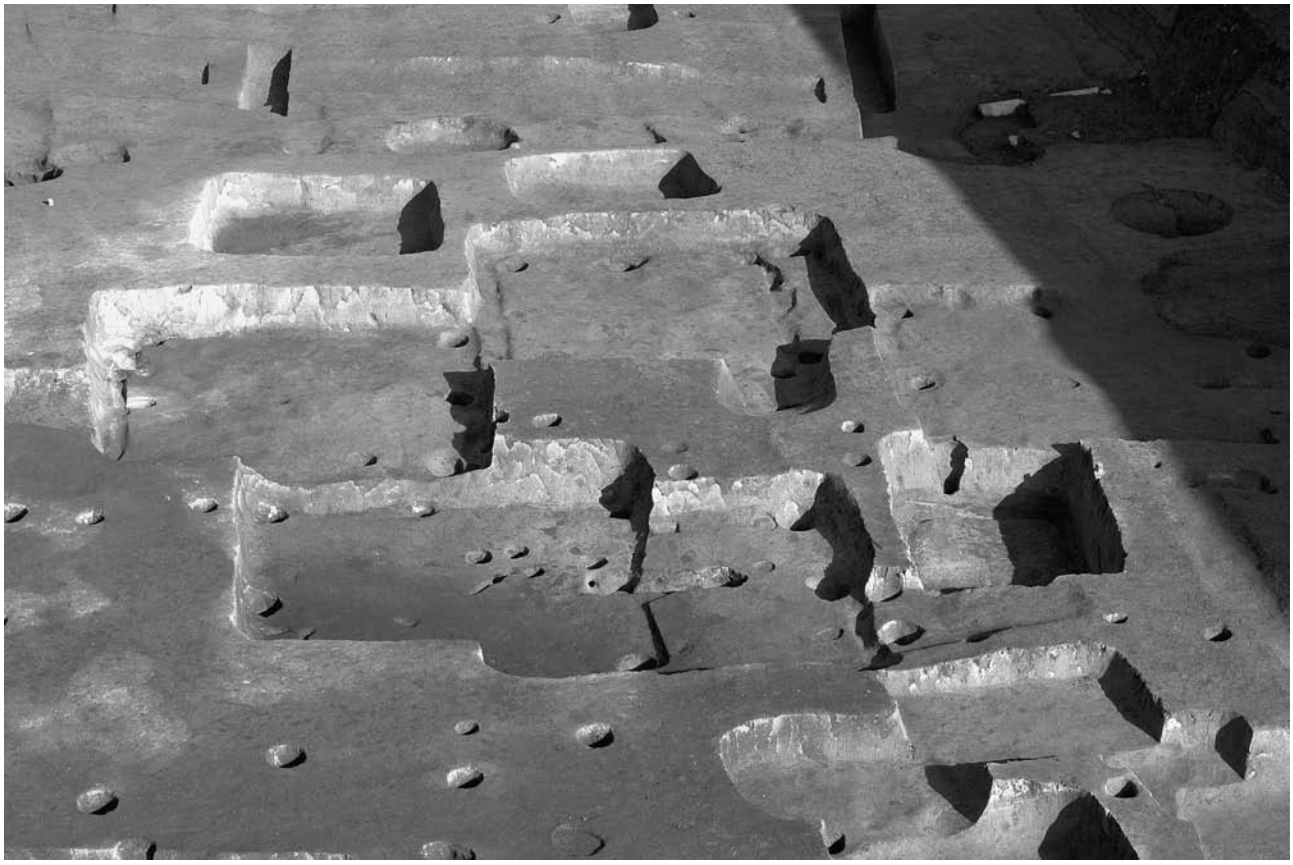
仙台市教育委員会　2008『南小泉遺跡他　発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書第 326 集

仙台市教育委員会　2009『養種園遺跡第 2 次　保春院前遺跡　発掘調査報告書　―都市計画道路「南小泉茂庭線」―
関連遺跡調査報告書Ⅱ』　仙台市文化財調査報告書第 344 集

仙台市教育委員会　2012『南小泉遺跡　第 62 次発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書第 408 集

鈴木弘太　2013『ものが語る歴史 29　中世鎌倉の都市構造と竪穴建物跡』　同成社

調査区全景（南西から）

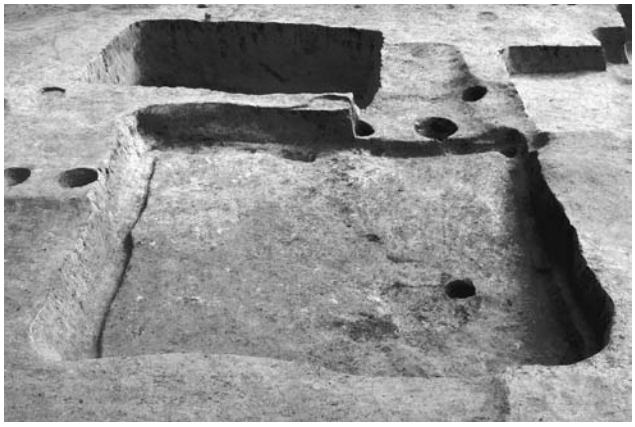


竪穴建物跡群（南西から）

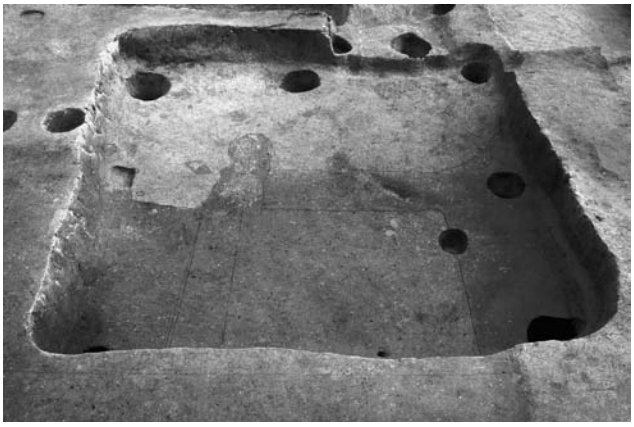
写真図版１　調査区全景・竪穴建物跡群

基本土層①（北西から）

基本土層⑥（北西から）



SI1 全景（北西から）



SI1 完掘（北西から）

SI2 全景（北西から）

SI2 完掘（北西から）

SI3 全景（南東から）

SI3 完掘（北西から）

写真図版２　基本土層・竪穴建物跡

SI4 全景（南東から）

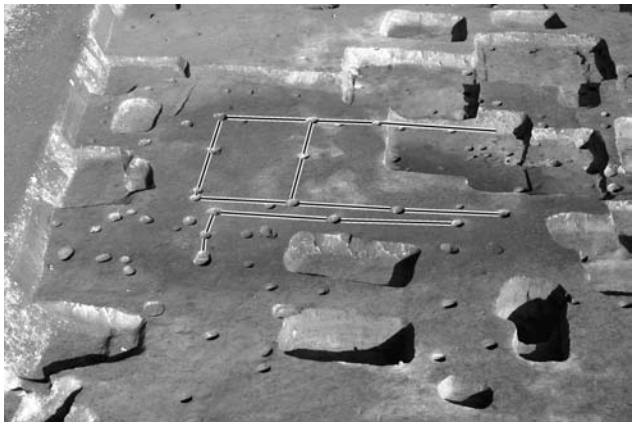
SI4 完掘（南東から）

SI5 土層断面（南東から）

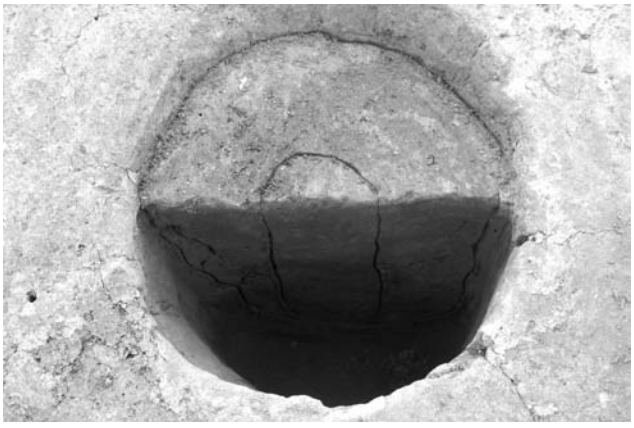
SI5 全景（南東から）

SI6-P3 土層断面（南西から）

SI6 全景（北東から）

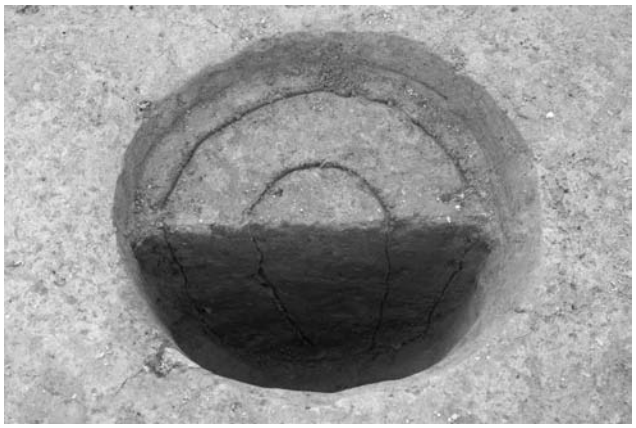


SB1・2 全景（南西から）



SB1-P62 土層断面（北東から）

写真図版３　竪穴建物跡・掘立柱建物跡

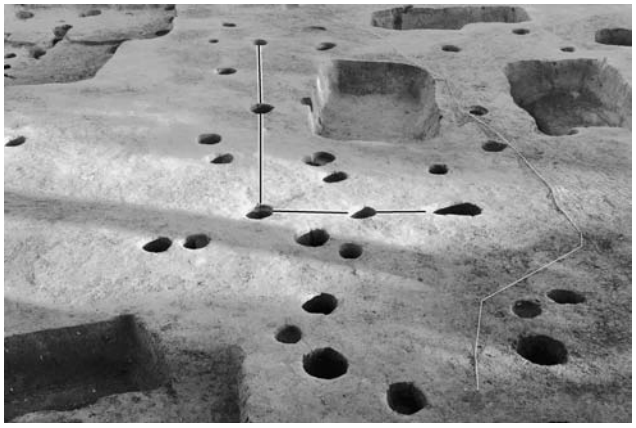


SB1-P104 土層断面（北東から）

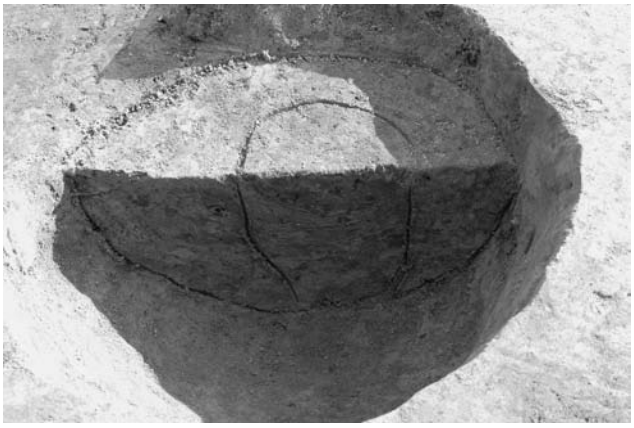
SB1 全景（北西から）

SB2-P97 土層断面（北西から）

SB2-P102 土層断面（南西から）



SB2 全景（北西から）



SA1-P166 土層断面（北西から）

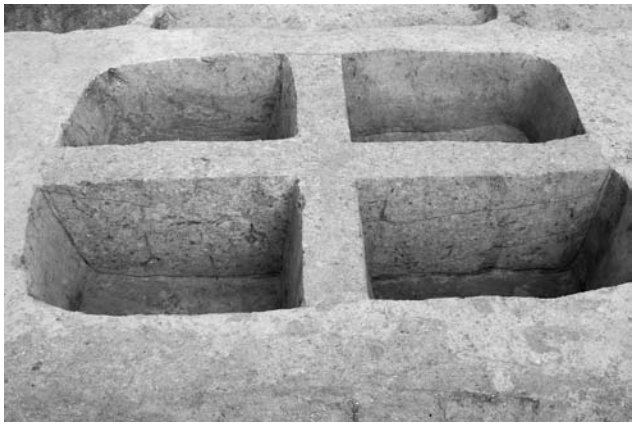
SA1 全景（南西から）

SA2 全景（北西から）

写真図版 4　掘立柱建物跡・柱列跡

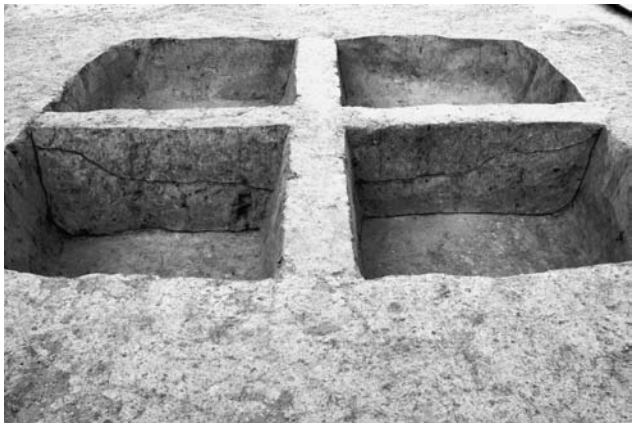
SK1 土層断面（南西から）

SK1 完掘（南西から）

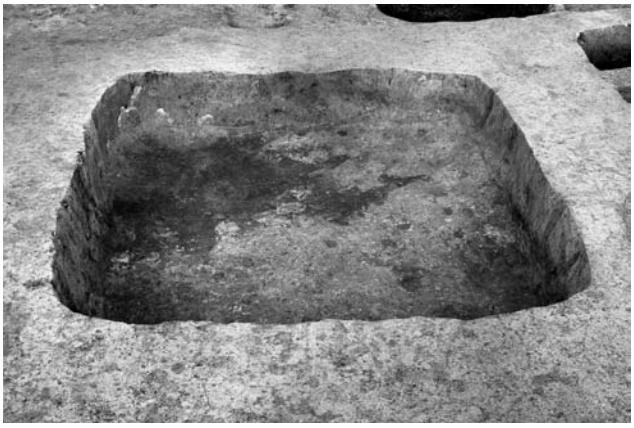


SK11 土層断面（南西から）

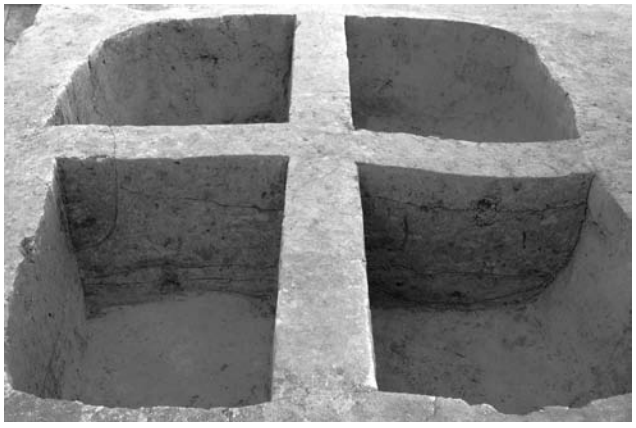
SK11 完掘（北東から）



SK12 土層断面（南西から）



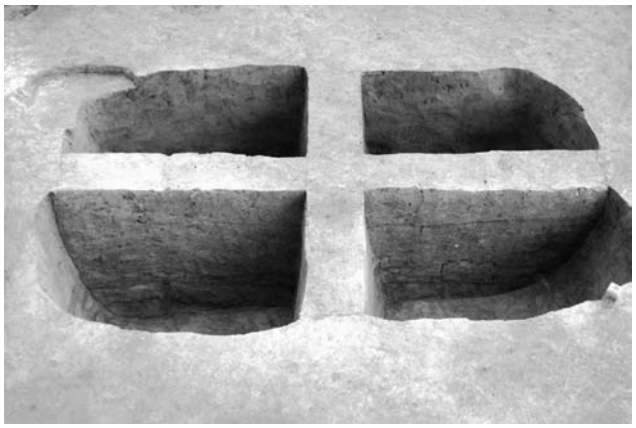
SK12 完掘（南西から）



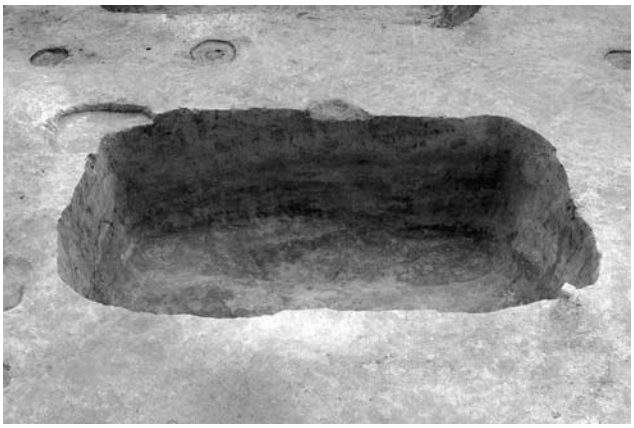
SK17 土層断面（北西から）

SK17 完掘（北西から）

写真図版５　土坑



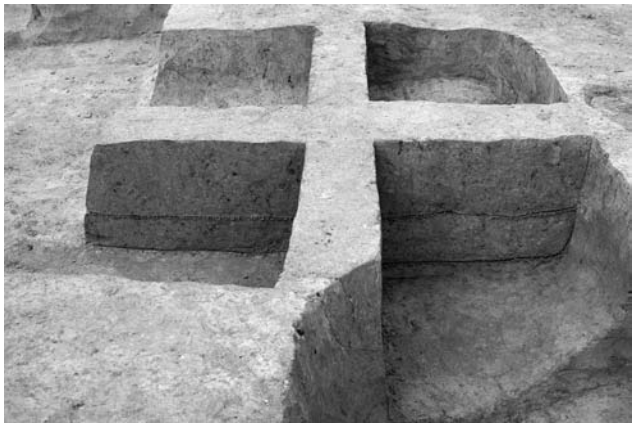
SK20 土層断面（南西から）



SK20 完掘（南西から）

SK29 土層断面（南東から）

SK29 完掘（南東から）



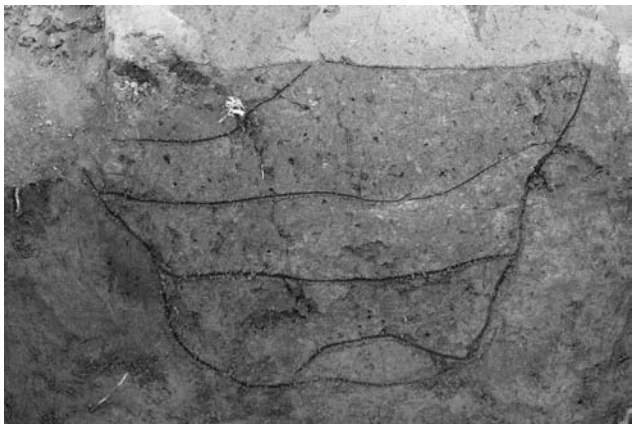
SK42 土層断面（南西から）

SK42 完掘（北西から）

SK43 壁面土層断面（南東から）

SK43 完掘（南東から）

写真図版 6　土坑


SK44 土層断面（南東から）

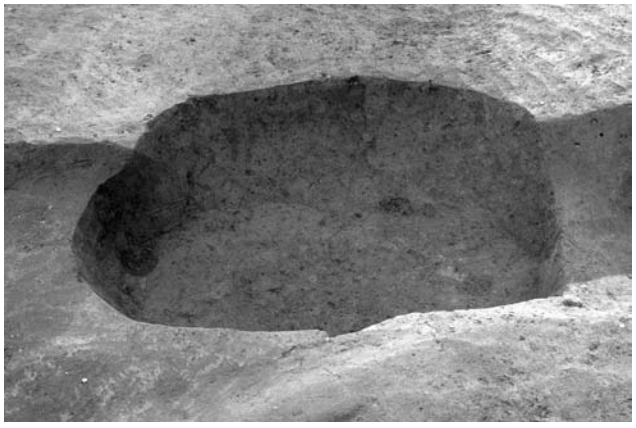
SK44 完掘（南東から）

SK50 土層断面（南西から）

SK50 完掘（北西から）

SK54 土層断面（北東から）

SK54 遺物出土状況（北東から）


SK54 完掘（北東から）

SK55 土層断面（北東から）

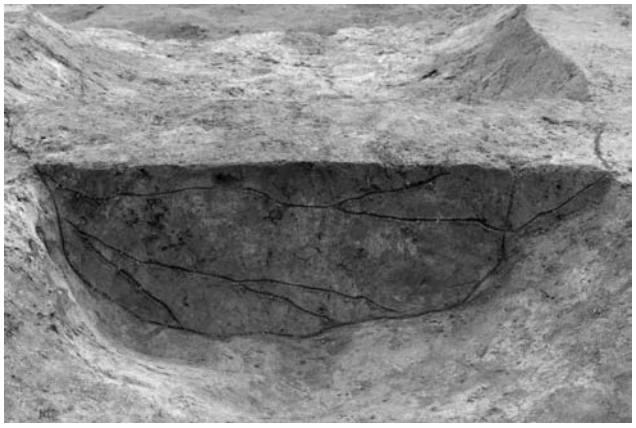
写真図版 7　土坑

SK55 遺物出土状況（北から）

SK55 完掘（東から）

SD2 土層断面（南東から）

SD2 完掘（南東から）


SD3 土層断面（北西から）

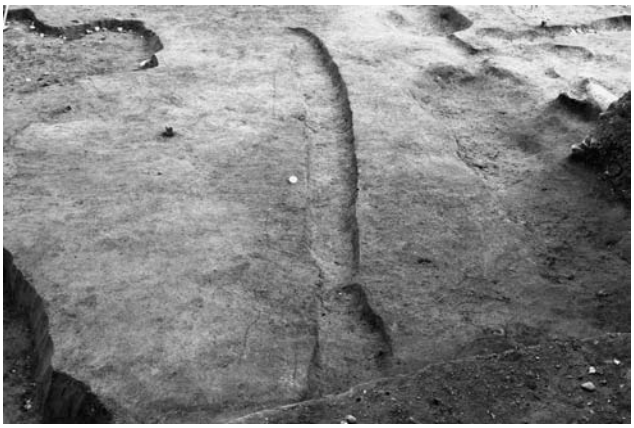
SD3 完掘（北西から）

SD5 土層断面（南東から）

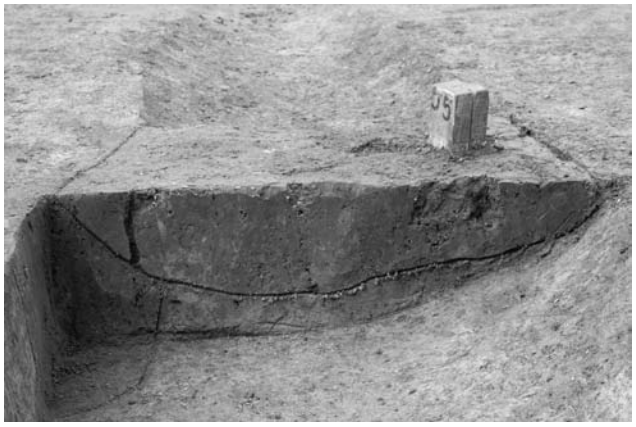
SD5 完掘（北西から）

写真図版 8　土坑・溝跡

SD6 土層断面（北西から）



SD6 完掘（北西から）



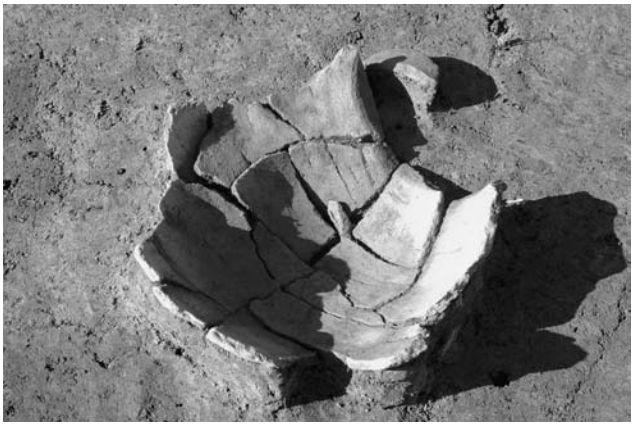
SD7 土層断面（南東から）

SD7 完掘（南東から）

SD8・SX6 土層断面（南東から）

SD8 完掘（南東から）

SD11・12 土層断面（南東から）



SD12 遺物出土状況（南東から）

写真図版９　溝跡

SD11・12・13 完掘（北西から）

SD16 土層断面（南西から）

SD16 完掘（北東から）

SX10 土層断面（南東から）

SX10 完掘（南東から）

SR1 確認状況（北西から）

SR1 土層断面（南東から）

SR1 遺物出土状況（南東から）

写真図版 10　溝跡・性格不明遺構・自然流路跡

1
K-03（第 6 図 -1）

2
I-01（第 6 図 -2）

3
P-01（第 8 図 -1）

4
I-02（第 8 図 -2）

5
C-01（第 10 図 -1）

6
C-02（第 23 図 -1）

7
C-05（第 23 図 -2）

8
C-03（第 23 図 -3）

9
C-04（第 23 図 -4）

10
I-03（第 23 図 -5）

11
D-01（第 23 図 -8）

12
C-06（第 23 図 -9）

13
J-01（第 23 図 -7）

14
I-04（第 23 図 -6）

15
D-02（第 24 図 -3）

16
C-07（第 24 図 -2）

17
D-03（第 24 図 -4）

18
K-14（第 24 図 -1）

P-06（第 24 図 -5）

19

1・2：SI1　3・4：SI2　5：SI3　6：SK2　7 ～ 9：SK3　10：SK6　11：SK18
12：SK20　13：SK17　14：SK12　15・17・19：SK43　16：SK28　18：SK23　1（S＝1：1）　3（S＝1：2）　その他（S＝1：3）

写真図版 11　竪穴建物跡・土坑出土遺物

1

E-01（第 24 図 -6）

2

C-09（第 24 図 -7）

C-08（第 24 図 -8）

3

4

C-10（第 24 図 -9）

5

C-13（第 25 図 -3）

6

C-12（第 25 図 -1）

7

C-14（第 25 図 -4）

1：SK44　2・3：SK54　4 ～ 7：SK55　全て（S＝1：3）

写真図版 12　土坑出土遺物

C-11（第 25 図 -5）

J-02（第 25 図 -6）

C-18（第 25 図 -10）

P-02（第 25 図 -7）

1

5

C-17（第 25 図 -8）

6

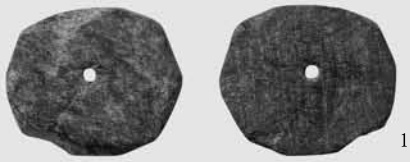
C-16（第 25 図 -9）

7

C-15（第 25 図 -2）

1・7：SK55　2：SK56　3：SK60　4 ～ 6：SK61　2・3（S＝1：2）　その他（S＝1：3）

写真図版 13　土坑出土遺物



1
K-07（第 29 図 -1）

2
D-04（第 29 図 -2）

3
K-08（第 29 図 -5）

4
B-01（第 29 図 -6）

5
I-05（第 29 図 -3）

6
F-01（第 29 図 -4）

7
C-19（第 29 図 -7）

8
C-20（第 29 図 -8）

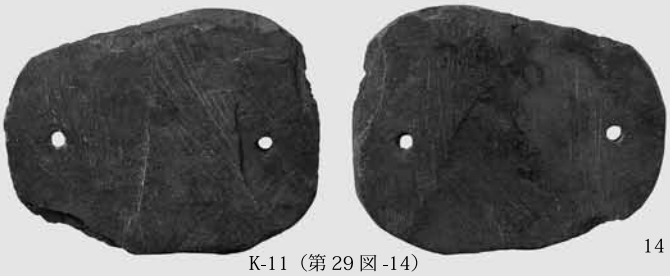
9
C-21（第 29 図 -9）

10
C-22（第 29 図 -10）

11
E-02（第 29 図 -11）

12
K-09（第 29 図 -12）

13
K-10（第 29 図 -13）



14
K-11（第 29 図 -14）

1：SD3　2・5：SD6　3：SD11　6：SD8　4・7 ～ 14：SD12　1・3・12 ～ 14（S＝1：1）　その他（S＝1：3）

写真図版 14　溝跡出土遺物

1
C-23（第 30 図 -1）

2
K-12（第 30 図 -2）

3
A-01（第 32 図 -1）

4
C-26（第 32 図 -4）

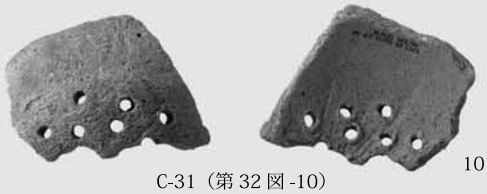
5
C-24（第 32 図 -2）

6
P-05（第 32 図 -5）

7
C-25（第 32 図 -3）

8
C-27（第 32 図 -6）

9
C-28（第 32 図 -7）


10
C-31（第 32 図 -10）

11
C-29（第 32 図 -8）

12
C-30（第 32 図 -9）

13
E-03（第 32 図 -11）

14
E-04（第 32 図 -12）

15
E-05（第 32 図 -13）

16
K-02（第 32 図 -14）

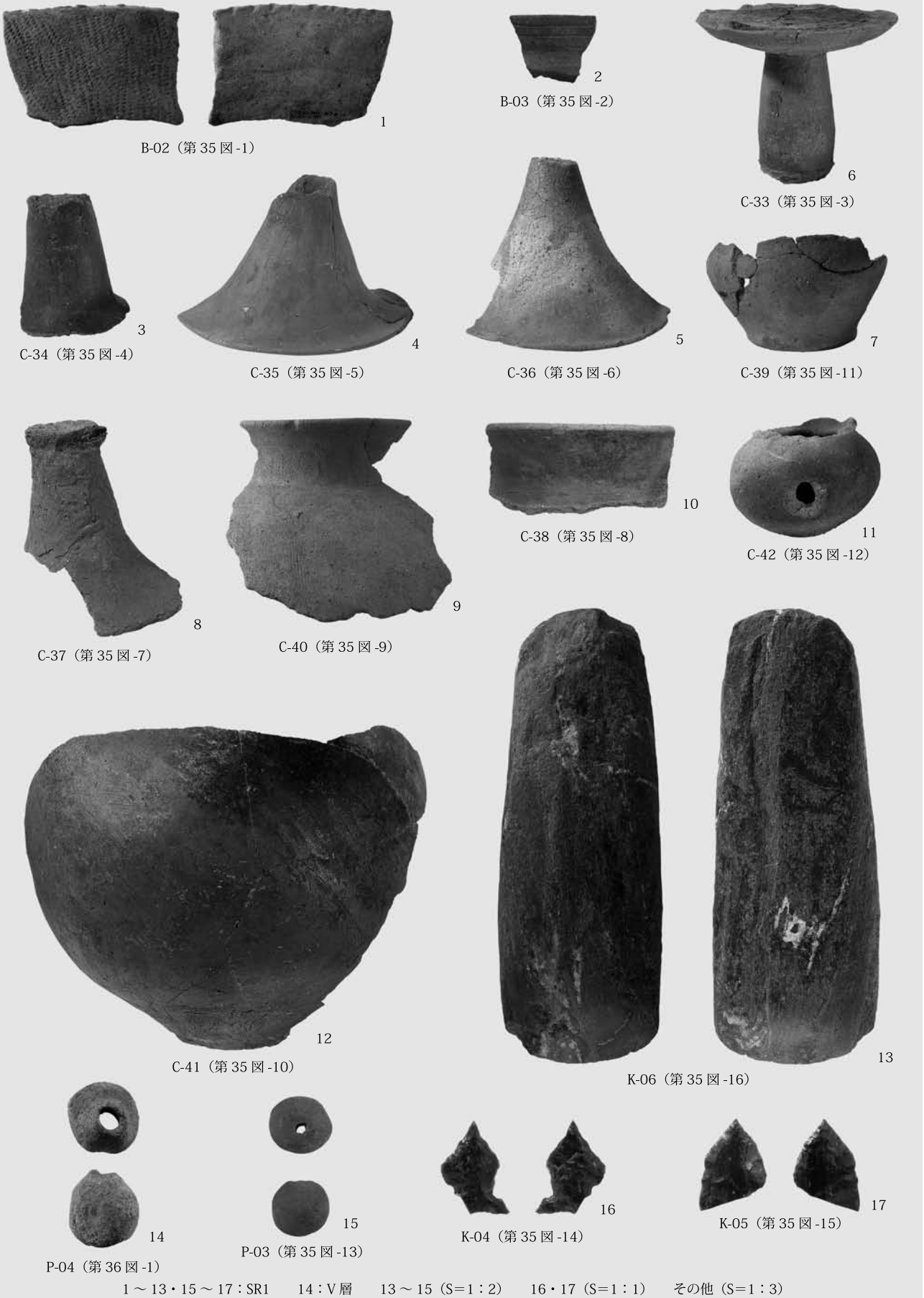
17
K-13（第 32 図 -15）

18
K-01（第 32 図 -16）

19
C-32（第 33 図 -1）

1：SD12　2：SD13　3 ～ 18：SX10　19：Pit13　2・13 ～ 15（S=1：2）　16（S=2：3）　17（S=1：1）　その他（S=1：1）

写真図版 15　溝跡・性格不明遺構・ピット出土遺物



写真図版 16　自然流路跡・Ⅴ層出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	みなみこいずみいせき　だい 68 じはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	南小泉遺跡　第 68 次発掘調査報告書
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 420 集
編著者名	主濱光朗　荒井　格　庄子裕美　松井　智　中俣　茂
編集機関	仙台市教育委員会
所 在 地	〒 980-0811　仙台市青葉区一番町 4-1-25　TEL 022-214-8899
発行年月日	2014 年 3 月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみこいずみいせき 南小泉遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 わかばやしくとおみづか 若林区遠見塚 ちょうめ 1 丁目 ばんちごう 22 番地 1 号	04100	01021	38° 14′ 19″	140° 54′ 44″	2012.09.27 ～ 2013.01.17	839㎡	学校プール 改築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南小泉遺跡	集落跡 （集落縁辺部）	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代～中世	土坑 掘立柱建物跡 竪穴建物跡	縄文土器 弥生土器・石器 土師器・須恵器 碧・石器 陶器・青磁	竪穴建物跡を 6 基検出した。

要約

竪穴建物跡 6 基、掘立柱建物跡 2 棟、柱列跡 2 列、土坑 42 基、溝跡 12 条、自然流路跡 1 条、性格不明遺構 6 基を確認した。竪穴建物跡は壁柱穴と周溝を伴っており、張出し部を付属しているものが多い。

仙台市内では、王ノ壇遺跡、養種園遺跡等で竪穴建物跡が確認されており、中世の遺構と考えられている。今回の調査で検出された竪穴建物跡はこれらに類似しており、堆積土中から中世陶器が出土していることから、時期は中世の可能性が高い。

仙台市文化財調査報告書第 420 集

南　小　泉　遺　跡

第 68 次発掘調査報告書

2014 年 3 月

発　行　仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区一番町 4 － 1 － 25
文化財課　022（214）8899

印　刷　今野印刷株式会社
宮城県仙台市若林区六丁の目西町 2 － 10
022（288）6123